

# 社会学文献目録

Bibliography of Japanese Sociology

Vol. 2.

1 9 9 9

日本社会学会データベース委員会  
Database Committee, Japan Sociological Society

## 『社会学文献目録』 Vol.2 の発行にあたって

2001年10月

日本社会学会データベース委員会

数年間にわたる日本社会学会前任データベース委員会の努力を経て1998年10月から「社会学文献情報データベース」が、旧文部省学術情報センター（2000年4月より国立情報学研究所に改組）および本委員会の直轄サイトを通して公開されるようになっていく。

従って、社会学文献に関する情報は主要にはウェブサイトを通して提供されることとなっているが、他方、冊子目録という形での文献情報の利便長所も依然として無視しがたい。本委員会では昨年、1998年発表文献について『社会学文献目録』Vol.1の形で冊子を刊行し、本年度も引き続きVol.2を発行することとなった。冊子の形式、収録範囲等はVol.1と基本的に同様である。Vol.2での改善点としては、表紙・目次に加え、本文の各分類項目カテゴリーと奥付・入手方法にも新たに英訳を併記した。また、日本社会学会の欧文機関誌である International Journal of Japanese Sociology (IJJS) の掲載論文は、従来は文献調査への無回答による欠落が多かったが、委員会独自の調査に基づき、1999年に掲載された全てを収録した。なお本冊子は、前期委員会任期中の作業によるところが大きいので、日本語版奥付には前期委員会の構成も併記させていただいた。

本冊子は、会員の文献調査回答に基づいて作成しており、この機会に回答をお寄せいただいた方々に感謝したい。残念ながら項目の誤記や欠落も少なくなく、可能な範囲で補足・修正したが、完璧は期し難い。それでも活用されれば研究・教育にきわめて有効である。ただ現在、入手方法（本冊子の奥付参照）が郵便だけに限られており、学会員諸氏や学会外の潜在需要に十分には応え得ていない状況にある。この点についてのご提案も含めて、お気づきの点（誤記、不備等）を下記の直轄サイトにお知らせ下されれば幸いである。

直轄サイト（2001年10月現在）[どなたでも無料で利用できます]

社会学文献情報データベース

富山大学サイト <http://jinbun1.hmt.toyama-u.ac.jp/Socio/jss/index.html>

名古屋大学サイト <http://www.sociodb.lit.nagoya-u.ac.jp/default.htm>

（ただし2001年10月現在、両サイトとも不正アクセスへの対処のため、やむなく休止中。最新情報は日本社会学会ホームページ（本冊子奥付を参照）で提供予定。）

本冊子の収録内容

### ・収録範囲

次の1)、2)の文献のうち、1999年に刊行された文献。ただし本冊子では、文献資料種別が「IV. その他」の著作（書評等。書評論文は収録）は紙幅の関係で割愛した。

1) 日本社会学会・社会学関連学会（現在は家族社会学会のみ）会員著作の社会学関係文献（会員への文献調査回答に基づく）

2) International Journal of Japanese Sociology (IJJS) の掲載記事

・掲載件数： 約 1,400 件

・字体： ウェブサイトでは表示が困難な JIS 第1・2水準外の文字（拡張漢字、中国等の漢字、ハングル、アクサン等の音標符号付アルファベット等）も本来の表記で印刷。

## 目 次 (CONTENTS)

はしがき (Preface) .....	i
I. 著書・編書の部 (Books) .....	1
II. 翻訳の部〔日本語訳〕 (Translations into Japanese) .....	5
III. 論文の部 (Articles) .....	6
1. 社会哲学・社会思想・社会学史 (Social Philosophy, Social Thought, History of Sociology) .....	6
2. 一般理論 (General Theory) .....	9
3. 社会変動論 (Social Change) .....	11
4. 社会集団・組織論 (Social Group, Organization) .....	11
5. 階級・階層・社会移動 (Class, Stratification, Social Mobility) .....	12
6. 家 族 (Family) .....	13
7. 農漁山村・地域社会 (Rural/Fishing/Mountain Village, Community) .....	18
8. 都 市 (Urban Society) .....	20
9. 生活構造 (Life Structure) .....	23
10. 政治・国際関係 (Politics, International Relations) .....	23
11. 社会運動・集合行動 (Social Movement, Collective Behavior) .....	25
12. 経営・産業・労働 (Management, Industry, Labor) .....	26
13. 人 口 (Population) .....	27
14. 教 育 (Education) .....	28
15. 文化・宗教・道徳 (Culture, Religion, Morality) .....	31
16. 社会心理・社会意識 (Social Psychology, Social Consciousness) .....	34
17. コミュニケーション・情報・シンボル (Communication, Information, Symbol) .....	35
18. 社会病理・社会問題 (Social Pathology, Social Problems) .....	37
19. 社会福祉・医療 (Social Welfare, Medical Care) .....	38
20. 計画・開発 (Planning, Development) .....	40
21. 社会学研究法 (Research Methods in Sociology) .....	40
22. 経 済 (Economy) .....	40
23. 社会史・民俗・生活史 (Social History, Folklore, Life History) .....	40
24. 法 律 (Law) .....	41
25. 民族問題・ナショナリズム (Ethnic Problems, Nationalism) .....	42
26. 比較社会・地域研究〔エリアスタディ〕 (Comparative Study, Area Study) .....	43
27. 差別問題 (Discrimination Problems) .....	44
28. 性・世代 (Gender, Generation) .....	45
29. 知識・科学 (Knowledge, Science) .....	46
30. 余暇・スポーツ (Leisure, Sports) .....	47
31. 環 境 (Environment) .....	47
33. 総論・概説 (Sociology, General) .....	48
99. その他 (Others) .....	48

## I. 著書・編書の部 (Books)

- 安達正嗣『高齢期家族の社会学』(iv+235p. 世界思想社 2100円)
- 鯨坂 学・高原一隆『地方都市の比較研究』(342p. 法律文化社 9500円)
- 赤川 学『セクシュアリティの歴史社会学』(496p. 勁草書房 5000円)
- 秋元律郎『知識社会学と現代：K. マンハイム研究』(373p. 早稲田大学出版部 6400円)
- 秋元律郎・坂田正顕(編)『現代社会と人間』(256p. 学文社 2800円)
- 秋山ひさ『明治期日本の異文化交流と社会学』(261p. 大空社 2800円)
- 天野正子『老いの近代』(258p. 岩波書店 2300円)
- 青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『市民性の変容と地域・社会問題：21世紀の市民社会と共同性：国際化と内面化』  
(『21世紀の市民社会と共同性』xiv+341p. 梓出版社 3500円)
- 青木秀男(編)・田巻松雄・中根光敏・西澤晃彦・狩谷あゆみ・山口恵子『場所をあける!：寄せ場・ホームレスの社会学』(291p. 松籟社 2480円)
- 有本 章(編)『ポスト大衆化段階の大学組織改革の国際比較研究(高等教育研究叢書54)』(122p. 広島大学大学教育研究センター)
- P. ブルデュー社会学研究会(編)『象徴的支配の社会学：ブルデューの認識と実践』(234+45p. 恒星社厚生閣 4500円)
- コア・カリキュラム(文学分野)研究・開発プロジェクト(編)『コア・カリキュラム(文学分野)の研究・開発[中間報告]』  
(ix+438p. 九州大学文学部(拠点校) 非売品)
- 電機連合総合研究センター(編)『良い会社悪い会社：新しい企業評価基準を求めて』(268p. 東洋経済新報社 1700円)
- 土場 学『ポスト・ジェンダーの社会学理論』(250p. 青弓社 1600円)
- 江川 茂『共同体の現象』(20p. (自費出版))
- 江原由美子・山田昌弘『ジェンダーの社会学：女と男の視点からみる現代日本社会』(150p. 放送大学教育振興会 2000円)
- 榎本和子『子どもの生活問題と福祉』(142p. 行路社 1500円)
- 藤村正之『福祉国家の再編成：〈分権化〉と〈民営化〉をめぐる日本的動態』(270p. 東京大学出版会 4600円)
- 藤田弘夫・吉原直樹(編)『都市社会学』(269p. 有斐閣 2200円)
- 船津 衛『アメリカ社会学の展開』(380p. 恒星社厚生閣 5000円)
- 船津 衛(編)『地域・情報と社会心理』(151p. 北樹出版 1900円)
- 古田隆彦『日本はなぜ縮んでゆくのか』(250p. 情報センター出版局 1600円)
- 古田隆彦『人口が減る時の経営』(407p. 日本経営合理化協会 9800円)
- Goonasekera, Anura and Youichi Ito. (eds.) 'Mass Media and Cultural Identity : Ethnic Reporting in Asia.' 305p.  
London: Pluto.
- 原ひろ子(編)『女性研究者のキャリア形成：研究環境調査のジェンダー分析から』(604p. 勁草書房)
- 原 純輔・盛山和夫『社会階層：豊かさの中の不平等』(242p. 東京大学出版会 2800円)
- 長谷川秀樹『「コロンカ人民=民族」の生成』(192p. 関西学院大学出版会 4500円)
- 長谷川高生『独裁から民主主義へ：スペインと日本』(322p. ミネルヴァ書房 3300円)
- 橋本健二『現代日本の階級構造：理論・方法・計量分析』(x+276p. 東信堂 4300円)
- 橋本 努『社会科学の人間学：自由主義のプロジェクト』(386+25p. 勁草書房 5500円)
- 橋爪大三郎他『選択・責任・連帯の教育改革：学校の機能回復をめざして』(93p. (財)社会経済生産性本部)
- 橋爪大三郎・堤 清二『選択・責任・連帯の教育改革』(62p. 岩波書店 440円)
- 橋爪大三郎・堤 清二(編)『選択・責任・連帯の教育改革(完全版)』(194+15p. 勁草書房 1800円)
- 早川洋行『都市流言に関する実証的研究』(34p. 滋賀大学教育学部(早川洋行) 非売 平成8・9・10年度科学研究費補助金(萌芽的研究)研究成果報告書)
- 林 信明『フランス社会事業史研究：慈善から博愛へ、友愛から社会連帯へ』(444p. ミネルヴァ書房 6500円)
- 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか：「教育する家族」のゆくえ』(214p. 講談社 640円)
- 堀 薫夫『教育老年学の構想：エイジングと生涯学習』(258p. 学文社 2900円)
- 星野周弘『社会病理学概論』(256p. 学文社 2800円)
- 伊江朝章『犯罪的逸脱の理論』(96p. 学文社 1300円)
- 飯島伸子・船橋晴俊(編)『新潟水俣病問題：加害と被害の社会学』(295p. 東信堂 3800円)

- 今城義隆『中小企業の雇用・労働条件等に関する実態調査結果報告(平成11年度)』(66p. 大阪府中小企業労務改善集団連合会 非売品)
- 伊奈正人『サブカルチャーの社会学』(256p. 世界思想社 1900円)
- 井上 俊・亀山佳明(編)『スポーツ文化を学ぶ人のために』(348p. 世界思想社 2300円)
- 井上孝夫(編)『『白神山地の入山規制を考える』の周辺：環境社会学研究第6集』(120p. 千葉大学教育学部社会学研究室 非売品)
- 井上輝子・江原由美子(編)・秋山登代子・荻野美穂・武町里子・内藤和美・服部良子・堀内かおる・諸橋泰樹・矢澤澄子・善積京子『女性のデータブック(第三版)』(307p. 有斐閣 3200円)
- 犬塚 先・星 直樹(編)『日本の制度改革』(237p. 有信堂高文社 2500円)
- 石原邦雄『現代中国家族の総合的研究』(218+23p. 東京都立大学)
- 石原邦雄(編)・高橋勇悦(監修)『妻達の生活ストレスとサポート関係：家族・職業・ネットワーク』(300p. 東京都立大学都市研究所 1080円)
- 石川 准・長瀬 修(編)『障害学への招待：社会、文化、ディスアビリティ』(321p. 明石書店 2800円)
- 石川 准『人はなぜ認められたいのか：アイデンティティ依存の社会学』(214p. 旬報社 1800円)
- 石倉康次(編)『形成期の痴呆老人ケア：福祉社会学と精神医療・看護・介護現場との対話』(257p. 北大路書房 2500円)
- 伊藤順啓『短期大学教育・再考』(200p. 国際書院 2100円)
- 岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン社会福祉入門』(266p. 有斐閣 1700円)
- 城 忠彰・堤かなめ(編)『はざまに生きる子どもたち：日比国際児問題の解決に向けて』(191p. 法律文化社 2000円)
- 梶谷素久『社会学と日本：A Step to International Sociology』(iv+174p. 学文社 2300円)
- 鎌田とし子・矢澤澄子・木本喜美子(編)『ジェンダー(講座社会学14)』(297p. 東京大学出版会 3000円)
- 加藤眞義『個と行為と表象の社会学：マルクス社会理論の研究』(348p. 創風社 2800円)
- 葛 慧芬『文化大革命を生きた紅衛兵世代：その人生、人間形成と社会変動との関係を探る』(370p. 明石書店 9200円)
- 桂良太郎(共著)『地域コミュニティと地域ケアの拠点整備に関する調査研究』(財団法人兵庫県高齢者生きがい創造協会)
- 川合隆男・藤田弘夫(編)『都市論と生活論の祖型：奥井復太郎研究』(372p. 慶應義塾大学出版会 5600円)
- 河村 望『日本社会の近代化と宗教倫理』(389p. 溪水社 8000円)
- 河村 望『柳田国男の世界』(304p. 人間の科学社 2000円)
- 河村 望『日本書紀を読む』(338p. 人間の科学社 2800円)
- 河村 望(編)・河村只雄(著)『南方文化の探究』(560p. 講談社 1400円)
- 河村能夫『インドネシア・スラウェシ貧困対策支援村落開発計画プロジェクトと連携した社会統計分析(平成10年度国際協力事業団委託業務完了報告書)』(145p. 龍谷大学)
- 河村能夫『インドネシア・スラウェシ貧困対策支援村落開発計画プロジェクトと連携した社会統計分析(平成10年度国際協力事業団委託業務完了報告書)』(145p. 龍谷大学)
- 河西宏祐『電算型賃金の世界：その形成と歴史的意義』(348p. 早稲田大学出版部 5600円)
- 河西宏祐『大学教育春秋：千葉大学教授の8825日』(270p. ノンブル社 2300円)
- 河西宏祐(編)『不況・リストラ・管理職ユニオン：調査実習報告書』(228p. 早稲田大学人間科学部産業社会学研究室)
- 金 泰泳『アイデンティティ・ポリティクスを超えて：在日朝鮮人のエスニシティ』(211p. 世界思想社 1900円)
- 木村涼子『学校文化とジェンダー』(255p. 勁草書房 2700円)
- 木下康仁『グラウンデッド・セオリー・アプローチ：質的実証研究の再生』(285p. 弘文堂 2300円)
- 北川紀男『文化社会学研究』(271p. 八千代出版 2800円)
- 北矢行男『日本を救うソシオ・ビジネス』(286p. H & I 1600円)
- 小林淳一・三隅一人・平田 暢・松田光司『社会のメカニズム』(158p. ナカニシヤ出版 2500円)
- 小林一穂『稲作生産組織と営農志向』(296p. 多賀出版 6300円)
- 古賀和則(編)『宗教・地域・家族：イメージの検証』(193p. 行路社 2500円)
- 小池洋一・坂口安紀・三田千代子・遅野井茂雄・小坂允雄・福島義和(編)『図説ラテンアメリカ：開発の軌跡と展望』(146p. 日本評論社 2400円)
- 児島和人(編)『講座社会学8：社会情報』(284p. 東京大学出版会 3000円)
- 児島和人(編)『個人と社会のインターフェース：メディア空間の生成と変容』(228p. 新曜社 4200円)
- 小島 茂(草薙ネット)(編)『漫画とアニメで語る男女の性と生』(208p. 黒船出版)
- 駒井 洋『日本の外国人移民』(254p. 明石書店 2800円)

- 熊谷文枝『デジタルネットワーク社会の未来：社会学からみたその光と影』(243p. ミネルヴァ書房 2600円)
- 倉田和四生『防災福祉コミュニティ』(210p. ミネルヴァ書房 2400円)
- 栗田宣義『トーキングソシオロジー』(207p. 日本評論社 1800円)
- 栗田宣義(編)『データブック：社会学』(168p. 川島書店 1800円)
- 黒柳晴夫『インドネシア農村の社会変動と教育に関する比較社会学的研究』(80p. 椋山女学園大学人間関係学部 科学研究費研究成果報告書)
- 町村敬志『越境者たちのロスアンジェルス』(286p. 平凡社 2500円)
- 牧野暢男・渡邊恵子・村松幹子・中村三緒子・増田節子『大学卒業20年後の女性の生活・生活意識・大学評価に関する調査報告書：女子大学出身・共学大学出身別分析結果』(151p. 日本女子大学人間社会学部教育学科研究室)
- 牧園清子『家族政策としての生活保護：生活保護制度における世帯分離の研究』(254p. 法律文化社 3000円)
- 萬成 博(編)『現代中国国有企业 II』(308p. 白桃書房 3300円)
- 松野 弘・小阪隆秀(編)『現代企業の構図と戦略：転換期の産業社会と企業活動の革新』(p. 267 中央経済社 3200円)
- 松野達雄『世相と人格』(281p. 無極堂 7000円)
- 目黒依子・渡辺秀樹(編)『家族(講座社会学(2))』(東京大学出版会 2800円)
- Mita, Chiyoko. 'Bastos and Comunidade Étnica Japonesa no Brasil.' 223p. São Paulo: Humanitas (FFLCH/USP).
- 満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』(345p. エムアンドエヌインターナショナル 3000円)
- 宮原浩二郎『変身願望』(213p. 筑摩書房(ちくま新書) 660円)
- 百瀬靖子『ジェンダーフリーの時代へ：家政学原論・生活経営学』(206p. 創成社 2000円)
- 村上錦吉『婚姻の法社会学』(271p. 西日本法規出版株式会社 3000円)
- 村松泰子・佐藤(佐久間)りか・苔米地伸・平野亜矢・岡井崇之『大人向け雑誌における「女子高生」の性的商品化と思春期女子の性行動の変化に関する研究(報告書)』(90p.)
- 村田充八『コミュニケーションと宗教：一燈園・生駒・講』(276p. 行路社 3000円)
- 永谷 健『近現代の日本社会における金銭観と経済倫理に関する社会学的研究』(44p. 名古屋工業大学人間社会科学講座 非売品 文部省科学研究費・研究成果報告書)
- 中 久郎『社会学原論：現代の診断原理』(618p. 世界思想社 6800円)
- 中 久郎(編)『社会学論集：持続と変容』(371p. ナカニシヤ出版 4800円)
- 中河伸俊『社会問題の社会学：構築主義アプローチの新展開』(332p. 世界思想社 2500円)
- 中嶋明勲『老いと死のバラード』(100p. 高文堂出版社 1036円)
- 中嶋明勲『フランス教育社会学研究』(253p. 風間書房 8500円)
- 中村牧子『人の移動と近代化：「日本社会」を読み換える』(206p. 有信堂高文社 3300円)
- 中西直和『オーストラリア移民文化論：「異文化」と「普遍主義」の節合』(238p. 松籟社 2900円)
- 中西 治『新国際関係論』(241p. 岩村正路(南窓社) 2600円)
- 中野秀一郎『タルコット・パーソンズ：最後の近代主義者』(158p. 東信堂 1800円)
- 中野秀一郎『エスニシティと現代国家：連邦国家カナダの実験』(243p. 有斐閣 4300円)
- 中野 卓・鈴木郁生『中尾万三伝：中国古陶磁と本草学の先駆者』(237p. 刀水書房 2800円)
- 夏刈康男・松岡雅裕・仲川秀樹『人間生活の理論と構造』(241p. 学文社 2500円)
- 根橋正一『上海：開放性と公共性』(252p. 流通経済大学出版社 4000円)
- 日本DV防止・情報センター(編)『ドメスティック・バイオレンスへの視点：夫・恋人からの暴力根絶のために』(263p. 朱鷺書房 1600円)
- 日本社会学会編集委員会(編)『社会学評論スタイルガイド』(iv+42p. 日本社会学会 477円 日本社会学会事務局で送料込1冊500円で頒布)
- 小川文弥(編)『高度情報化社会における青少年の社会化とコミュニケーション』(65p. 平成9年度～平成10年度科学研究費補助金〔基盤研究(C)(2)〕研究成果報告書)
- 小川英司『行為と認識：社会学方法論入門』(191p. いなほ書房 2000円)
- 奥田道大(編)『都市：講座社会学4』(314p. 東京大学出版会 3200円)
- 奥田道大(編)『アジアの新宿・池袋 partII：現地面接調査記録コレクションズ・1998-1999』(253p. 中央大学文学部社会学科研究室 非売品)
- 奥村義雄『労働問題と地域の社会学』(256p. 桂書房 3000円)
- 大野道邦・松田いりあ・今井信雄『伝統的な地域文化の特性と機能：小豆島肥土山歌舞伎をめぐって』(68p. Research Project, Grant-in-Aid for Scientific Research (1998) 平成9・10年度文部省科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 研究成果報告書)

- Oshige, Kotaro. 'Konvergenz der Interessenvertretungen durch Globalisierung? : Ein Vergleich der Funktionsmechanismen der Arbeitnehmer interessenvertretungssysteme in Deutschland und Japan Beispiel der Elektro industrie.' 220p. Frankfurt am Main, et al.: Peter Lang.
- 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松 洋・永野 武(編)『社会調査へのアプローチ : 論理と方法』(319p. ミネルヴァ書房 2500円)
- 大塚善樹『なぜ遺伝子組換え作物は開発されたか : バイオテクノロジーの社会学』(238p. 明石書店 3000円)
- 大楠陽一・春木康男・岡田好一・生川善雄・浅川達人『SPSSによる看護・福祉・医学統計学入門』(173p. 福村出版 2300円)
- 斎藤吉雄(編)『地域社会情報のシステム化』(422p. 御茶の水書房 8300円)
- 阪本俊生『プライバシーのドラマトウルギー : フィクション・秘密・個人の神話』(287p. 世界思想社 2200円)
- 桜井哲夫『戦争の世紀 : 第1次世界大戦と精神の危機』(262p. 平凡社 720円)
- 雀部幸隆『ウェーバーと政治の世界』(311p. 恒星社厚生閣 4800円)
- 佐藤慶幸『現代社会学講義』(222p. 有斐閣 2000円)
- 千石好郎『〈近代〉との対決 : 社会学的思考の展開』(283p. 法律文化社 3600円)
- 柴野昌山・前田耕司・天童睦子・飯嶋香織『教育期待と育児戦略に関する調査研究』(64p. 早稲田大学教育社会学研究会)
- 四方壽雄(編)『家族の崩壊』(290p. ミネルヴァ書房 3000円)
- 島崎美代子・長沢孝司『モンゴルの家族とコミュニティ開発』(290p. 日本経済評論社 3200円)
- 島 蘭 進『時代のなかの新宗教 : 出居清太郎の世界1899-1945』(viii+268p. 弘文堂 3500円)
- 清水 学『思想としての孤独 : 〈視線〉のパラドクス』(284p. 講談社 1800円)
- Shimizu, Yoshifumi. 'A Study of Community Development in Ireland.' 49p. The Research Institute St. Andrew's University
- 清水由文・菰渕 緑(編)『変容する世界の家族』(228p. ナカニシヤ出版 2400円)
- 新保 満・ストラザーズシンサ・アン『変貌する先住民社会と学校教育 : カナダ北西準州デネーの事例』(226p. 御茶の水書房 3000円)
- 進藤雄三・黒田浩一郎(編)『医療社会学を学ぶ人のために』(308p. 世界思想社 2200円)
- 白樫 久『農村文化の変容に関する研究』(岐阜大学地域科学部 平成11年度科学研究費報告書)
- 庄司興吉『地球社会と市民連携 : 激成期の国際社会学へ』(346p. 有斐閣)
- 庄司興吉『共生社会の文化戦略 : 現代社会と社会理論 : 支柱としての家族・教育・意識・地域』(325p. 梓出版社)
- 庄司興吉『世界社会と社会運動 : 現代社会と社会理論 : 総体性と個性性との媒介』(307p. 梓出版社)
- 庄司洋子・木下康仁・武川正吾・藤村正之(編)『福祉社会事典』(1308p. 弘文堂 15000円)
- 宗教社会学の会(編)『神々宿りし都市 : 世俗都市の宗教社会学』(284p. 創元社 1890円)
- 住田正樹・高島秀樹・藤井美保『人間の発達と社会 : 教育社会学講義』(236p. 福村出版 2400円)
- 須長史生『ハゲを生きる : 外見と男らしさの社会学』(勁草書房 1700円)
- 鈴木正崇・野村伸一(編)『仮面と巫俗の研究 : 日本と韓国』(482p. 第一書房 8500円)
- 鈴木正崇(編)『大地と神々の共生 : 自然破壊と宗教』(257p. 昭和堂 2300円)
- Suzuki, Yuzuru. 'Business Associations in Japan and the United States : Collective Action and Authority Structure.' 400p. Kyushu University Press 10000円
- 高木正朗『(資料)阪神・淡路大震災と宗教教団の対応』(100p. 立命館大学災害社会学研究会)
- 高橋明善(編)・黒柳晴夫・若林敬子他(著)『沖縄ヤンバル地域の社会変動と海上ヘリ基地問題』(342p. 東京国際大学人間社会学部・社会学研究室 非売品)
- 高橋良彰『新犯罪社会心理学』(200p. 学文社 2600円)
- 高橋由典『社会学講義 : 感情論の視点』(144p. 世界思想社 1200円)
- 高島昌二(編)『転換期の社会福祉と福祉政策』(247p. 皇學館大学出版部 2000円)
- 武田共治『日本農本主義の構造』(497p. 創風社 4500円)
- 武川正吾・塩野谷祐一(編)『先進諸国の社会保障(1) : イギリス』(452p. 東京大学出版会 5200円)
- 武川正吾『社会政策のなかの現代 : 福祉国家と福祉社会』(338p. 東京大学出版会 4800円)
- 武川正吾『福祉社会の社会政策 : 続・福祉国家と市民社会』(228p. 法律文化社 2500円)
- 竹中 均『柳宗悦・民藝・社会理論 : カルチュラル・スタディーズの試み』(232p. 明石書店 3000円)
- 竹内 洋『日本の近代12 : 学歴貴族の栄光と挫折』(374p. 中央公論新社 2400円)
- 玉水俊哲・矢澤修次郎(編)『社会学のよるこび』(256p. 八千代出版 2400円)

- 田辺義明『中国社会の構成原理：建国50年の社会学』（260p. 新泉社 2800円）
- 店田廣文『エジプトの都市社会』（X+240p. 早稲田大学出版部 5000円）
- 富田典英・藤村正之（編）『みんなぼっちの世界：若者たちの東京・神戸90's(展開編)』（139p. 恒星社厚生閣 2000円）
- 鳥越皓之（編）『景観の創造』（306p. 昭和田 2500円）
- 戸谷 修『アジア諸地域の社会変動：沖縄と東南アジア』（327p. 御茶の水書房）
- 坪内良博（編）『〈総合的地域研究〉を求めて：東南アジア像を手がかりに』（524p. 京都大学学術出版会 5400円）
- 塚田 守『浪人生のソシオロジー』（178p. 大学教育出版 2000円）
- 恒吉僚子『「教育崩壊」再生へのプログラム：日米学校モデルの限界と可能性』（東京書籍）
- 筒井清忠（編）『日本の歴史社会学』（338p. 岩波書店 3500円）
- 上野千鶴子・中村雄二郎『日本社会：21世紀へのキーワード：インターネット哲学アゴラ』（228p. 岩波書店）
- 上杉孝實・黒沢惟昭（編）『生涯学習と人権：理論と課題』（319p. 明石書店 3500円）
- 上杉孝實・前平泰志（編）『生涯学習と計画』（258p. 松籟社 2400円）
- 上杉孝實（編）『生涯学習推進体制整備のもとでの公民館等地域社会教育施設の変遷と再編に関する研究』（49p. 京大大学院教育学研究科 非売）
- 若林敏子『学校統廃合の社会学的研究』（505p. 御茶の水書房 8840円）
- 若林幹夫『都市のアレゴリー』（333p. 岩波書店 2000円）
- 渡戸一郎（編）『大都市の都市構造の転換と社会移動に関する実証的研究』（256p. 明星大学人文学部社会学科 非売 平成8-10年度科学研究補助金・基盤研究(A)(1)研究成果報告書）
- 渡辺秀樹・上林千恵子・小笠原祐子『働き続ける女性たち』（118p. 東京女性財団）
- 渡辺 深『「転職」のすすめ』（218p. 講談社現代新書 660円）
- 矢島正見（編）『女性同性愛者のライフヒストリー』（492p. 学文社 4700円）
- 薬師院仁志『禁断の思考：社会学という非常識な世界』（312p. 八千代出版 2300円）
- 山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』（204p. ちくま新書 660円）
- 山田昌弘『家族のリストラクチャリング』（241p. 新曜社 2000円）
- 山岸美穂・山岸 健『音の風景とは何か：サウンドスケープの社会誌』（233p. 日本放送出版協会 920円）
- 山岸俊男『安心社会から信頼社会へ：日本型システムの行方』（253p. 中央公論新社 760円）
- 山本博史『アジアの工業化と農業・食糧・環境の変化：タイ経済の発展と農業・農協問題に学ぶ』（189p. 筑波書房 1900円）
- 柳井晴夫・前川眞一（編）『大学入試データの解析：理論と応用』（v+267p. 現代数学社 3800円）
- 矢内 諭『郵便局と地域との融合』（72p. 東北郵便局貯金部）
- 安田 雪『大学生の就職活動：学生と企業との出会い』（173p. 中央公論新社 660円）
- 要田洋江『障害者差別の社会学：ジェンダー・家族・国家』（360p. 岩波書店 6400円）
- 好井裕明『批判的エスノメソドロジーの語り：差別の日常を読み解く』（342p. 新曜社 3200円）
- 好井裕明・山田富秋・西阪 仰（編）『会話分析への招待』（264p. 世界思想社 2400円）
- 油布佐和子（編）『〈シリーズ〉子どもの教育の社会学5：教師の現在・教職の未来：あすの教師像を模索する』（214p. 教育出版 2400円）
- 鍾 家新『中国民衆の欲望のゆくえ：消費の動態と家族の変動』（211p. 新曜社 1900円）

## II. 翻訳の部〔日本語訳〕 (Translations into Japanese)

- アルチュセール, ルイ(市田良彦・福井和美・宇城輝人・前川真行・水嶋一憲・安川慶次訳)『哲学・政治著作集(第2巻)』(612p. 藤原書店 8800円)
- ボール, S. J.(稲垣恭子・山口健二・薬師院仁志・喜名信之・山本雄二・石飛和彦・河合淳子・樋田大二郎訳)『フーコ―と教育：〈知-権力〉の解説』(285p. 勁草書房 4300円)
- ブルデュー, ピエール(安田 尚訳)『教師と学生のコミュニケーション』(200p. 藤原書店 3200円)
- チェルナシエンコ, D.(小椋 博・松村和則編訳・グリーンスポーツ研究会訳)『オリンピックは変わるか：Green Sport への道』(280p. 道和書院 2500円)
- ドブソン, アンドリュー(松野 弘訳)「エコロジズムに関する考察(上)：「緑の政治思想」の視点と論理」(『社会学論叢』134 p.3-21.)



- ドブソン, アンドリュー(松野 弘訳)「エコロジズムに関する考察(下): 「緑の政治思想」の視点と論理」(『社会学論叢』136 p.27-45.)
- ギデンズ, アンソニー(松尾精文・小幡正敏訳)『国民国家と暴力』(424+33p. 而立書房 4000円)
- ハッキング, イアン(石原英樹・重田園江訳)『偶然を飼いならす: 統計学と第二次科学革命』(xi+353p. 木鐸社 4500円)
- ハム, マギー(木本喜美子・高橋 準監訳・大辻千恵子・櫻村愛子・加藤恒彦・清水久美・深澤和子・古田陸美・山田和代・善本裕子訳)『フェミニズム理論辞典』(xxxviii+431p. 明石書店 6000円)
- ジェソップ, ボブ(中馬祥子訳)「戦後マルクス主義思想における「国家」」(『情況』1999(7) p.28-50.)
- ジェソップ, ボブ(中馬祥子訳)「グローバリゼーションと国家的国家(上)」(『アソシエ』1 p.173-190.)
- カルブル, H.(相原総一郎訳)「福祉と教育(1): カルブル著『産業化時代ヨーロッパにおける教育機会と政府の役割』の翻訳」(『研究紀要』34 p.85-103.)
- ルバロン, フレデリック(今野 晃訳)「知的復古としての「新自由主義革命」」(『情況』第二期11 p.67-86. Congre Marx Internaional II(第2回マルクス国際会議)で口頭発表された原稿)
- リーボウ, E(吉川 徹・轟 里香訳)『ホームレスウーマン: 知ってますか、わたしたちのこと』(東信堂 3200円)
- メイ, レジナルド・ル(駒井 洋監訳・山田満里子訳)『東南アジアの仏教美術』(404p. 明石書店 9500円)
- レヌッチ, ジャニーヌ(長谷川秀樹・渥美 史訳)『コルシカ島』(186p. 白水社 951円)
- シャーピング, M.; ゲルク, C.(西原和久・菅原 謙訳)「エコロジー危機と社会学」(『情況』第II期10(1) p.61-85.)
- シュッツマン, L.; ストラウス, A. L.(川合隆男監訳)『フィールド・リサーチ: 現地調査の方法と調査者の戦略』(慶應義塾大学出版会 2600円)
- シュネイバーグ, A.; グールド, K. A.(満田久義訳者代表)『環境と社会: 果てしなき対立の構図』(353p. ミネルヴァ書房 3500円)
- シム, スチュアート(編)・杉野健太郎・丸山 修(監訳)・伊藤賢一他(訳)『現代文学・文化理論家事典(松柏社叢書言語科学の冒険(11))』(609p. 松柏社 4500円)
- スルバール, イルヤ(森 元孝訳)「生活世界は、安全確実な場か: 生活世界概念の生成と意義」(『情況』1999(12)別冊 p.322-340.)
- スルバール, イルヤ(榎本 環訳)「現象学的分析とその今日的意義: アルフレッドシュッツ記念講演」(『文化と社会』1 p.12-37. 3500円 原著未刊行で、翻訳は当誌初出)
- ターナー, B. S.(小口信吉訳者代表・藤田弘人・泉田 渡・小口孝司訳)『身体と文化: 身体社会学試論』(296+viii p. 文化書房博文社 3800円)
- アンガソン, クレア(平岡公一・平岡佐智子訳)『ジェンダーと家族介護: 政府の政策と個人の生活』(213p. 光生館 2000円)
- アーバン, トーマス; カラザンダナキス, N; モルツバーガー, R(細川甚孝・立川雅司編訳)「農業の工業化は不可避である」(『のびゆく農業』894 p.1-32. 'Choices' 誌掲載3論文の訳と解題)
- ホホワイト, ジェームズ W.(渡戸一郎訳)「古い酒とひび割れたボトル?: 東京, バリ, そして世界都市仮説」(『明星大学社会学研究紀要』19 p.65-99.)
- ウイルソン, ウィリアム J.(青木秀男監訳・平川 茂・牛草英晴訳)『アメリカのアンダークラス: 本当に不利な立場に置かれた人々』(442p. 明石書店 4600円)
- ウィンフィールド, フェアリー E.(三善勝代訳)『コミュニーター・マリッジ: 離れて暮らし、共に生きる』(256p. 白桃書房 2600円 家政教育社 1993年刊の再刊)
- ジジェク, スラヴォイ(今野 晃訳)「仮想されたイデオロギーの主体」(『情況』第二期10(6) p.130-152.)

### III. 論文の部

#### (Articles)

#### 1. 社会哲学・社会思想・社会学史

#### (Social Philosophy, Social Thought, History of Sociology)

- 千葉芳夫「近代のペシミズム: ヴェーバーとニーチェをめぐって」(『社会学部論集』32 p.17-31. 佛教大学社会学部)

- 福永英雄「複雑化・複雑系・複雑性の縮減：現代日本のイエと学校を例に」（『比較法史学会（編）『複雑系としてのイエ Historia Juris 比較法史研究：思想・制度・社会（8）』 p.291-304. 未来社 4800円）
- 福永英雄「システムとディスクール：法システムを例に」（『法政論叢』36(1) p.100-110. 日本法政学会（啓文社））
- 船津 衛「新明社会学とミード社会行動主義」（『社会学研究』新明正道先生生誕百年特別号 p.109-125. 東北社会学研究会）
- 浜日出夫「シュツク科学論とエスノメソドロジー」（『文化と社会』1 p.132-153. マルジュ社）
- Hama, Hideo. "Ethnomethodology and the Rashomon Problem" 'Human Studies.' 22(2-4) p.183-192. Dordrecht, the Netherlands: Kluwer Academic Publishers.
- 早川洋行「ジンメルとウェーバーにおける意味の問題：形式社会学の再評価」（『社会学史研究』21 p.37-48. 日本社会学史学会（いなほ書房））
- 早川洋行「ジンメルの交換論」（『情況』10(4) p.55-68. 情況出版）
- 林 大造「マルセル・モースにおける「全体性」の間身体的態様」（『社会学史研究』21 p.115-126. 日本社会学史学会）
- 井上純一「ジンメルにおけるユダヤの意識」（『立命館国際研究』12(2) p.71-88. 立命館国際関係学会）
- 犬飼裕一「マックス・ウェーバーにおける歴史科学の展開（上）」（『中京大学教養論叢』40(2) p.1-58. 中京大学教養部）
- 伊藤賢一「真理を発見する装置：Habermas 社会理論におけるコミュニケーションの役割」（『年報社会学論集』12 p.223-233. 関東社会学会）
- 伊藤賢一「公的領域を支えるもの：H・アレントにおける権力概念」（『社会学史研究』21 p.63-74. 日本社会学史学会）
- 景井 充「ディルケム集合意識論の現在的課題：共同態に基礎付けられた公共的社会空間という問題」（『情況』10(4) p.23-38. 情況出版）
- 景井 充「デュルケム社会学理論における“missing link”」（『社会学評論』50(3) p.297-312. 日本社会学会）
- 柿本昭人「アクトとしてのシステム：カッシーラーのシステム論」（『現代思想』27(4) p.193-205. 青土社）
- 柿本昭人「理性のドライブ装置：カント・ハイデッガー・カッシーラー」（『現代思想』27(6) p.240-253. 青土社）
- 柿本昭人「都市の傷痕と Re=publik3：相互主観的閉所嫌悪」（『10+1』16 p.32-33. INAX 出版）
- 柿本昭人「都市の傷痕と Re=publik4：広場嫌悪とスタイルの増殖」（『10+1』17 p.28-29. INAX 出版）
- 柿本昭人「都市の傷痕と Re=publik5：記憶の建築/忘却の建築」（『10+1』18 p.30-31. INAX 出版）
- 加藤真義「社会的リアリティの遂行的生成：『資本論』第3部の問題構成」（『行政社会論集』12(1) p.1-19. 福島大学行政社会学会）
- 加藤真義「社会的行為の「として」構成：マルクス社会理論における「抽象的なもの」（『行政社会論集』11(4) p.16-32. 福島大学行政社会学会）
- 川合隆男「建部逯吾の社会学構想：近代日本社会学のひとつの底流」（『法学研究』72(5) p.1-35. 慶應大学法学研究会）
- 河村 望「G. H. ミードの J. デューイ論」（『経済と社会』27 p.1-16. 東京女子大学社会学会）
- 菊谷和宏「トクヴィルにおける人間観の歴史的形成」（『社会学史研究』21 p.75-86. いなほ書房）
- 今野 晃「実践(pratique)論の諸相：アルチュセール・ブルデュー、スコア」（庄司興吉（編）『世界社会と社会運動：現代社会と社会理論：総体性と個性性との媒介』 p.105-124. 梓出版社）
- 今野 晃「敗北をみすえて：あるいはアルチュセール・ルネッサンスのために」（情況出版編集部（編）『アルチュールを読む』 p.42-53. 情況出版）
- 今野 晃「理論について/実践について：アルチュール/イデオロギー論再考」（『情況』第二期10(4) p.95-122. 情況出版）
- 小柳正弘「コンテクストと自由：パーリンの自由論にかんする解釈を中心に」（『琉球大学法文学部人間科学科紀要 人間科学』4 p.27-59. 琉球大学法文学部）
- 栗原 孝「ドイツ社会学とハーバーマス」（『情況』第2期10(4) p.207-223. 情況出版）
- 松本和良「総合理論と機能的システム論」（『社会学研究』新明正道先生生誕百年特別号 p.189-212. 東北社会学研究会）
- 松野達雄「新明正道著「ゲマインシャフト」に寄せて」（『社会学研究』新明正道先生生誕百年特別号 p.147-165. 東北社会学研究会）
- 松岡雅裕「ホルクハイマーによる近代市民社会の道徳的抑圧に関する研究」（『社会学論叢』135 p.17-34. 日本大学社会学会）

- 三苫利幸「ヴェーバー研究史における「逆説」：歴史の「分断」と密かな「連続」」（『Quadrante』1 p.120-141. 東京外国語大学海外事情研究所）
- 三橋利光「コント思想と現代：21世紀を前にして」（『日仏社会学年報』9 p.1-13. 日仏社会学会）
- 中 久郎「社会学分析における「人間」の論点：「願望」と「アノミー」」（『社会学部紀要』14 p.45-58. 龍谷大学社会学部）
- 中島 祝「中国の社会学」（『二〇世紀社会学の知を問う 情況』第2期10(4) p.251-266. 情況出版）
- 中西真知子「再帰的近代社会をめぐる」（『現代社会理論研究』9 p.49-60. 現代社会理論研究会）
- 中野正大・大山小夜「初期シカゴ学派にみる自殺研究(上)：R.S. キャン『自殺』」（『京都工芸繊維大学工学部研究報告人文』47 p.1-35. 京都工芸繊維大学工学部）
- 中野正大・高山龍太郎「『ポーランド農民』における第一次集団論(その1)」（『京都工芸繊維大学工学部研究報告人文』47 p.37-71.）
- 中里英樹「柳田国男『明治大正史世相篇』」（筒井清忠(編)『日本の歴史社会学』 p.65-86. 岩波書店）
- 西角純志「マサリクとフッサールの思想的交錯：パトチカ論者のパースペクティブ」（『文明研究』17 p.49-60.）
- 沼尻正之「和辻哲郎『日本倫理思想史』」（筒井清忠(編)『日本の歴史社会学』 p.103-120. 岩波書店 3500円）
- 小笠原真「有賀喜左衛門研究：日本社会学史の一齣」（『龍谷大学社会学部紀要』15 p.1-18. 龍谷大学社会学部学会）
- 小笠原真「松本潤一郎研究：日本社会学史の一齣」（『龍谷大学社会学部紀要』14 p.1-17. 龍谷大学社会学部学会）
- 奥村 隆「市民階級の理想と暴力：ノルベルト・エリアス『ドイツ人論』における「テロリズム」」（『現代社会理論研究』9 p.1-18. 現代社会理論研究会）
- Orihara, Hiroshi. "Max Webers Beitrag zum "Grundriss der Sozialökonomik": Das Vorkriegsmanuskript als ein Integriertes Ganzes (Max Weber's Contribution to the "Out-line of Social Economics": The Pre-War Manuscript as an Integral Whole)" 'Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie.' 51(4) p.724-734. Wiesbaden: West Deutscher Verlag.
- 折原 浩「マックス・ヴェーバーにおける歴史と社会学」（『名古屋大学社会学論集』20 p.13-44. 名古屋大学文学部社会学研究室）
- 酒井俊二「福鎌忠恕先生の御業績」（東洋大学社会学部40周年記念論集編集委員会(編)『東洋大学社会学部40周年記念論集』 p.169-189. 東洋大学社会学部）
- 進藤雄三「ポストモダン論の解説」（中 久郎(編)『社会学論集：持続と変容』 p.185-199. ナカニシヤ出版）
- 進藤雄三「現代社会学の諸潮流」（満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』 p.282-301. 朝日新聞社）
- 進藤雄三「パーソンズにおける「世俗化」の問題」（『社会学史研究』21 p.15-24. 日本社会学史学会）
- 庄司興吉「共生社会の文化戦略：支柱としての家族・教育・意識・地域」（庄司興吉(編)『共生社会の文化戦略：現代社会と社会理論：支柱としての家族・教育・意識・地域』 p.3-12. 梓出版社）
- 須田直之「回想のP.A. ソロキン：ある亡命社会学者の栄光と孤独」（『研究紀要』22(2) p.1-20. 青森大学・青森短期大学学術研究会）
- 杉本 学「ジニメル男女論における二元論とその統一の問題」（『社会学史研究』21 p.49-61. 日本社会学史学会(いなほ書房)）
- 鈴木健之「アメリカ社会学とアレクサンダー」（『情況(別冊)』10(4) p.224-235. 情況出版）
- 鈴木富久「グラムシ「人間とは何か」解析試論：『獄中ノート』における哲学的人間論の展開・その2(上)」（『桃山学院大学総合研究所紀要』25(1) p.49-72. 桃山学院大学総合研究所）
- 鈴木富久「グラムシ『獄中ノート』校訂版研究特集を読んで」（『季報唯物論研究』68 p.37-53. 『季報唯物論研究』刊行会）
- 高山龍太郎「『ポーランド農民』における第一次集団論(その2)」（『富大経済論集』45(2) p.245-291. 富山大学経済学部）
- 店田廣文「エジプトの社会学」（『情況(別冊)』10(12) p.342-353. 情況出版）
- 徳安 彰「社会システムのモダニティ：パーソンズとルーマン」（『社会学史研究』21 p.25-36. 日本社会学史学会）
- Ushiro, Teruhito. "Sur la Théorie Althusserienne de l' idéologie" 'Zinbun: Annals of the Institute for Research in Humanities, Kyoto University.' 33 p.157-173. Institute for Research in Humanities, Kyoto University.
- 宇都宮京子「マックス・ヴェーバーの行為論」（『情況』1999(4)別冊 p.39-54. 情況出版）
- 山下雅之「第三共和政下のコント社会学」（『フランス哲学思想研究』4 p.33-50. 日仏哲学会）
- 箭内 任「ハーバーマスの「学問」観：近代というディスクールズにおけるの哲学」（『現代社会理論研究』9 p.33-48. 現代社会理論研究会）

- 矢田部圭介「理に適ったふるまいとしてのプラティック：シュッツからブルデューへ」(P.ブルデュー社会学研究会(編)『象徴的支配の社会学：ブルデューの認識と実践』 p.77-118. 恒星社厚生閣 4500円)
- 矢田部圭介「アルフレッド・シュッツにおける(合理性)概念：シュッツ=パーソンズ論争と概念構成のための諸公準」(『三田社会学』4 p.78-93. 三田社会学会)

## 2. 一般理論 (General Theory)

- 赤堀三郎「社会変動のコード論的モデル：社会システム理論の視角から」(庄司興吉(編)『世界社会と社会運動：現代社会と社会理論：総体性と個性性との媒介』 p.125-142. 梓出版社 3500円)
- 赤堀三郎「コミュニケーション変動の記述法：コード概念を手がかりに」(『ソシオロゴス』23 p.167-181. ソシオロゴス編集委員会)
- 赤堀三郎「社会の機能的分化：意味構成の単一化か、多様化か?」(『社会・経済システム』18 p.84-89. 社会・経済システム学会)
- 青井和夫「現代市民社会と入試制度の役割」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『市民社会の変容と地域：社会問題』 p.295-329. 梓出版社)
- 藤谷忠昭「W. ジェームズの純粹経験の概念について：ステレオタイプと個性性」(『社会学評論』50(1) p.75-90. 日本社会学会 1500円)
- 浜田 宏「所得分布の生成モデル：反復投資ゲームによる定式化」(『理論と方法』14(2) p.3-17. 数理社会学会(ハーベスト社))
- 浜田 宏「相対的剥奪と準拠集団の数理モデル」(『理論と方法』14(1) p.91-104. 数理社会学会(ハーベスト社))
- 長谷川高生「人格システムにおける目的性と時間性：『こころの教育』のための人格発展論に向けて」(『関西教育学会紀要』23 p.86-90. 関西教育学会)
- 橋本健二「現代資本主義の階級構造：エリック・オリン・ライトとその周辺」(高増 明・松井 暁(編)『アナリティカル・マルキシズム』 p.86-109. ナカニシヤ出版)
- 早川洋行「貨幣論」(『情況』10(12) p.108-124. 情況出版)
- 北條英勝「ブルデューにおけるデュルケーム社会学の受容と断絶：集合表象の理論から象徴的支配の社会学へ」(P.ブルデュー社会学研究会(編)『象徴的支配の社会学：ブルデューの認識と実践』 p.119-145. 恒星社厚生閣)
- 干川剛史「インターNPO ネットワーキングの展開：公共圏論の再構成に向けて」(『社会科学討究』130 p.129-155. 早稲田大学アジア太平洋研究センター)
- 干川剛史「情報社会論再考」(宝月 誠(編)『情況：現代社会学のトポス 社会空間への問い』1999(9)別冊 p.218-232. 情況出版 2762円)
- 犬飼裕一「理性、近代、世界史と円環：自己言及の連鎖と主体」(『岐阜経済大学論集』33(3) p.123-155. 岐阜経済大学学会)
- 石上文正「開示と隠蔽」(『岡崎学園国際短期大学論集』5 p.1-21. 岡崎学園国際短期大学)
- Ito, Isamu. "Symbolic Interactionism in Japan" 'SSSI notes (Newsletter of the Society for the Study of Symbolic Interaction).' 26(3) p.6. Illinois(U.S.A.): The Society for the Study of Symbolic Interaction.
- 亀山佳明「子どもの成長と「悪」」(『教育学研究』66(1) p.26-30. 日本教育学会)
- 菅野博史「リスク社会としての再帰的近代をめぐって：近代化論における 個人主義的アプローチとシステム理論的アプローチ」(『三田社会学』4 p.33-44. 三田社会学会)
- 菅野博史「近代社会の自己記述は可能か?：ニクラス・ルーマンのオートポイエーシス的的社会システム論」(『情況』1999(4)別冊 p.154-168. 情況出版)
- 榎村愛子「近代社会/社会学の解体と精神分析」(『情況：〈特集〉精神分析のポリティクス』第2期10(6) p.6-20. 情況出版)
- 北島 滋「社会学者像接近への一つの試論：高田保馬社会学の理論体系に限定して」(『宇都宮大学国際学部研究論集』7 p.35-120. 宇都宮大学国際学部)
- 小松丈晃「近代的時間とリスク：時間次元と社会的次元の緊張関係」(『社会学研究』66 p.21-45. 東北社会学研究会)
- 近藤 論「コミュニケーションと空間、そして「自己」のゆくえ」(『研究紀要』20(2) p.147-159. 鹿児島女子大学)

- 黒木茂浩「カリスマ・スティグマ理論の再検討：三つのテーゼとその射程」（『社会学雑誌』16 p.164-177. 神戸大学社会学研究会）
- 草柳千早「構築主義論争を読みかえす：構築主義者はどこに立ち何をみるのか」（『文化と社会』1 p.197-209. マルジュ社）
- 町村敬志「グローバルバリエーションの社会学：想像力からリアリティへ」（『情況』1999(12)別冊(1999) p.184-195. 情況出版）
- 前田泰樹「情緒をめぐる語りの理解可能性について」（『ソシオロギス』23 p.86-102. ソシオロギス編集委員会）
- 三浦直子「反省的社会学の生成：ブルデュー社会学における認識論の位置づけをめぐって」（P.ブルデュー社会学研究会(編)『象徴的支配の社会学：ブルデューの認識と実践』 p.1-28. 恒星社厚生閣）
- 森 真一「心理学のヘゲモニー：社会のフレキシブルな編成と心理主義化」（『ソシオロジ』44(2) p.37-53. 社会学研究会）
- 永井 彰「ハーバーマスのマルクス批判：近代社会の総体把握の方法をめぐって」（『東北大学文学部研究年報』48 p.31-50. 東北大学文学部）
- 内藤朝雄「心理と社会をつなぐ理論枠組と集団論：Durkheim, E.の物性論的側面を手がかりに」（『現代の社会病理』14 p.37-49. 日本社会病理学会）
- 内藤朝雄「自由な社会のための生態学的設計主義：「いじめ」の秩序を退縮させるジンメル・ノージック的条件を手がかりにして」（『季刊家計経済研究』44 家計経済研究所）
- 内藤朝雄「精神分析学の形式を埋め込んだ社会理論：「いじめ」を典型的な例題として」（『情況』第2期10(6) p.21-37. 情況出版 1267円）
- 那須 壽「レリヴァンス現象の解明に向けて：シュッツ理論継承のために」（『文化と社会』1 p.60-85. 『文化と社会』編集委員会）
- Nasu, Hisashi. "Alfred Schutz's Conception of Multiple Realities Sociologically Interpreted" Embree, Lester (eds.) 'Schutzian Social Sciences.' p.69-85. Dordrecht/Boston/London: Kluwer Academic Publishers.
- 夏川康男「結婚現象の社会学的考察」（『社会学論叢』136 20p. 日本大学社会学会）
- 西原和久「シュッツの発生論的思考について」（『現代社会理論研究』9 p.297-306. 現代社会理論研究会(人間の科学社刊)）
- 西原和久「制度論：〈序説〉社会学における〈制度の発生論〉のために」（『情況』第II期10(12) p.74-91. 情況出版）
- 小内 透「共生概念の再検討と新たな視点：システム共生と生活共生」（『北海道大学教育学部紀要』79 p.123-144. 北海道大学教育学部）
- 斎藤吉雄「専門職の危機：Informed Consent とのかかわりあいにおいて」（『人間情報学研究』4 p.45-54. 東北学院大学人間情報学研究所）
- 崎山治男「構成主義的感情社会学の可能性：理論における生理的構想のあり方を巡って」（『社会学史研究』21 p.87-100. いなほ書房）
- 櫻井龍彦「相互行為の秩序が帰結するもの：ゴフマンを手がかりにして」（『三田社会学』4 p.94-107. 三田社会学会）
- 嶋守さやか「わたし」の全能感：女性150人による「自分」のシステム論的分析（『現代社会理論研究』9 p.171-184. 現代社会理論研究会 2000円）
- 嶋守さやか「成年後見制度とデュルケム「職業集団」論：高齢者による自己決定論の位相」（『日仏社会学年報』9 p.69-84. 日仏社会学会）
- 数土直紀「イギリス社会学とギデンズ」（『情況』1999(4)別冊 p.192-206. 情況出版）
- 数土直紀「権力と利他主義：権力構造を産む行為の進化ゲーム的分析」（『理論と方法』13(2) p.169-182. 数理社会学会）
- 杉本 学「ジンメル『社会学』における〈排除〉という主題：「余所者」を中心に」（『年報社会学論集』12 p.211-222. 関東社会学会）
- 鈴木智之「不確かな個人：私的身体と公共空間」（『三田社会学』 p.4-16. 三田社会学会）
- 徳安 彰「中間単位のシステム論的考察」（『社会・経済システム』18 p.78-83. 社会・経済システム学会）
- Tokuyasu, Akira. "Pluralization of Meaning-Construction in the Global Age" Organization Committee of the 5th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences(eds.) 'Social and Psychological Change of Japan and Germany: The Last Decade of the 20th Century: Proceedings of the 5th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences.' p.97-108. The German-Japanese Society for Social Sciences.

- 植木 豊「『国民国家の動揺』と空間の噴出」(『情況(別冊)現代社会学理論の最前線(2)：現代社会学のトポス：社会空間への問い』10(12) p.162-183. 情況出版)
- 碓井 崧「ルーマンにおける目的プログラムと条件プログラム」(『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学篇』19 p.21-34. 金沢大学)
- 矢部謙太郎「記憶と我の統一：シュッツ初期草稿に関する一考察」(『社会学年誌』40 p.111-124. 早稲田社会学会)
- 矢原隆行「システム論的臨床社会学の実践：物語論から社会システム論へ」(『現代社会理論研究』9 p.83-96. 現代社会理論研究会)
- 矢原隆行「臨床社会学という可能性：コミュニケーション・システムの観点から」(『ポイエーシス』12 p.18-35. 九州大学文学部社会学・地域福祉社会学研究室)
- 矢原隆行「社会システム論の展開：行為システムからコミュニケーション・システムへ」(『ポイエーシス』13 p.1-15. 九州大学文学部社会学・地域福祉社会学研究室)
- 山本 努「E. Durkheim の自殺の社会活動説をめぐって」(『現代の社会病理』14 p.63-74. 日本社会病理学会)
- 山崎仁朗「J・ハーバマスにおける「コミュニケーション権力」概念について」(『名古屋大学社会学論集』20 名古屋大学文学部社会学研究室)
- 李 晨台「超越と匿名性について：シュッツにおけるドン=キホーテ問題」(『現代社会理論研究』9 p.321-330. 現代社会理論研究会)
- 好井裕明「『エスノメソドロジーの権力分析の第二章』に向けて：“差別の日常”という主題」(『情況』1999(12)別冊 p.257-273. 情況出版 2900円)
- 好井裕明「制度的状況の会話分析」(好井裕明・山田富秋・西阪 仰(編)『会話分析への招待』 p.36-70. 世界思想社)

### 3. 社会変動論 (Social Change)

- 鯉坂 学「社会変動」(福祉士養成講座編集委員会(編)『社会学』 p.128-147. 中央法規出版)
- 青井和夫「現代市民社会と人生の四季」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『市民性の変容と地域・社会問題』 p.330-341. 梓出版社)
- 有吉広介「現代英国における高齢者援助と家族の義務」(『マテシス・ユニウエルサリス』1(1) p.36-71. 獨協大学外国語学部言語文化学科)
- 古田隆彦「凝縮社会に向けて」(『地方自治職員研修』1999(1) p.18-20. 公職研(公務職員研修協会))
- 伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」(関口一郎(編)『コミュニケーションのしくみと作用』 p.3-63. 大修館)
- Kada, Yukiko. "Socio-Ecological Changes around Lake Biwa: How have Local People Experienced the Rapid Modernization?" Kawanabe, H., George W. Coulter and Anna C. Roosevelt(ed.) 'Ancient Lakes: Their Cultural and Biological Diversity.' p.243-260. Belgium: Kenobi Publication. 100\$
- 森 重雄「(人間)の環境設定：社会理論的検討」(『社会学評論』50(3) p.278-296. 有斐閣)
- Nakano, Makoto. "On Uneven Development" 'Bulletin of Fukuyama City Junior College for Women.' 25 p.41-48. Fukuyama City Junior College for Women.
- 小幡正敏「個人化の歴史的位相：U.ベックの個人化テーゼをめぐって」(『ヒューマンサイエンス』12(1) p.40-50. 早稲田大学人間総合研究センター)
- 太郎丸博「身の上相談から見た戦後日本の個人主義化」(光華女子大学文学部人間関係学科(編)『変わる社会・変わる生き方』 p.69-93. ナカニシヤ出版 2200円)
- 山田信行「世界システムにおける成層と移動：半周辺と「グローバルな商品連鎖」」(庄司興吉(編)『世界社会と社会運動』 p.37-59. 梓出版社)

### 4. 社会集団・組織論 (Social Group, Organization)

- 藤井敦史「日本におけるNPOマネジメント論の流れとその課題」(中村陽一・日本NPOセンター(編)『日本のNPO2000』 8p.. 日本評論社)

- 藤井敦史「NPO 概念の再検討：社会的使命を軸とした NPO 把握：市民事業組織の構想」（『組織科学』32(4) p. 24-32. 白桃書房）
- 藤井敦史「『市民事業組織』の社会的機能とその条件：（市民的専門性）の形成」（角瀬保雄・川口清史（編）『非営利・協同組織の経営（叢書現代経営学第7巻）』 p. 177-206. ミネルヴァ書房）
- 今里 滋「情報と交流のネットワーク」（今里 滋（編）『情報化・交流・分権型社会と自治体職員』 p. 57-106. ぎょうせい 3000円）
- 今里 滋「アジア都市政府の比較研究：福岡・釜山・上海・広州」（今里 滋（編）『福岡市政府の動態と政策』 p. 103-143. 九州大学出版会 3800円）
- 大塚 先「日本の企業組織における意思決定の性格」（『千葉大学人文研究』28 p. 117-149. 千葉大学文学部）
- 小林 盾「多様な評価原理からの全員一致：繰り返し評価形成モデル」（『理論と方法』14(1) p. 125-140. 日本数理社会学会）
- 奥山敏雄「組織の社会学理論におけるメタファーの意味」（『組織科学』33(1) p. 4-13. 組織学会）
- 大内田鶴子「草の根の自治の技術：自治会・町内会規約の考察」（『社会学評論』49(4) p. 513-530. 日本社会学会）
- 佐藤 毅「普通選挙実施前夜の社会運動家達と金光教一「社交桜心会」から問われる本教信仰の意義」（『金光教学』39 p. 110-157. 金光教教学研究所 700円）
- 沢田善太郎「有司専制：明治期の J.S. ミル受容と官僚制論」（『ソシオロジ』46(3) p. 3-19. 社会学研究会）
- 柴田和子「避難所の活動の展開：神戸市中央区春日野小学校の事例をもとに」（岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎（編）『阪神・淡路大震災の社会学第2巻：避難生活の社会学』 p. 17-35. 昭和堂 4700円）
- 田村栄一郎「戦前日本社会の反市民的性格：天皇制軍隊の不条理について」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『市民性の変容と地域・社会問題：21世紀の市民性と共同性：国際化と内面化』 p. 81-110. 梓出版社 3500円）
- 田中豊治「分権型社会におけるまちづくり協働システムの開発：住民と行政を結ぶ中間組織の編成原理」（『組織科学』32(4) p. 33-47. 白桃書房）
- 綿引宣道「Book Review “Organizational Learning” Cohen & Sproull (eds) 1995 Sage」（『人文社会論叢社会科学編』1 p. 121-124. 弘前大学人文学部）
- 綿引宣道「産学官共同研究の史的研究：日英米比較」（『弘前大学経済研究』22 p. 19-29. 弘前大学経済学会）
- 綿引宣道「エスカレーション・モデルに見られる組織学習の失敗」（『人文社会論叢社会科学編』2 p. 53-66. 弘前大学人文学部）
- 横山知玄「組織の環境適応と環境の組織化(上)：(株)F 社の制度のルーツと組織行動の変容過程を中心として」（松山大学学術研究会（編）『松山大学論集』11(4) p. 269-305. 松山大学）
- 横山知玄「組織の環境適応と環境の組織化(下)：(株)F 社の制度のルーツと組織行動の変容過程を中心として」（松山大学学術研究会（編）『松山大学論集』11(5) p. 99-146. 松山大学）

## 5. 階級・階層・社会移動

### (Class, Stratification, Social Mobility)

- 阿部晃士「社会イメージの形成と地位志向」（『総合政策』1(1) p. 79-90. 岩手県立大学総合政策学会）
- 濱名 篤「階層としての女中」（青木 保・他（編）『近代日本文化論5：都市文化』 p. 173-188. 岩波書店 2600円）
- 原 純輔「労働市場の変化と職業威信スコア」（『日本労働研究雑誌』41(10) p. 26-35. 日本労働研究機構）
- 橋本健二「戦後日本の階級構造：空想から科学への階級研究の発展」（『社会学評論』50(2) p. 164-180.）
- 片岡栄美「階層」（栗田宣義（編）『データブック/社会学：調査データでわかる日本社会』 p. 108-116. 川島書店 1800円）
- Kelivan, Maya and Masataka Nakano. “A Comparative Study of the Middle Class in Japanese and Bulgarian Societies” ‘Memoirs of the Faculty of Engineering and Design (Kyoto Institute of Technology).’ 47 Kyoto Institute of Technology.
- 三隅一人「女性の地域移動と階層特性：1995年 SSM データによる分析」（『比較社会文化(九州大学大学院比較社会文化研究科紀要)』5 p. 113-122. 九州大学大学院比較社会文化研究科）
- 宮原浩二郎・森 真一「被災の社会地図」（岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎（編）『阪神淡路大震災の社会学1：被災と救援の社会学』 p. 11-33. 昭和堂）

- 村井忠政・安達正嗣・小國英夫「移住先と出身地域の親族ネットワークに関する実証的研究：愛知県長久手町小原村の調査から」（『人文社会学部研究紀要』7 p.213-251. 名古屋市立大学人文社会学部）
- 西山俊彦「私的所有権の不条理性：平和学は体制変革の学であるとの共通認識の一助として」（『平和研究』24 p.100-109. 日本平和学会（早稲田大学出版部）3200円）
- 西山俊彦「私的所有権の個別的論証の非論理性：「自己所有権」の問題点を中心に」（『英知大学キリスト教文化研究紀要』14(1) p.151-167. 英知大学（キリスト教文化研究所））
- 総合農学学会（編）「現代我が国の地域林業担い手に関する諸問題：岐阜県内への主にIターン新規参入者の動向に基づいて」（『総合農学』46(2)通巻113号 p.23-28. 総合農学学会）
- 渡辺 深「転職とキャリア・ネットワーク：職業キャリアの社会的形成」（『組織科学』33(2) p.57-65. 組織学会）
- 渡辺 深「会社を辞める：離職理由が転職前後の賃金変化に与える効果」（『上智大学社会学論集』22/23 p.1-17. 上智大学文学部社会学科）
- 山口 洋「夫の社会的地位と妻の社会的地位：平均的夫婦象の変遷過程と性役割意識」（『佛教大学社会学部論集』32 p.63-99. 佛教大学社会学部）

## 6. 家 族 (Family)

- 安達正嗣「高齢期の家族関係」（中川 淳（編）『家族論を学ぶ人のために』 p.192-204. 世界思想社 1900円）
- 荒樋 豊「「家族経営体」の発展に向けた家族内民主化の課題」（農村生活総合研究センター（編）『多世代農家の家族関係と女性の自立』 p.79-97. 農村生活総合研究センター）
- 荒樋 豊「多世代農家の家族関係と農業」（農村生活総合研究センター（編）『多世代農家の家族関係と女性の自立』 p.17-39. 農村生活総合研究センター）
- 鮎川 潤「「子」の非行・犯罪」（中川 淳（編）『家族論を学ぶ人のために』 p.161-175. 世界思想社）
- Boocock, Sarene Spence. "Social Prisms: An International Comparison of Childrearing Manuals" 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.5-33. Japan Sociological Society.
- 千葉聡子「家族によるしつけを困難にしている要因：社会集団を必要とするしつけ」（『文教大学教育学部紀要』33 p.48-61. 文教大学）
- 藤森久美恵「社会化価値概念の異文化比較：調査に使用される言葉の解釈をめぐって」（『家族社会学研究』11 p.95-107. 日本家族社会学会）
- 藤本信子「家族生活に与える職業の影響(2)」（『金蘭短期大学研究誌』30 金蘭短期大学）
- 藤崎宏子「家族：ジェンダーとジェネレーションのせめぎ合いの場」（『岐阜を考える』100 p.126-130. 岐阜県産業経済研究センター）
- 船橋恵子「ジェンダーの視点から見た現代の母性・父性」（『ヒューマンサイエンス』12(1) p.28-32. 早稲田大学人間総合研究センター）
- 船橋恵子「（子育て）の社会的支援と家族」（『家族社会学研究』11 p.25-35. 日本家族社会学会）
- 船橋恵子「父親の現在：ひらかれた父親論へ」（渡辺秀樹（編）『シリーズ子どもと教育の社会学(第3巻)：変容する家族と子ども』 p.85-105. 教育出版 2400円）
- Hara, Toshihiko. "Fertility Declines after the World War II : A Comparative Studies of Japan and Germany" Beschorner, Dieter (eds.) 'The Population Developments of the World.' p.93-124. Germany: Ulm University in Germany .
- Hashimoto, Kazutaka. "Gia Dinh Va The He Tre Nhat Ban Huong Toi The Ky XXI" 'Nghien Cuu Nhat Ban.' 5(23) p.19-21. Hanoi: Center for Japan Studies.
- 橋本健二「教育と家父長制の再生産：ジェンダーと教育研究のニュー・フロンティア」（『家計経済研究』1999秋号 p.19-36. 家計経済研究所）
- 橋爪大三郎「無出産社会の到来で、性別は解体する」（『現代性教育研究月報』17(7)通巻193号 p.6-11. (財)日本性教育協会）
- 服部範子「結婚・家族の多様化と若者の自己決定」（『生活経営学研究』34 p.7-12. 日本家政学会生活経営学部会）
- 服部範子・富田幸子「ジェンダーと教育」（『兵庫教育大学研究紀要』19 p.67-80. 兵庫教育大学）
- 服部範子「ドメスティック・バイオレンスについての最近の状況」（岡堂哲雄・関井友子（編）『現代のエスプリ：ファミリー・バイオレンス：家庭内の虐待と暴力』383 p.51-63. 至文堂）



- 服部範子「日本のドメスティック・バイオレンス：家族関係にみる病理性」（日本家政学会(編)『変動する家族：子ども・ジェンダー・高齢者』 p.97-118. 建帛社)
- 平松道夫「震災復興にみる家族の生活再建過程：北海道奥尻島と兵庫県淡路島」（『樟蔭女子短期大学紀要文化研究』13 p.137-162.）
- 廣嶋清志「1970-90年における女子の未婚率上昇の要因分解」（『経済科学論集』25 p.1-25. 島根大学法文学部）
- 廣嶋清志「日本の少子・高齢化の人口学的分析」（『長寿社会研究所・家族問題研究所研究年報』4 p.11-21. 兵庫県長寿社会研究機構）
- 廣嶋清志「家族への人口学的接近」（『家族社会学研究』11 p.109-112. 日本家族社会学会）
- 廣嶋清志「結婚と出生の社会人口学」（目黒依子・渡辺秀樹(編)『家族（講座社会学(第2巻)）』 p.21-57. 東京大学出版会 2800円）
- 堀川尚子「高齢者の転居と生活適応：二重 ABCX モデルを援用して」（『現代社会学研究』12 p.36-53. 北海道社会学会）
- 細辻恵子「シングル・マザー」（中川 淳(編)『家族論を学ぶ人のために』 p.146-160. 世界思想社 1900円）
- 池本良教「中山間地域における高齢者農業の変容」（農政調査委員会(編)『農政の展開が中山間地帯の農業に与える影響についての調査研究報告書9：中山間地帯における農業と地域社会の変貌』 p.154-182. 農政調査委員会）
- 池本良教「農村における人口高齢化と家族・地域」（日本村落研究学会(編)『〈年報〉村落社会研究35：高齢化時代を拓く農村福祉』 p.61-97. 農山漁村文化協会 5905円）
- 池岡義孝・木戸 功・志田哲之・中 正樹「単身生活者による家族の構築：構築主義的な家族研究のアプローチの試み」（早稲田大学人間科学部(編)『人間科学研究』12(1) p.75-92. 早稲田大学人間科学部）
- 稲葉昭英「ストレス経験の生涯発達の变化と性差：平成7(1995)年度国民生活基礎調査を用いて」（『理論と方法』14(1) p.51-64. 数理社会学会）
- 稲葉昭英「家族生活・職業生活・育児：育児と役割ストレインの構造」（石原邦雄(編)『妻たちの生活ストレスとサポート関係：家族・職業・ネットワーク』 p.29-51. 東京都立大学都市研究所 1080円）
- 稲葉昭英「なぜ常雇女性のストレインが高くないのか?」（石原邦雄(編)『妻たちの生活ストレスとサポート関係：家族・職業・ネットワーク』 p.53-85. 東京都立大学都市研究所 1080円）
- 稲葉昭英「有配偶女性のディストレスの構造」（石原邦雄(編)『妻たちの生活ストレスとサポート関係：家族・職業・ネットワーク』 p.87-119. 東京都立大学都市研究所 1080円）
- 井上治代「高齢・別居地域の家族と墓の変貌：鹿児島県大浦町調査を中心に」（『淑徳大学大学院研究紀要』6 p.199-214. 淑徳大学大学院）
- 井上真理子「ファミリー・バイオレンス」（中川 淳(編)『家族論を学ぶ人のために』 p.178-191. 世界思想社）
- 井上真理子「ファミリー・バイオレンス」（『犯罪社会学研究』24 p.148-154. 日本犯罪社会学会）
- 井上真理子「変動する家族と人口生殖」（『家族：社会と法』15 p.79-93. 日本家族(社会と法)学会）
- Ishii-Kuntz, Masako. "Children's Affection Toward Fathers: A Comparison between Japan and the United States" 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.35-50. Japan Sociological Society.
- 石川 准「障害、テクノロジー、アイデンティティ」（石川 准・長瀬 修(編)『障害学への招待：社会、文化、ディスタビリティ』 p.41-77. 明石書店 2800円）
- 石川 准「障害児と家族：愛と努力の物語を相対化するプロセス」（渡辺秀樹(編)『変容する家族と子ども：家族は子どもにとっての資源か』 p.107-124. 教育出版 2400円）
- Iwai, Noriko. "Divorce in Japan: Historical Changes and Current Issues" Miller, R. Robin and Sandra. Lee Browning (eds.) 'With This Ring: Divorce, Intimacy, and Cohabitation from a Multicultural Perspective.' p.53-77. Stanford, Connecticut: JAI Press Inc. US\$78.50
- 岩井紀子「親の介護の経験」（日本家族社会学会 家族と介護研究会(編)『介護と親族ネットワークに関する調査研究報告書』 p.49-131. 日本家族社会学会 家族と介護研究会）
- 岩井紀子「親の介護と配偶者の介護」（日本家族社会学会 家族と介護研究会(編)『介護と親族ネットワークに関する調査研究報告書』 p.148-151. 日本家族社会学会 家族と介護研究会）
- 門野里栄子「不妊の視点からみる少子化：子ども願望促進要因に関する社会学的考察」（『甲南女子大学人間科学年報』24 p.37-50. 甲南女子大学人間科学会）
- 嘉本伊都子「『国際結婚』と『分限』」（比較法史学会編集委員会(編)『複雑系としてのイエ：比較法史研究-思想・制度・社会8』 p.108-119. 未来社 4800円）
- 春日井典子「家族ライフスタイルと高齢者介護」（『研究年報』4 p.105-116. 兵庫県長寿社会研究機構）
- 片田江綾子「青年期のライフコース展望と発達課題」（『家族関係学』18 日本家政学会家族関係学部会）

- 片田江綾子「家庭科教育におけるジェンダー研究再考」(『年報・家庭科教育研究』25 大家家庭科教育研究会)
- 片岡佳美「都市家族の課題と展望：ライフスタイルとしての家族という視点から」(『TOMORROW』14(3) p.1-9. 財団法人あまがさき未来協会 572円)
- 葛 慧芬「国際結婚に対する地域ケアシステム作りの必要性：中国人花嫁の事例から」(『日中社会学研究』1999(7) p.146-165.)
- 川本 彰「家族とむらの類型試論」(『人間科学論究』7(3月刊) p.43-56. 常磐大学大学院人間科学研究科)
- 川崎澄雄「男女共同参画社会における父親について」(『金城学院消費生活科学研究所紀要』3(1) p.21-27. 金城学院大学消費生活科学研究所)
- 川崎澄雄「出稼ぎと人口流出」(四方壽雄(編)『家族の崩壊』 p.238-253. ミネルヴァ書房)
- 木戸 功「私の家族・他者の家族・家族というもの」(河野健二・圓岡偉男・余語琢磨(編)『間主観性人間科学：他者・行為・物・環境の言説再構にむけて』 p.155-180. 言叢社 2500円)
- Kikuzawa, Saeko. "Family Composition and Sex Differential Mortality among Children in Early Modern Japan: Evidence from Yokouchi, 1671-1871" 'Social Science History.' 23(1) p.99-127.
- Kikuzawa, Saeko. "Family Composition and Sex Differential Mortality among Children in Early Modern Japan" 'Social Science History.' 23(1) p.99-127.
- 木本喜美子「総論ジェンダー研究の現段階」(鎌田とし子・矢澤澄子・木本喜美子(編)『ジェンダー(講座社会学(第14巻))』 p.1-9. 東京大学出版会 3000円)
- 木本喜美子「女の仕事と男の仕事」(鎌田とし子・矢澤澄子・木本喜美子(編)『ジェンダー(講座社会学(第14巻))』 p.151-178. 東京大学出版会 3000円)
- 木本喜美子「食品スーパーサミット」(生協総合研究所(編)『生協における仕事を問う：みやぎ生協・ちばコープ・サミット(株)の比較調査から』 p.41-65. 生協総合研究所)
- 木本喜美子「テーマ別分科会(ジェンダー部会)座長報告」(『社会政策学会誌(第1号)』 p.167-172. 御茶ノ水書房)
- 木村清美「家計内の不平等と権力」(財団法人家計経済研究所(編)『ワンペアレント・ファミリー(離別母子世帯)に関する6ヵ国調査』 p.59-68. 大蔵省印刷局)
- 北原 淳「沖縄本島北部の村落社会の変容に関するノート：国頭村と那集落を中心に」(『紀要』26 p.27-64. 神戸大学文学部)
- 菰刈 緑「ひとり親家族」(四方壽雄(編)『家族の崩壊』 p.203-220. ミネルヴァ書房)
- 菰刈 緑「オーストラリアの家族」(清水由文・菰刈 緑(編)『変容する世界の家族』 p.131-159. ナカニシヤ出版)
- 黒田慶子「転勤・異動と女性労働：なぜ「家庭生活の事情」が問題となるのか」(藤井治枝・渡辺 峻(編)『現代企業経営の女性労働：労務管理の個別化と男女の自立(叢書 現代経営学(13))』 p.102-129. ミネルヴァ書房)
- 黒田慶子「ストーリーの中のジェンダー：テレビドラマを通して」(池内靖子・武田春子・二宮周平・姫岡とし子(編)『21世紀のジェンダー論』 p.2-11. 晃洋書房)
- 黒田慶子「アンペイド・ワークと家事労働」(池内靖子・武田春子・二宮周平・姫岡とし子(編)『21世紀のジェンダー論』 p.130-140. 晃洋書房)
- 黒木雅子「被災生活と家族の分離：須磨仮設住宅における孤立化」(岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎(編)『阪神・淡路大震災の社会学(第2巻)：避難生活の社会学』 p.109-115. 昭和堂 4700円)
- 林 明鮮「計画経済時代における中国の離婚：1950年から1978年まで」(『名古屋大学社会学論集』20 p.115-131.)
- 前田尚子「大都市インナーエリア高齢者の世代間関係」(『家族社会学研究』11 p.83-94. 日本家族社会学会)
- 圓田浩二「父と娘」のドラマトルギー：援助交際の社会学(3) (『関西学院大学社会学部紀要』83 p.127-138. 関西学院大学社会学部研究会)
- 松田茂樹「育児の変化に対応した支援策の方向性」(『LDI Report』1999(5) p.29-53. ライフデザイン研究所)
- 松信ひろみ「家族」(栗田宣義(編)『データブック/社会学：調査データでわかる日本社会』 p.8-14. 川島書店 1800円)
- 松信ひろみ「郊外家族と近代家族：郊外における妻の就業と家族の変容の可能性」(園部雅久(編)『脱工業型都市の社会分析：サービスクラス増大の社会的意味』 p.112-120. 平成8～10年度文部省科学研究費補助金報告書)
- 目黒依子「少子化のジェンダー分析」(『家族政策および労働政策が出生率および人口に及ぼす影響に関する研究』国立社会保障・人口問題研究所 平成8-10年度厚生省科学研究総合研究報告)
- 目黒依子「企業主義と家族」(目黒依子・渡辺秀樹(編)『家族(講座社会学2)』 p.59-88. 東京大学出版会)
- 目黒依子「総論日本の家族の『近代性』：変化の収斂と多様性の行方」(目黒依子・渡辺秀樹(編)『家族(講座社会学2)』 p.1-20. 東京大学出版会)

- 南山浩二「精神障害者のコミュニティアクトにおいてきょうだい世代が果たする役割：「役割拘束」を鍵概念としての一考察」（『社会福祉学』40(1) p.234-250. 日本社会福祉学会）
- 南山浩二「精神医療保健福祉システムの変容と精神障害者家族研究」（『人文論集』50(1) p.1-19. 静岡大学人文学部）
- 三善勝代「海外派遣者の配偶者の生活と意識：北京での予備調査を基に」（『和洋女子大学紀要』39(家政系) p.57-69. 和洋女子大学）
- 三善勝代「北京における日本企業の海外派遣施策概況：派遣者の配偶者の視点から」（『産業・組織心理学発表論文集』第15回大会 p.52-55. 産業・組織心理学学会第15回大会準備委員会）
- 森岡清美「明治初期の華族社会における妾」（『淑徳大学社会学部研究紀要』33 p.99-141. 淑徳大学社会学部）
- 永井広克「女と男の恋愛・結婚」（森 典子・上松由紀子・秋山憲治(編)『新版おもしろ男女共生の社会学』 p.78-97. 学文社 2600円）
- 永井広克「主婦の家族観：50才の場合」（『富山女子短期大学紀要』34 富山女子短期大学）
- 長津美代子・濱田由紀子「中年期における女性の夫婦間ディストレス」（『日本家政学会誌』50(8) p.793-805. 日本家政学会）
- 中里英樹「近世日本家族史とライフコース・アプローチ：宗門改帳を用いた農民家族研究の可能性」（『松阪大学紀要』17(1) p.69-78. 松阪大学学術研究会）
- 中里英樹「近世東北農村における高齢者の居住形態：親子一時別居のパターン」（『家族研究論叢』5 p.3-19. 奈良女子大学生活環境学部生活文化研究室(家族研究部門)）
- 中里英樹「世帯(家族)類型の分析」（三重県高等教育機関連絡会議(編)『中山間地域のまちづくりの方向と可能性研究報告書』 p.14-23.）
- 中里英樹「家族関係と地域生活」（三重県高等教育機関連絡会議(編)『中山間地域のまちづくりの方向と可能性研究報告書』 p.29-38.）
- 野田哲朗・清水新二他「阪神・淡路大震災が被災地断酒会に及ぼした影響(第1報)：震災後の断酒会活動の実態」（『日本社会精神医学会雑誌』7(3) p.219-228. 日本社会精神医学会）
- 野田哲朗・清水新二他「阪神・淡路大震災が被災地断酒会に及ぼした影響(第2報)：震災後の断酒会員の实態」（『日本社会精神医学会雑誌』7(3) p.229-238. 日本社会精神医学会）
- 野々山久也「現代家族の変動過程と家族ライフスタイルの多様化：任意制家族の生成に向かって」（目黒依子・渡辺秀樹(編)『家族(講座社会学2)』 p.153-190. 東京大学出版会）
- 野々山久也「家族ライフスタイル論の展開：任意制家族の生成を背景にして」（『甲南大学紀要 文学編：社会科学特集』109 p.39-63. 甲南大学）
- 野々山久也「家族研究における理論展開：総括と展望」（野々山久也・渡辺秀樹(編)『家族社会学入門』 p.13-41. 文化書房博文社）
- 野沢慎司「家族研究と社会的ネットワーク論」（野々山久也・渡辺秀樹(編)『家族社会学入門：家族研究の理論と技法(社会学研究シリーズ：理論と技法1)』 p.162-191. 文化書房博文社 2700円）
- 野沢慎司「妻たちの援助動員にみる地域差：夫婦関係と援助ネットワークに対する大都市居住効果」（石原邦雄(編)『妻たちの生活ストレスとサポート関係：家族・職業・ネットワーク(都市研究叢書16)』 p.203-238. 東京都立大学都市研究所 1080円）
- 野沢慎司「夫の援助とネットワークの援助は競合するか?：東京郊外と地方都市における妻たちの援助動員」（石原邦雄(編)『妻たちの生活ストレスとサポート関係：家族・職業・ネットワーク(都市研究叢書16)』 p.239-261. 東京都立大学都市研究所 1080円）
- 小田利勝「子どもの発達環境」再考」（『人間科学研究』7(1) p.1-21. 神戸大学発達科学部人間科学研究センター）
- 岡本朝也「「家族」の誕生：ディスクリールの成立と構造」（『比較家族史研究』13 p.88-113. 比較家族史学会）
- 斧出節子「スウェーデンにおけるフォーマルな育児支援と家庭での育児実態：イエーテボリ市でのインタビュー調査から」（『華頂短期大学研究紀要』44 p.12-33. 華頂短期大学）
- Park, Keong-Suk, Ik Ki Kim and Hiroshi Kojima. "Intergenerational Co-residence and Nearness in Korea and Japan: Unbalanced Aspects of Family Changes" 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.93-115. Japan Sociological Society.
- 笹谷春美「家族ケアリングをめぐるジェンダー関係」（鎌田とし子・木本喜美子・矢澤澄子(編)『ジェンダー(講座「社会学」(14))』 p.213-248. 東京大学出版会）
- Sato, Yoshiko. "A Comparative Study of Socialization between Japanese and English Pre-school Children" 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.51-76. Japan Sociological Society.

- 千田有紀「家父長制の系譜学」（『現代思想』27(1) p.197-209. 青土社）
- 千田有紀「家」のメタ社会学：家族社会学における「日本近代」の構築」（『思想』1999(4) p.75-103. 岩波書店）
- 千田有紀「家族社会学の問題構制：「家」概念を中心として」（『社会学評論』50(1) p.91-104. 日本社会学会）
- 四方壽雄「家族の崩壊」（四方壽雄(編)『家族の崩壊』ミネルヴァ書房 3000円）
- 四方壽雄「離婚」（四方壽雄(編)『家族の崩壊』ミネルヴァ書房 3000円）
- 島 直子「日米における夫婦の育児役割の変化：ファーザリング概念の視点から」（『比較家族史研究』13 p.69-87. 弘文堂）
- 島 直子「性別役割分業を維持する意識構造：“愛情”イデオロギーの視点から」（『年報社会学論集』12 p.26-37. 関東社会学会）
- 清水新二「疫学 B. アルコール関連」（佐藤光源・州脇 寛(編)『薬物アルコール関連障害（臨床精神医学講座8）』 p.41-53. 中山書店）
- 清水新二・麻生克郎・野田哲朗他「阪神淡路大震災と断酒会活動：断酒会調査自由記載回答分析」（『精神保健研究』45 p.77-94. 国立精神・神経センター, 精神保健研究所）
- 清水新二他「アルコール依存症の軽症化をめぐる：全国8精神病院調査より」（『日本精神神経学雑誌』101(5) p.411-426. 日本精神神経学会）
- 清水新二「こころのパニック：アルコール依存症家族の危機介入」（日本家族心理学会(編)『家族心理学年報』17 p.97-113. 金子書房）
- 清水新二「ストレスと飲酒」（『公衆衛生』63(4) p.252-257. 医学書院）
- 清水由文「農村における家族変動の一考察」（『桃山学院大学社会学論集』33(1) p.1-37. 桃山学院大学総合研究所）
- 志村明子「戦時期における女性運動(下)：婦選獲得同盟と市川房枝を中心に」（『中京大学社会学部紀要』14(1) p.1-26. 中京大学社会学部紀要編集委員会）
- 品田知美「日米女性の家事時間」（『社会学評論』50(3) p.362-374. 日本社会学会）
- 品田知美「(労働)の贈与：unpaid work 概念の成立」（『情況』12月号別冊 p.362-374. 情況出版）
- 進藤雄三「家族論の現在」（中川 清(編)『家族論を学ぶ人のために』 p.42-55. 世界思想社）
- 杉井潤子「エイジングと社会：長寿社会に向けて」（満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』 p.207-220. 朝日新聞社 3000円）
- 杉井潤子「老人虐待の実状と支援の視点」（『現代のエスプリ：ファミリーバイオレンス：家庭内の虐待と暴力』1996(6) p.163-173. 至文堂 1190円）
- 住田正樹・藤井美保「育児不安に関する研究：父親の場合」（『大学院教育学研究紀要』1 p.79-98. 九州大学大学院人間環境学研究所発達・社会システム専攻教育学コース）
- 鈴木未来「改革開放以降の中国における家族問題」（『立命館産業社会論集』35(2) p.77-93. 立命館大学産業社会学会）
- 鈴木未来「現代中国における家族社会学の展開と課題」（『立命館産業社会論集』34(4) p.143-166. 立命館大学産業社会学会）
- 田淵六郎「家族戦略」研究の可能性：概念上の問題を中心に」（『人文学報(社会福祉学)』300 p.87-117. 東京都立大学人文学部）
- 田淵六郎「家族戦略と現代家族の変容」（庄司興吉(編)『共生社会の文化戦略：現代社会と社会理論：支柱としての家族・教育・意識・地域』 p.43-67. 梓出版社）
- 田淵六郎「家族による被害の経験」（飯島伸子・舩橋晴俊(編)『新潟水俣病問題：加害と被害の社会学』 p.129-149. 東信堂）
- 田淵六郎「家族の理論研究とその枠組み」（野々山久也・渡辺秀樹(編)『家族社会学入門』 p.277-294. 文化書房博文社）
- 多賀 太「男らしさ」と「男性問題」（『青少年問題』46(2) p.24-29. 財団法人青少年問題研究会）
- 高橋博子「高齢者の居住形態：性別・年齢5歳階級別分析の地域比較：家族類型に「施設等の世帯」を加えた1995年国勢調査の二次的統計」（『エストレーラ』1999(3) p.58-63. 財団法人統計情報研究開発センター(略称 Sinfonica)）
- 竹下修子「戦争花嫁に関する一考察」（『歴史民俗学』13 p.102-117. 批評社 2000円）
- 田中重人「意識の男女差と結婚の遅れ：第10回出生動向基本調査独身者票「女性の人生コース」再分析」（『季刊家計経済研究』41 p.64-70. 家計経済研究所）
- 太郎丸博「近代家族規範の構造：検証的因子分析による男女比較」（山本嘉一郎・小野寺孝義(編)『Amosによる共分散構造分析と解析事例』 p.83-96. ナカニシヤ出版 3500円）
- 坪内玲子「佐賀鍋島藩藩士における家系の継承と人口学的制約」（『龍谷紀要』21(1) p.1-12. 龍谷大学）

- 土屋 葉「全身性障害者の「家族」をめぐるリアリティ構成」(『Sociology Today』9 p.17-27. 御茶ノ水社会学研究会)
- 土屋 葉「全身性障害者の語る「家族」:「主観的家族論」の視点から」(『家族社会学研究』11 p.59-69. 日本家族社会学会)
- Tsuneyoshi, Ryoko. "An Introductory Note to the Special Issue on Socialization" 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.1-3. Japan Sociological Society.
- Tsutsumi, Masae. "A Life Course Study of Stem Family Women in Rural Japan: A Comparison of the Changes over Three Generations" 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.117-140. Japan Sociological Society.
- 上野千鶴子「家族の未来」(『NIRA 政策研究』12(3) p.62-65. 総合研究開発機構)
- 渡辺友左「日本方言親族語彙の言語社会学的研究(2)」(『中京大学社会学部紀要』14(1) p.39-67. 中京大学社会学部)
- 蕭 紅燕「婚姻規制と規範の逸脱: 中国四川農村の事例から」(『高知論叢(社会科学)』65/66 p.201-239. 高知大学経済学会)
- 矢部拓也「年賀状事例調査を通じての大都市のパーソナルネットワーク」(『総合都市研究』69 p.137-150. 東京国立大学都市研究所)
- 矢島正見「ドヤ街」(四方壽雄(編)『家族の崩壊』 p.270-284. ミネルヴァ書房 3000円)
- 山田昌弘「愛情装置としての家族」(目黒依子・渡辺秀樹(編)『家族(講座社会学(2))』 p.119-151. 東京大学出版会 2800円)
- 山田昌弘「現代社会における子育ての「意味」の危機」(『家族社会学研究』11 p.49-57. 家族社会学会)
- 山田昌弘「都市の少子化問題」(東京都職員研修所(編)『少子社会を考える』 p.123-130. 東京都職員研修所)
- 大和礼子「「集団」としての家族・「組織」としての家族・「ネットワーク」としての家族」(組織とネットワーク研究班(編)『組織とネットワークの研究』 p.11-56+233p. 関西大学経済・政治研究所)

## 7. 農漁山村・地域社会

### (Rural/Fishing/Mountain Village, Community)

- 油川 洋「地方新聞の地域占有率と地域性」(社)山形県社会経済研究所(編)『山形県社会経済研究所年報』12 p.77-98. (社)山形県社会経済研究所 2000円)
- 油川 洋「財政力指数からみた地方財政の現況: 東北の地方自治体の財政力」(東北郵政局貯金部(編)『東北郵政局平成10年度委託研究論文集: 地域金融・経済と地域社会に関する調査研究』 p.1-34. 東北郵政局 非売品)
- 油川 洋「地方分権と地方財政の相関性: 地方分権推進一括法の意義」(尚綱女学院短期大学)宍戸朗大(編)『尚綱女学院短期大学研究報告』46 p.111-122. 尚綱女学院短期大学 非売品)
- 荒樋 豊「女性グループの広域ネットワークと地域密着的活動」(農村生活総合研究センター(編)『農業経営の発展とその要因に関する調査研究報告書』 p.81-92. 農村生活総合研究センター)
- 荒樋 豊「多様な担い手構成とゆるやかな地域連合の道」(農村生活総合研究センター(編)『農業経営の発展とその要因に関する調査研究報告書』 p.69-80. 農村生活総合研究センター)
- 荒樋 豊「農村社会の変動と地域づくり」(『農村計画学会誌』18(3) p.199-203. 農村統計協会)
- 荒樋 豊「フランスにおけるグリーンツーリズムの支援組織」(『村落社会研究(ジャーナル)』11 p.41-46. 農山漁村文化協会)
- Fujimura, Miho. "Nature and Social Relations: The Farm of Property of Japanese Mura" 'Asian Geographer.' 18(1/2) p.75-86. The University of Hong Kong.
- 原田勝弘・水谷史男・渡辺暁雄・立山徳子・村上雅昭「エイジング問題の実証的研究: 加計呂麻島調査をめぐって」(『研究所年報』29 p.107-118. 明治学院大学社会学部付属研究所)
- 長谷川秀樹「国境を超える島嶼間連携: 地中海西部島嶼連合(IMEDOC)の形成」(『しま』178 p.23-37. 財団法人日本離島センター)
- 細谷 昂「明治農法導入・定着期における情報過程: 山形県庄内地方の事例」(『総合政策』1(1) p.21-36. 岩手県立大学総合政策学会)
- 石川雅典「地域社会とは何か」(谷 勝英・永井秀世(編)『現代社会と地域福祉』 p.63-73. 中央法規出版)
- 石坂督規「農村女性の家族内役割の現況: 岡山県児島郡灘崎町北七区の事例」(『社会文化論集』6 p.99-138. 広島大学大学院社会科学研究所)

- 菅野 正「戦前期日本の地域支配と官僚制」(『社会学研究』新明正道先生生誕百年特別号 p. 213-237. 東北社会学研究会)
- 交野正芳「地域生活と社会組織」(舞阪町史編さん委員会(編)『舞阪町史(下巻)』 p. 941-959. 舞阪町役場)
- 河村能夫「住民参加型農村開発計画を支援するサポート側のマニュアル作成のための基本的枠組み(調査報告)」(京都府(編)『農業/農村将来構造調査報告書: 情報化時代における住民参加型農村ビジョンづくりの支援について』 p. 46-63. 京都府)
- 河村能夫「農政大綱の実現化に向けて、地域における現実化に向けて: 農業経済研究に何が期待されるか」(『農業と経済』65(5) 富民協会/毎日新聞社 630円)
- 河村能夫・稲本志良「地域農林経済研究の研究手法と課題: メゾ・エコノミクスの構築をめざして」(地域農林経済学会(編)『地域農林経済研究の課題と方法』 p. 43-65. 富民協会 4286円)
- 河村能夫「住民参加型農村開発のための計画立案方法: 支援マニュアル作成の基本的枠組」(『龍谷大学社会科学研究所年報』29 p. 57-66. 龍谷大学社会科学研究所)
- 河村能夫「農業政策と活性化パラダイムの転換」(『農業経済論集(九州農業経済学会誌)』50(1) p. 1-8.)
- 菊池美代志「町内会・自治会の道(1)(2)(3)」(『まち・むら』66, 67, 68 p. 44-46. あしたの日本を創る協会)
- 北原 淳「中部タイ農村社会の四半世紀: 一集落の変化を題材に」(『国際協力論集』7(1) p. 73-111. 神戸大学大学院国際協力研究科)
- 北島 滋「開発・工業化の伸展と地域産業構造の変容」(北川隆吉(編)『講座社会学5: 産業』 p. 87-97, p. 119-131. 東京大学出版会 2800円)
- 小島 茂「ラスベガスのまちづくり」(『SIBA』36 8p.. 静岡県国際経済振興会)
- 米田公則『高度情報化社会におけるネットワークと地域文化』(武長脩行(編)文化情報論序説 p. 184-197. 学文社 2500円) 椋山女学園大学研究叢書5)
- 窪田和美「サラリーマン・シニアの地域活動と新しい高齢者像: サラリーマン・シニアの意識と行動に関する調査から」(『龍谷大学社会学部紀要』14 p. 18-38. 龍谷大学社会学部学会)
- 熊谷苑子・榊湯俊子・田嶋淳子「女性出稼ぎ労働者の生活と意識: 中国江蘇省T市M村の調査から」(『淑徳大学大学院研究紀要』6 p. 99-127.)
- 黒田英一「製造現場の生活学的考察: 茨城県S工場の観察から」(『研究紀要』21(4) p. 81-103. 青森大学・青森短期大学学術研究会)
- Kuroyanagi, Haruo. "Simpan Pinjam: Accumulating Savings and Credit Association for Locally Important Mutual Funds in Rural Java" 'The Journal of Sugiyama Jogakuen University (Social Science).' 30 p. 43-51. Sugiyama Jogakuen University.
- 町村敬志「「豊かさ」の語りの行方: 「地域開発」という思考の転機」(『都市問題研究』51(2) p. 78-108. 都市問題研究会)
- 町村敬志「地域開発としての博覧会: 愛知万博招致をめぐる社会過程」(一橋大学社会学部町村ゼミナール(編)『博覧会をめぐる「地元」の社会学: 2005年愛知万博と瀬戸地域開発』 p. 1-22. 一橋大学社会学部町村ゼミナール)
- 牧野修也「近代資本主義と変容する農業・農村: ブルデューのアルジェリア研究を手がかりに」(P.ブルデュー社会学研究会(編)『象徴的支配の社会学: ブルデューの認識と実践』 p. 147-172. 恒星社厚生閣 4500円)
- 松宮 朝「『有機農業』を媒介にした集合行為の多元的位相」(『現代社会学研究』12 p. 18-34. 北海道社会学会)
- 松野 弘「現代地域問題の変容と転換期の市民参加: 〈対立的問題〉から〈協働的問題〉への転換の可能性」(『まちづくり研究年報』2 p. 20-32. まちづくり学会)
- 満田久義「ネオ・ルーラリズム論再考」(『社会学部論集』32 p. 65-82. 佛教大学社会学部)
- 宮内泰介「ソロモン諸島の村から: 地域住民の視点との復讐作業で「環境」を考える」(朝日新聞社(編)『新環境学がわかる(アエラムック)』 p. 38-41. 朝日新聞社 1050円)
- 永井 彰「農村地域社会における地域医療・福祉システムをめぐる問題情況」(『文化』63(1/2) p. 73-92. 東北大学文学会)
- 中桐規碩「産業の衰退が人口過疎に及ぼす影響について: 愛媛県関前諸島小大下島の石灰石鉱業の事例を中心に」(『くらしき作陽大学・作陽短期大学「研究紀要」』32(1) p. 1-14. くらしき作陽大学・作陽短期大学)
- 中井道夫「産廃処分場建設計画をめぐる村落の意思決定」(『社会学研究』25 p. 15-51. 山梨学院大学社会科学研究所)
- 中田 實「21世紀社会の特質と地域コミュニティ」(『コミュニティ政策研究』1 p. 41-54. 愛知学泉大学コミュニティ政策研究所)

- 野辺政雄「高梁市高齢女性のパーソナル・ネットワークと主観的幸福感調査」の基礎分析（『岡山大学教育学部研究集録』112 p.57-78. 岡山大学教育学部）
- 野辺政雄「地方都市に住む高齢女性の主観的幸福感」（『理論と方法』14(1) p.105-123. 数理社会学会）
- 小内 透・湯本 誠・津田光輝・酒井恵真・小内純子「日系ブラジル人の定住化と地域社会」（『調査と社会分析』3 p.1-173. 札幌学院大学人文学部社会調査室）
- 押小路忠昭「郊外型住宅におけるコミュニティの現状と高齢化の課題」（『社会研究』29 p.41-65.）
- 酒井恵真・小内 透「外国人労働者の定住化と地域社会：群馬県太田・大泉地区を事例として」（『地域社会学会年報』11 p.38-56. ハーベスト社）
- 佐久間政広「山村における高齢者世帯の生活維持と村落社会：宮城県七ヶ宿町Y地区の事例」（『村落社会研究』10(5(2)) p.36-47. 日本村落研究学会）
- 佐藤利明「地方工業都市の産業構造の変容と港湾整備：青森県八戸市の事例」（『総合政策』1-2 p.243-257. 岩手県立大学総合政策学会 非売品）
- 庄司興吉「地域社会の「計画行政」と言説戦略：環境・情報社会の構想をめざして」（庄司興吉(編)『共生社会の文化戦略：現代社会と社会理論：支柱としての家族・教育・意識・地域』 p.273-313. 梓出版社）
- 庄司興吉「日本市民社会と地域格差の問題：准中枢・中枢内周縁の個性構築」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『市民性の変容と地域・社会問題：21世紀の市民社会と共同性・国際化と内面化』 p.214-244. 梓出版社）
- 菅 康弘「脱都市移住者の群像：'Stranger-native interaction'の理解のために」（『甲南大学紀要(文学編)』109 p.140-166. 甲南大学）
- 立川雅司「農業の産業化とバイオテクノロジー」（『村落社会研究』6(1) p.19-29. 農山漁村文化協会）
- 立川雅司「アメリカ土地付与大学にみる農業研究と地域社会」（『農業と経済』65(6) p.68-75. 富民協会）
- Takahashi, Akiyoshi. "Food and Peasant Problems in China" 'The Journal of Tokyo International University: The School of Human and Social Sciences.' 5 p.75-92. Tokyo International University.
- 武田尚子「地域のアイデンティティの形成：マニラへの移民送出の村(広島県沼隈郡田島村)を事例に」（『社会学評論』50(3) p.393-408. 日本社会学会）
- 立山徳子「模索される地方都市像と世代間認識：秋田県大館市市民調査からの第1次報告」（『研究所年報』29 p.17-28. 明治学院大学社会学部付属研究所）
- 戸島信一「資本主義経済の展開と農業における家族経営の存続」（『九州大学農学部学芸雑誌』53(1-4) p.71-77. 九州大学農学部）
- 渡邊 登「新たな地域社会形成主体の胎動(4)：地元自営業者たちの動き：T.M氏の場合(前編)」（『社会運動』233 p.27-43. 市民セクター政策機構）
- 蕭 紅燕「改革開放後の中国農村における村落統合と権力構造の変化：四川のフィールドノートから」（『高知論叢(社会科学)』64 p.177-200. 高知大学経済学会）
- 山本 努「地域生活構造の統計的研究」（松田芳郎(編)『統計情報活用のフロンティアの拡大：マイクロデータによる社会構造解析』 p.378-385. (財)統計情報研究開発センター 7000円）
- 山本 努・加来和典「過疎山村の地域意識と人口還流：大分県日田郡中津江村調査」（『社会分析』26 p.31-46. 日本社会分析学会）
- Yamamoto, Tsutomu, Kazunori Kaku, Kazuyoshi Takano and Hisataka Kobayashi. "Statistical Analysis of Community Life Structure in Depopulated Areas" 'The Hiroshima Prefectural University Review.' 3(1) p.113-124. Hiroshima Prefectural University.
- 矢内 諭「住民と行政による地域文化の活性化に関する研究」（東北工業大学(編)『東北工業大学紀要II 人文社会科学編』19 p.9-30. 東北工業大学）
- 吉沢四郎「地域経済の発展と中小企業：中国の郷鎮企業を事例として」（前田重朗・石崎忠司(編)『中小企業の現状とこれからの経営：21世紀の中小企業経営』 p.253-289. 中央大学出版部 3900円）

## 8. 都 市 (Urban Society)

- 鯉坂 学「都市比較の視角：都市研究と都市類型」（鯉坂 学・高原一隆(編)『地方都市の比較研究』 p.3-20. 法律文化社）

- 鱒坂 学「広島市：未完の国際平和文化都市」（鱒坂 学・高原一隆(編)『地方都市の比較研究』 p.99-116. 法律文化社)
- 鱒坂 学「高梁市：学園文化観光都市をめざして」（鱒坂 学・高原一隆(編)『地方都市の比較研究』 p.214-229. 法律文化社)
- 赤坂真人「ライフラインと危機管理：電力の早期復旧を可能としたもの」（『中国短期大学紀要』1999(30) p.117-132.)
- 阿久津昌三「文学と社会科学との間：都市文学と都市研究」（川合隆男・藤田弘夫(編)『都市論と生活論の祖型：奥井復太郎研究』 p.245-266. 慶應義塾大学出版会 5600円)
- 阿久津昌三「都市空間と祭礼空間：祭りの都市社会学にむけて」（藤田弘夫・吉原直樹(編)『都市社会学』 p.157-176. 有斐閣 2200円)
- 藤田弘夫「都市社会学の方法と対象」（藤田弘夫・吉原直樹(編)『都市社会学』 p.2-19. 有斐閣 2200円)
- 藤田弘夫「都市論：光と闇の歴史社会学」（『情況：現代社会学のトポス』1999(12)別冊 p.145-161. 情況出版 2900円)
- 藤田弘夫「都市の誕生」（奈良女子大学古代学研究センター準備室(編)『都市の誕生』 奈良女子大学古代学研究センター準備室 非売品)
- 藤田弘夫「奥井都市論と欧米の社会科学：ラスキン・ドイツ中世都市・シカゴ学派」（川合隆男・藤田弘夫(編)『都市論と生活論の祖型：奥井復太郎研究』 p.39-62. 慶應義塾大学出版会 5600円)
- 藤田弘夫「都市とは何か：飢餓のパラドックス」（『日本古代史「王城と都市」の最前線：宮と都の謎を解く(別冊歴史読本；05 最前線シリーズ)』 p.10-16. 新人物往来社 2400円)
- 藤田弘夫「都市と環境：モダニティとアーバニズム」（『情況：都市・環境・モダニティ』1999(10) p.49-64. 情況出版 1330円)
- 今西一男「土地区画整理事業における立体換地の実施過程と計画課題に関する研究：愛知県春日井市勝川駅前地区・勝川駅南口周辺地区を事例に」（『1999年度第34回日本都市計画学会学術研究会論文集』 p.829-834. 日本都市計画学会)
- 河原晶子「「職」と「住」の充実をめざすまちづくりのために」（立命館大学守口市調査研究会(編)『みんなで考えよう!守口のモノづくり・街づくり：守口市内の製造業実態調査報告書』 8p.. 自治体研究社 1500円)
- 河原晶子「守口市の性格の多面性と市民の職業構成」（立命館大学守口市調査研究会(編)『みんなで考えよう!守口のモノづくり・街づくり：守口市内の製造業実態調査報告書』 10p.. 自治体研究社 1500円)
- 川合隆男「奥井復太郎の都市社会調査」（川合隆男・藤田弘夫(編)『都市論と生活論の祖型：奥井復太郎研究』 p.183-206. 慶應義塾大学出版会)
- 菊池美代志「近代都市の社会構造：大垣市調査」（『帝京社会学』12 p.81-121. 帝京大学文学部社会学科)
- 小西二郎「変動期における青年の(友人ネットワーク-自己)の連関に対する分析視角の検討(上)：高橋勇悦氏の「1.5次関係」論を手掛かりにして」（『北海道大学教育学部紀要』79 p.145-168. 北海道大学教育学部 非売)
- 熊田俊郎「奥井都市論と都市社会学」（川合隆男・藤田弘夫(編)『都市論と生活論の祖型：奥井復太郎研究』 慶應義塾大学出版会)
- 熊田俊郎「都市と全体社会」（藤田弘夫・吉原直樹(編)『都市社会学』 p.22-40. 有斐閣)
- 倉田和四生・殷 秀「中国における都市社区の構造と変動」（『関西学院大学社会学部紀要』83 p.15-28. 関西学院大学社会学部)
- 町村敬志「グローバル化と都市：なゼイラン人は「たまり場」を作ったのか」（奥田道大(編)『講座 社会学4：都市』 p.159-211. 東京大学出版会)
- 松本 康「都市社会の構造変容：都市社会-空間構造と社会的ネットワーク」（奥田道大(編)『講座社会学4：都市』 p.105-158. 東京大学出版会 3200円)
- 松本 康「年齢と社会構造：95年名古屋調査データによる分析」（『名古屋大学社会学論集』20 p.45-80. 名古屋大学文学部社会学研究室)
- 松尾浩一郎「社会的実験室としての東京：奥井復太郎の都市研究とその時代」（川合隆男・藤田弘夫(編)『都市論と生活論の祖型：奥井復太郎研究』 p.63-91. 慶應義塾大学出版会)
- 満田久義「人々が都会を抜け、田園をめざす(2章 地域と社会)」（満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』 p.30-41. エムアンドエヌインターナショナル 3000円)
- 満田久義「大学創造と都市活性化」（『日本計画行政学会関西支部年報』18)
- 三浦典子「産業都市における市民団体の諸類型」（『山口大学文学会誌』49 p.137-153. 山口大学文学会)



- 文 貞實「被災コミュニティと在日韓国・朝鮮人の復興戦略」(岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎(編)『阪神・淡路大震災の社会学(第3巻):復興・防災のまちづくりの社会学』 p.186-206. 昭和堂)
- 西村雄郎「都市類型別にみた住民の都市評価と地域社会関与」(鯉坂 学・高原一隆(編)『地方都市の比較研究』 p.251-266. 法律文化社 9500円)
- 西村雄郎「金沢:岐路にたつ内発的発展」(鯉坂 学・高原一隆(編)『地方都市の比較研究』 p.168-185. 法律文化社 9500円)
- 西村雄郎・国場孝子「震災と郷友会」(岩崎信彦・他(編)『阪神・淡路大震災の社会学』 p.212-223. 昭和堂 4700円)
- 西村雄郎「阪神都市圏における流入労働者の「定住」構造」(『地域社会学年報』11 p.57-78. ハーベスト社)
- 西浦 功「ボランティア活動観に関する実証的研究」(『現代社会学研究』12 p.71-87. 北海道社会学会)
- 野辺政雄「都市住民の社会的ネットワーク:都市比較の視点から」(鯉坂 学・高原一隆(編)『地方都市の比較研究』 p.267-281. 法律文化社 9500円)
- 野辺政雄「岡山市:発展を模索する地方中核都市」(鯉坂 学・高原一隆(編)『地方都市の比較研究』 p.132-151. 法律文化社 9500円)
- 野辺政雄「近年におけるキャンベラの都市開発の変容:日本の首都機能移転に示唆するもの」(『日本都市社会学年報』17 p.73-90. 日本都市社会学会)
- 野辺政雄「高齢者の社会的ネットワークとソーシャル/サポートの性別による違いについて」(『社会学評論』50(3) p.375-392. 日本社会学会)
- 荻野昌弘・田並尚恵「被災者の軌跡:人々は阪神大震災の後どのように移動したか」(安保則夫(編)『震災・神戸の社会学:被災地のまなざし』 p.41-62. 八千代出版)
- 荻野昌弘・田並尚恵「震災後の被災者の移動・移転:震災から8月まで」(岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎(編)『阪神・淡路大震災の社会学(第1巻):被災と救援の社会学』 p.111-124. 昭和堂)
- 荻野昌弘「あるマンションの再建問題」(岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎(編)『阪神・淡路大震災の社会学(第3巻):復興・防災まちづくりの社会学』 p.236-246. 昭和堂)
- 荻野昌弘「地方自治体の対応と住宅」(岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎(編)『阪神・淡路大震災の社会学(第2巻):避難生活の社会学』 p.326-344. 昭和堂)
- 大原径子「阪神大震災四年目の生活再建過程:神戸市長田区鷹取東地区における事例研究」(『社会学雑誌』16 15p. 神戸大学社会学研究会)
- 奥田道大「都市と都市社会学にとっての1990年代」(奥田道大(編)『都市(講座社会学4)』 p.1-28. 東京大学出版会 3200円)
- 奥田道大「都市コミュニティの再定義:より大きな都市コミュニティの枠組みへ」(奥田道大(編)『都市(講座社会学4)』 p.257-306. 東京大学出版会 3200円)
- 奥田道大「コミュニティとはなにか」(『保健婦雑誌』55(8) p.642-646. 医学書院)
- 大倉健宏「都市社会学者の臨書:街角からの社会学3:サンフランシスコでのフィールドワークから」(『国際理解』12 p.87-91. 福島女子短期大学)
- Otani, Shinsuke. "Personal Community Networks in Contemporary Japan" Wellman, Barry (eds.). 'Networks in the Global Village: Life in Contemporary Communities.' p.279-297. Boulder, Colorado: Westview Press.
- 大坪省三「帯広市集団・組織考」(『日本都市社会学年報』17 p.145-154. 日本都市社会学会)
- 大坪省三「帯広市集団・組織一覽と知見」(『東洋大学社会学部紀要』36(2) p.153-278. 東洋大学社会学部)
- 田所承己「テーマパーク化する空間環境:地域型テーマパークと〈観光のまなざし〉」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』44(第1分冊) p.63-73. 早稲田大学大学院文学研究科)
- 高木恒一「東京における都心の変容とアッパーミドル層」(『日本都市社会学年報』17 p.23-37. 日本都市社会学会)
- 高木恒一「ミドルクラスの変容と郊外」(園部雅久(編)『脱工業型都市の社会分析:サービスクラス増大の社会学的意味』 p.46-55. 上智大学 平成8~平成10年度科学研究費補助金(基礎研究(B)(2)研究成果報告書)
- 高橋英博「吉備高原都市:「新都市」の形成とその諸相」(鯉坂 学・高原一隆(編)『地方都市の比較研究』 p.230-247. 法律文化社)
- 高橋英博「工業構造の高度化と地域工業の対応:八戸市の鉄工業界の事例」(『宮城学院女子大学研究論文集』89 p.25-51. 宮城学院女子大学文化学会)

- 武田尚子「都市流入者と出身地域という属性：広島県沼隈郡内海町出身者の大阪における同郷団体」（『日本都市社会学年報』17 17p. 日本都市社会学会）
- 玉野和志「巨大都市化の発展類型と地域：脱地域化と再地域化のダイナミズム」（奥田道大（編）『都市（講座社会学4）』p. 29-64. 東京大学出版会）
- 玉野和志「都市祭礼の復興とその担い手層：『小山両社祭』を事例として」（『都市問題』90(8) p. 25-38. 東京市政調査会）
- 店田廣文「エジプトの人口変動と都市化：1966～96年における諸都市の発展」（『現代の中東』27 p. 78-87. アジア経済研究所）
- 棚山 研「避難所運営を巡る，教員，ボランティア，避難者の関係：長田区M小学校を事例として」（岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎（編）『阪神・淡路大震災の社会学（第2巻）：避難生活の社会学』 p. 55-65. 昭和堂）
- 立山徳子「（郊外）再考：語られてきた（郊外）とその現実」（『上智大学社会学論集』22/23 p. 121-139. 上智大学社会学科）
- 寺田篤弘「在日外国人に対する地方行政の対応：民との協力と医療サービス」（『日本大学精神文化研究所紀要』30 p. 21-33. 日本大学精神文化研究所）
- 上野淳子「テーマ都市：居住空間の商品化と郊外開発に関する一考察」（『社会学論集』22/23 p. 219-236. 上智大学社会学科）
- 渡戸一郎「グローバル化と都市社会の変動」（藤田弘夫・吉原直樹（編）『都市社会学』 p. 59-77. 有斐閣）
- 湯浅俊郎「都市同郷団体の生成と変容：石川県小松市、加賀市出身者（加賀浴友会）を事例にして」（『同志社社会学研究』3 p. 41-64. 同志社社会学研究会）

## 9. 生活構造 (Life Structure)

- 秋山憲治「生活の質の高低とは何か」（内田 健（編）『「生活の質」研究の基礎 III』 p. 21-34. 早稲田大学人間総合研究センター）
- Hashimoto, Kazutaka. "The Japanese Way of Life before and after World War II" 'Bulletin of Kanto Gakuin University.' 87 p. 57-80. Society of Humanities Kanto Gakuin University.
- 黒田英一「事例調査にみる団塊の世代経営者」（『研究紀要』22(2) p. 99-118. 青森大学・青森短期大学学術研究会）
- 野沢慎司「パーソナル・ネットワーク・メンバーの多様性：東京・台東区と三鷹市の比較」（渡戸一郎（編）『大都市における都市構造の転換と社会移動に関する実証的研究』 p. 93-105. 非売品文部省科学研究費補助金研究成果報告書）
- 野沢慎司・宮本佳範・岡本 香「現代日本における「小さな世界問題」の探究：静岡から横浜への郵便と電子メールによる連鎖ネットワーク」（渡戸一郎（編）『大都市における都市構造の転換と社会移動に関する実証的研究』 p. 189-203. 非売品 文部省科学研究費補助金研究成果報告書）
- 岡本晴行「避難所の運営と責任者」（岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎（編）『阪神・淡路大震災の社会学2：避難生活の社会学』 p. 36-54. 昭和堂 4700円）
- 立山徳子・長谷川万希子・岡村清子・安藤孝敏・新名正弥・元治恵子「都市単身高齢者の生活実態：記述的研究」（『明治薬科大学研究紀要（人文科学・社会科学）』29 p. 75-84. 明治薬科大学）

## 10. 政治・国際関係 (Politics, International Relations)

- 中馬祥子「世界システムにおける非市場労働の役割」（庄司興吉（編）『世界社会と社会運動』 p. 60-82. 梓出版社）
- 中馬祥子「世界システム論の革新性の中心：「人間開発」批判の文脈で」（『情況』1999(4)別冊 p. 169-190. 情況出版）
- 駄場裕司「帝人事件から天皇機関説事件へ：美濃部達吉と「検察ファッショ」」（『政治経済史学』389 p. 1-21. 政治経済史学会）

- 駒場裕司「第六代学長・下村宏らのハンセン病関連事業：「後藤閔」の一角としての朝日新聞社」（『拓殖大学百年史研究』1/2 p.107-118. 拓殖大学創立百年史編纂室）
- 橋爪大三郎「元気を出すための鍵は政治だ」（『Voice』261 p.87-89. PHP 研究所）
- 橋爪大三郎「跨世紀的中日関係：回顧近代日本の對華政策」（『二十一世紀』54 p.53-59. 香港中文大学・中国文化研究所）
- 橋爪大三郎「巨大戦争の時代」（『創文』408 p.14-17. 創文社）
- Hirano, Hiroshi. “Explaining Voting Behavior in Japan : The Psychological, Social and Cultural Dimensions” Feldman, Ofer (ed.) ‘Political Psychology in Japan.’ p.61-79. New York: Nova Science Publishers, Inc.
- 平野 浩「選挙」（栗田宣義（編）『データブック/社会学』 p.131-137. 川島書店 1800円）
- 池上雅子「冷戦後の軍事技術研究開発と日本：世界の軍縮・軍備管理で問われる日本の役割」（『平和研究』24 p.15-24. 日本平和学会（早稲田大学出版会））
- 池上雅子「近代安全保障概念の社会学的分析（第7章）：21世紀市民社会安全保障の構築を求めて」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉（編）『市民性の変容と地域・社会問題：21世紀の市民社会と共同性：国際化と内面化』 p.166-190. 梓出版 3500円）
- 井上純一「中東和平プロセスとイスラエル社会」（『立命館国際地域研究』14 p.1-17. 立命館大学国際地域研究所）
- 井上眞理子「交渉的権力の「犯罪」と法意識の変化」（宝月 誠（編）『講座 社会学（第10巻）：逸脱』 p.185-215. 東京大学出版会 3000円）
- 伊藤順啓「地方自治教育と地方自治臨床：『地域社会論』講義ノート（三）」（『静岡県立短期大学研究紀要』12 p.1-11. 静岡県立短期大学）
- 角 一典「日本の地域政治における「新しい政治」（『北海道大学文学部紀要』48(2) p.59-80. 北海道大学文学部）
- 角 一典「整備新幹線建設の政策過程」（『年報社会学論集』12 p.96-107. 関東社会学会）
- 黒柳晴夫「インドネシアの5月政変の経過と背景」（財団法人国際経済交流財団（編）『アジア太平洋地域の相互理解と協力関係に関する調査研究』 p.69-77. 財団法人国際経済交流財団）
- 松永信一「ニクラス・ルーマンの政治システム論と世論の2様相」（『摂南法学』22 p.41-89. 摂南大学法学部）
- 宮内泰介「援助という名の漁場確保」（福家洋介・藤林泰（編）『日本人の暮らしのためだったODA』 p.44-65. コモンズ 1700円）
- 中道 實「戦後上級官僚のキャリアと役割行動」（『奈良女子大学社会学論集』6 p.297-322. 奈良女子大学社会学研究会）
- 中道 實「上級官僚への経路：社会的経歴のコーホート分析」（中 久郎（編）『社会学論集：持続と変容』 p.60-77. ナカニシヤ出版 4800円）
- 中野裕二「移民の市政への参加：フランスにおける試み」（梶田孝道（編）『フランスの大都市圏における移民の社会的統合政策の調査研究』 p.25-38. 平成9～10年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書）
- 中野裕二「移民出身者の国籍取得傾向：意思表示制度のもとで」（梶田孝道（編）『フランスの大都市圏における移民の社会的統合政策の調査研究』 p.39-50. 平成9～10年度科学研究費補助金（国際学術研究）研究成果報告書）
- 中澤秀雄「日本都市政の「レジーム」分析のために：地域権力行動(CPS)研究からの示唆」（『年報社会学論集』12 p.108-118. 関東社会学会）
- 小川賢治「日本の貴族の歴史に見る栄典制度の意味」（『滋賀文化短期大学研究紀要』8 p.1-12. 滋賀文化短期大学）
- 庄司興吉「世界社会と社会運動：総体性と個性性との媒介」（庄司興吉（編）『世界社会と社会運動：現代社会と社会理論：総体性と個性性との媒介』 p.3-12. 梓出版社）
- 庄司興吉「世界社会の構造と主体：国際社会学の展開のために」（庄司興吉（編）『世界社会と社会運動：現代社会と社会理論：総体性と個性性との媒介』 p.255-295. 梓出版社）
- 丹野清人「外国人労働者の法的地位と労働市場の構造化」（『国際学論集』43 p.43-63. 上智大学国際関係研究所）
- 筒井清忠「ナショナリズムとアジア主義における二重性」（青木 保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄（編）『日本人の自己認識（近代日本文化論第2巻）』 p.1-20. 岩波書店 2600円）
- 筒井清忠「大正期の軍縮と世論」（青木 保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄（編）『戦争と軍隊（近代日本文化論第10巻）』 p.19-54. 岩波書店 2600円）
- 上田耕介「社会民主主義者ロバート・ダールの出発点」（『社会学研究』66 p.47-72. 東北社会学研究会）
- 山崎純一「構造的暴力と平和研究」（創価大学平和問題研究所（編）『地球市民をめざす平和学』 p.30. 第三文明社 2800円）

## 11. 社会運動・集合行動 (Social Movement, Collective Behavior)

- 阿久津昌三「双子のフォークロア：分身現象の同一化と差異化」（宮家 準(編)『民族宗教の地平』 p.433-444. 春秋社 18000円)
- Dwianto, Raffaella D.. "Patron-Client Relation Reconsidered: Comparing Civil Defense Group in Kanto Earthquake and Jakarta Riots of May 1998" 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.161-181. Japan Sociological Society.
- 藤谷忠昭「市民オンブズマンの活動とその社会的意味」（『年報社会学論集』12 p.84-95. 関東社会学会 2500円)
- 長谷川啓介「声とまなざし・再考：アルベルト・メルッチの「社会運動の社会学」」（庄司興吉(編)『世界社会と社会運動：現代社会と社会理論：総体性と個性性との媒介』 p.206-227. 梓出版社)
- 橋爪大三郎「三島由紀夫と全共闘」（『週刊読書人』2304 p.1-2. 読書人)
- 早川洋行「堺市0-157事件をめぐる流言飛語」（社会運動論研究会(編)『社会運動研究の新動向』 p.89-111. 成文堂)
- 樋口直人「社会運動のマイクロ分析」（『ソシオロジ』44(1) p.71-86. 社会学研究会)
- 樋口直人・中澤秀雄・水澤弘光「住民運動の組織戦略：政治的機会構造と誘因構造に注目して」（『社会学評論』49(4) p.498-512. 日本社会学会)
- 日南田静真「1906年6月20日ロシア政府声明に関する小論」（『吉備国際大学社会学部研究紀要』9 p.49-60. 吉備国際大学)
- 井上治子「環境破壊に抗する市民たち：「池子の森」を守る運動をつうじて」（鬼頭秀一(編)『環境の豊かさをもとめて：理念と運動』 p.210-231. 昭和堂 2500円)
- 栗田宣義「プロテスト」（栗田宣義(編)『データブック：社会学』 p.145-151. 川島書店)
- 栗田宣義「抗議活動は世界を変えたのか：1948年から1983年までの間に政治的暴力が全世界の民主化に及ぼした効果の分析」（社会運動論研究会(編)『社会運動研究の新動向』 p.183-216. 成文堂)
- 三橋利光「国際社会学の試み II：トランスナショナル(国境を越える)運動・現象(その1)」（『人文・社会科学論集』14 p.95-138. 東洋英和女学院大学)
- 中澤秀雄「社会運動の「組織-機会」論と日本の住民運動：「政治過程アプローチ」の前提をどう考えるか」（『ソシオロギス』23 p.196-211. ソシオロギス編集委員会)
- 中澤秀雄「「抗議レパトリー」の変容と社会運動の形成：小作争議研究への社会学的視角」（社会運動論研究会(編)『社会運動研究の新動向』 p.141-181. 成文堂 3000円)
- Nomiya, Daishiro. "Economic Fluctuations, Political Change, and Protest Movement in Premodern Japan: A QCA Analysis of 19th Century Japan" 'The Annual Report of Cultural Science.' 48(1) p.57-71. The Faculty of Letters, Hokkaido University.
- 曾良中清司「運動イデオロギーの事例研究：土佐派民権運動の場合(上)」（『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』9 p.15-30. 早稲田大学大学院教育学研究科)
- 杉野昭博「障害者運動の組織とネットワーク：日本における障害当事者運動の歴史と展望」（組織とネットワーク研究班(編)『関西大学経済・政治研究所研究双書(第112冊)：組織とネットワークの研究』 p.87-105. 関西大学経済・政治研究所 無料)
- 土屋淳二「現代社会と集合行動」（秋元律郎・坂田正顕(編)『現代社会と人間』 p.73-91. 学文社 2800円)
- 土屋淳二「集合行動の社会学」（坂田正顕(編)『転換期日本社会の諸相』 p.116-132. 学文社 2600円)
- 渡邊 登「新たな地域社会形成主体の胎動(3)：S.K氏へのインタビューを通じて」（『社会運動』226 p.14-32. 市民セクター政策機構)
- 渡邊 登「新たな地域社会形成主体の胎動：地元自営業者たちの動き：T.M氏の場合(後編)」（『社会運動』237 p.32-45. 市民セクター政策機構)
- 渡邊 登「地域社会における意志決定手段としての住民投票志向の背景：巻町における住民投票運動の分析から」（『社会学年報』28 p.1-30. 東北社会学会)
- 吉田竜司「遊びと視ぎのあいだ：「重油災害ボランティアセンター」における長期一般ボランティアの社会的世界」（富山大学環日本海地域研究センター(編)『ナホトカ号沈没に伴う日本海沿岸地域への被害に関する社会経済的・生態的影響調査：1999年日本海経済白書』 p.106-152. 富山大学環日本海地域研究センター)

## 12. 経営・産業・労働 (Management, Industry, Labor)

- 相田利雄・押小路忠昭・杉山輝男・山崎泰夫(執筆責任)「〔調査報告〕技能を生かして独立開業：京浜工業地帯の1研究業者からの聞き取りの記録」(『政経研究』73(1991.11) p.137-149. 財団法人政治経済研究所)
- 秋山憲治「働くことの社会学」(坂田正顕(編)『転換期日本社会の諸相』 p.147-162. 学文社)
- 秋山憲治「女・男の働き方, 男女共生の働き方」(森 典子・上松由紀子・秋山憲治(編)『(新版)おもしろ男女共生の社会学』 p.134-152. 学文社)
- 榎本 環「銀行労働の記録：参与観察憲法調査・ホワイトカラーの勤労意識」(『労働社会学研究』1 p.26-50. 株式会社東信堂 1800円)
- 古田隆彦「異価値創造が繁栄を招く」(『東海総研マネジメント』1999(7) p.2-5. 東海総合研究所)
- 堀内圭子「マーケティング・コミュニケーションにおけるギルト訴求：先行研究の問題と今後の課題」(『日経広告研究所所報』183 p.57-70.)
- 堀内圭子「現代社会と消費」(向井希宏・蓮花一己(編)『現代社会の産業心理学』 p.199-216. 福村出版 2800円)
- 今城義隆「社会政策の国際理論」(『大阪商業大学論集』112/113 p.45-64. 大阪商業大学商経学会)
- 上林千恵子「多様化する就業形態：日本と欧米諸国のパートタイム労働を中心として」(稲上 毅・川喜多番(編)『講座社会学(6)：労働』 p.143-175. 東京大学出版会)
- 上林千恵子「女性の職域拡大と企業内秩序」(東京女性財団(編)『働き続ける女性たち：新しい企業と女性のためのジェンダー・フリー読本』 東京女性財団)
- 河原晶子「地域の産業構成の特徴とその発展過程」(立命館大学守口市調査研究会(編)『みんなで考えよう!守口のモノづくり・街づくり：守口市内の製造業実態調査報告書』 7p.. 自治体研究社 1500円)
- 河原晶子「製造業者の地域内での結びつき」(立命館大学守口市調査研究会(編)『みんなで考えよう!守口のモノづくり・街づくり：守口市内の製造業実態調査報告書』 8p.. 自治体研究社 1500円)
- Kawanishi, Hirotsuke and E. Ross Mouer. "The State of the Union Movement in Japan: Is There a Future?" 'Studies of Human Sciences.' 12(1) p.13-34. School of Human Sciences, Waseda University.
- 河西宏祐「労働社会学研究会の歩み(1982~88年)」(『日本労働社会学年報』10 p.91-123. 東信堂)
- 河西宏祐「日本労働社会学会第2回大会」(『日本労働社会学年報』10 p.140-147. 東信堂)
- 河西宏祐「日本の生産方式の先駆的研究」(『日本労働社会学年報』10 p.236-246. 東信堂)
- 近藤哲郎「〔人材〕を創り出す組織：摂津市シルバー人材センターの課題とビジョン」(摂津市シルバー人材センター設立20周年記念事業実行委員会(編)『設立20周年記念誌：健』 p.44-45. 摂津市シルバー人材センター 非売)
- 久保山亮「ドイツにおける賃金付帯コストの上昇と企業行動：相対的視点をまじえて」(財団法人生命保険文化センター(編)『社会保障、企業保障の将来動向と個人保障』 311p.. 財団法人生命保険文化センター)
- 倉田和四生「中国出稼労働者の労働・消費生活と意識」(『吉備国際大学社会学部紀要』9 16p.. 吉備国際大学社会学部)
- 松野 弘「企業活動の思想的源泉とその課題」(松野 弘・小阪隆秀(編)『現代企業の構図と戦略：転換期の産業社会と企業活動の革新』 p.1-39. 中央経済社)
- 松野 弘「企業行動の社会化とその戦略的展開の可能性」(松野 弘・小阪隆秀(編)『現代企業の構図と戦略：転換期の産業社会と企業活動の革新』 p.229-267. 中央経済社)
- 三浦雄二「高度産業社会の〈豊かさ〉」(『三田商学研究』41(6) p.83-101. 慶應義塾大学商学会)
- 三浦雄二「高度産業社会の構造的動向」(『三田商学研究』42(3) p.33-50. 慶應義塾大学商学会)
- Mori, Tetsuhiko. "The Theory of Heinrich Ricklish before the Background of the German Idealism" 'Nagoya City University, School of Humanities and Social Sciences, Journal of Humanities and Social Sciences.' 6 p.221-242.
- 大黒 聡「産業構造の転換と外国人労働者：東京と名古屋」(北川隆吉(編)『現代日本の社会変動と地域社会の変容・再編：グローバルゼーション、イノベーション、インフォメーション・システム・コミュニティ・ストラクチャー』 p.16-18. 専修大学文学部 平成8-10年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書)
- 大黒 聡「産業構成の変化と外国人労働者」(品川区職員労働組合・東京自治問題研究所(編)『すべての区民が安心して暮らせる都市・品川をめざして：品川区社会・生活構造総合調査報告書』 p.18. 品川区職員労働組合, 東京自治問題研究所 1200円)

- 尾上正人「スモール・ビジネスとジェンダー」(稲上 毅・八幡茂美(編)『中小企業の競争力基盤と人的資源』 p.179-195. 文眞堂 3000円)
- 尾上正人「誰が為のジェルサレム：英国労働党における非労働勢力の覇権(1945-51)」(『国際社会学研究所紀要』7 p.161-181. 国際社会学研究所)
- 尾上正人「コレクティブイズムは醸成されたか：英国戦時体制研究の新動向」(『大原社会問題研究所雑誌』487 p.1-20. 法政大学大原社会問題研究所)
- 坂口桂子「出産・育児による離職女性の求職活動：「平成10年度福岡県女性労働実態調査」より」(『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』37 p.59-70. 大分県立芸術文化短期大学)
- Shire, Karen A.. “Socialization and Work in Japan: The Meaning of Adulthood of Men and Women in a Business Context” ‘International Journal of Japanese Sociology.’ 8 p.77-92. Japan Sociological Society.
- 丹野清人「在日ブラジル人の労働市場：業務請負業と日系ブラジル人労働者」(『大原社会問題研究所雑誌』487 p.21-40. 法政大学大原社会問題研究所)
- 上野千鶴子「『女の時代』とイメージの資本主義：ひとつのケーススタディ」(花田達郎・吉見俊哉(編)『カルチュラルスタディーズとの対話』 p.167-185. 新曜社)
- 徐 向東「異文化組織における知の移転、共有と知の創造」(『日本労務学会誌』1(2) 日本労務学会)
- 山田信行「『ポスト新国際分業』とジャパナイゼーション：国際分業の転換と労使関係のグローバルな編成」(『日本労働社会学会年報』10 p.11-31. 日本労働社会学会)
- 山田信行「周辺社会における工業化と技能形成：『ポスト新国際分業』の可能性」(『ソシオロジ』49(3) p.71-86. 社会学研究会)
- 山田信行「現代日本における企業間関係の特質：電機産業における「協力会」の事例分析」(『帝京社会学』12 p.187-204. 帝京大学文学部社会学科)
- 吉沢二郎「タイの環境問題としての森林破壊とその再生」(『中央大学社会科学研究所研究報告』19 p.67-85. 中央大学社会科学研究所)

### 13. 人 口 (Population)

- Akasaka, Makoto. “The Floating Population and the Social Problems in Contemporary China” ‘Journal of Kibi International University School of International and Industrial Studies.’ 1999(9) p.1-13.
- 赤坂真人「中国流動人口のライフスタイル」(萬成 博(編)『現代中国の企業経営と従業員に関する研究』 p.215-233. 平成8～10年度科学研究費補助金(国際学術共同研究)研究報告書)
- 古田隆彦「人口減少時代の社会・経済と都市行政」(東京都職員研修所調整課(編)『政策形成文庫3少子社会を考える』 p.28-41. 東京都職員研修所)
- 駒井 洋「人口減少社会における外国人移民の受け入れについて」(『ESP』5 p.36-39. (社)経済企画協会)
- 倉田和四生「出生力の低下をもたらす諸要因の考察」(『関西学院大学社会学部紀要』82 p.111-128. 関西学院大学社会学部)
- 嵯峨座晴夫「高齢者の生活条件と居住環境」(『都市問題』90(12) p.3-16. 東京市政調査会)
- 嵯峨座晴夫「大都市の高齢化」(『人口と開発』68 p.56-61. アジア人口・開発協会)
- 嵯峨座晴夫「国際高齢者年と高齢者の生活」(『統計』50(4) p.7-12. 日本統計協会)
- 嵯峨座晴夫「アジアの人口と高齢化問題」(『城西大学大学院研究年報』15(1) p.9-19. 城西大学経済研究科)
- Sagaza, Haruo. “Population Aging and Dependency Burden” Sato, Ryuzo, Rama V. Ramachandran and Kazuo Mino(ed.) ‘Global Competition and Integration.’ p.529-557. Boston: Kluwer Academic Publishers.
- 高木正朗・森田潤司「飢餓と栄養供給：一九世紀中期東北地方の一農村」(『日本研究』19 p.159-201. 国際日本文化研究センター)
- 辻 明子「労働力人口の将来変化と高齢化社会の扶養負担」(『人口学研究』24(1999(6)) p.1-13. 日本人口学会)
- 辻 明子「人口高齢化と生活保護」(『ヒューマンサイエンスリサーチ』8(1999) p.157-173. 早稲田大学大学院人間科学研究科)
- 若林敬子「北朝鮮の人口問題」(日本貿易振興会(編)『北朝鮮の経済と貿易の展望』 p.66-87. 日本貿易振興会 非売)

若林敏子「人口問題と教育政策：学区・学校統廃合をめぐる」（『人口と開発』67 p.40-50. アジア人口・開発協会 1000円）

## 14. 教育 (Education)

青井和夫「大学入試をどうするか」（『書齋の窓』486 p.29-35. 有斐閣）

荒井宏祐「若者と大学教育」（小坂勝昭・椎野信雄（編）『テキスト社会学：現代社会の理解と認識のために』 p.269-283. ミネルヴァ書房 3000円）

有本章「研究の意図と方法」（有本章（編）『ポスト大衆化段階の大学組織改革の国際比較研究』 p.45-48. 広島大学大学教育研究センター）

有本章「大学組織改革：大衆化とポスト大衆化の視座」（有本章（編）『ポスト大衆化段階の大学組織改革の国際比較研究』 p.7-20. 広島大学大学教育研究センター）

有本章「世界の高等教育改革の動向」（佐藤三郎（編）『世界の教育改革：21世紀への架け橋』 p.243-264. 東信堂）

有本章「生涯学習と大学改革の連携：ポスト大衆化段階の課題」（『安田女子大学博士課程完成記念論文集』 p.107-118. 安田女子大学）

有本章「大学院改革の原点」（岩山太次郎・示村悦二郎（編）『大学院改革を探る』 p.13-28. 大学基準協会）

有本章「学問的生産性とFDの関係：大学改革の視座」（『大学論集』29 p.1-22. 広島大学大学教育研究センター）

有本章「国立大学の危機と再生」（『筑波大学フォーラム』52 p.45-48. 筑波大学）

有本章「大学教授職の現状と在り方」（大学基準協会（編）『大学教育の改革と創造』 p.49-52. 大学基準協会）

有本章「高等教育の発展：日本からの視点」（秦由美子（編）『現代高等教育の課題と展望：21世紀のイギリスと日本』 p.26-29. 日英高等教育シンポジウム実行委員会）

有本章「ファカルティ・ディベロップメントの歴史と展望」（『IDE 現代の高等教育』412 p.5-11. 民主教育協会）

有本章「大学改革の現状と課題：大学審議会答申との関連において」（『大学教育学会誌』21(2) p.2-12. 大学教育学会）

Ban, Tsunenobu and William Cummings. "Moral Orientations of Schoolchildren in the United States and Japan" 'Comparative Education Review.' 43(1) p.64-85. U.S.A. Chicago: University of Chicago Press.

伴 恒信「動きだした脱学校化の現実」（新井郁男（編）『学習社会としての学校：「教育する学校」を超えて』 p.94-113. 教育出版）

伴 恒信「アメリカの道德教育の理論と実践の最新動向」（『子ども社会研究』5 p.131-136. ハーベスト社）

伴 恒信「ラングラン氏との対話」（『生涯フォーラム』1188 p.2-11. 社会教育協会）

土肥 豊「日本人学校児童生徒への調査結果の比較分析」（国際交流研究会（編）『海外子女をとりまく教育環境の多様化と変容に関する比較研究：マレーシア・中国・オーストラリア』 p.1-19. 国際交流研究会）

江原武一「アメリカの経験：ユニバーサル化への道」（『高等教育研究』2 p.85-104. 日本高等教育学会）

江原武一「大学院教育の改革と今後の方向」（岩山太次郎・示村悦二郎（編）『大学院改革を探る（JUA 選書10）』 p.59-73. 大学基準協会）

江原武一「高等教育改革の方向」（『教育研究資訊』7(3) p.42-54. 国立台湾師範大学教育研究中心）

江原武一「アメリカにおける学外学位課程の動向」（『学位研究』10 p.57-72. 学位授与機構）

江原武一「管理運営組織の改革：日米比較」（有本章（編）『ポスト大衆化段階の大学組織改革の国際比較研究（高等教育研究叢書54）』 p.30-44. 広島大学大学教育研究センター）

藤田武志「受験体制の生成に関する社会学的考察：1950年代前半の東京における高校受験を事例として」（藤田英典・黒崎 勲・片桐芳雄・佐藤 学（編）『教育学年報7：ジェンダーと教育』 p.497-524. 世織書房 5300円）

濱名 篤「高等教育の大衆化の進展と大学研究情報の変容」（『関西国際大学高等教育研究叢書』1 p.37-66. 関西国際大学高等教育研究所）

長谷川高生「大衆社会における『愛の発展段階論』：現代社会における倫理と教育のための一試論」（'The Himeji Gakuin Review' 19 姫路学院女子短期大学）

橋本健二「高等教育の大衆化時代における学力問題」（『教育評論』1999(9) p.16-19.）

橋本健二「学習指導要領改訂と高校教育改革」（『解放教育』1999(6) p.23-29.）

橋爪大三郎・寺脇 研「教育をどう変えるか：未来の学校教育はどうあるべきか」（『月刊高等教育』32(14) p.54-69. 学事出版）

- 橋爪大三郎「日本型公教育の変遷」(『季刊みらい』4(3)通巻14号 p.14-16. 教育総研)
- 橋爪大三郎「官僚は教育から手を引け」(『中央公論』114(9)通巻1383号 p.134-135. 中央公論新社)
- 橋爪大三郎「「選択」「責任」「連帯」の教育改革へ」(『月刊高等教育』32(5) p.32-41. 学事出版株式会社)
- 橋爪大三郎「教育の尊厳を取り戻そう」(『日本教育』265 p.16-18. 社団法人日本教育会)
- 橋爪大三郎・小浜逸郎「学校の明日、子どもの未来をどうデザインしていくのか?」(『総合教育技術』53(14) p.10-11. 小学館)
- 広田照幸「家族と学校の関係史：葛藤論的視点から」(渡辺秀樹(編)『変容する家族と子ども』 p.24-45. 教育出版 2400円)
- 堀 薫夫「高齢者の学習理論：教育老年学の視点から」(日本社会教育学会(編)『高齢社会における社会教育の課題』 p.30-45. 東洋館出版社)
- 市川 昌「Virtual University：インターフェースとサイバースペースの明暗」(『情報と社会(江戸川大学研究紀要)』10 p.1-15. 江戸川大学)
- 今津孝次郎「責任の社会学：市場・公正・責任」(『大学教育学会誌』21(2) p.71-74. 大学教育学会)
- 稲継 尚「大衆高等教育の構造的分化：研究・教育の分断化と高等教育の構造的分化」(『芦屋大学論叢』30 p.1-15. 芦屋大学)
- 伊藤陽一「日本の中学歴史教科書は『自虐的』か?：内容分析にもとづいて」(SFCフォーラム事務局(編)『SFCフォーラム・ファイル2：コエボリューション』 p.197-217. 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス)
- 甲斐健人「農業高校運動部員の「経歴」と進路形成：「底辺」における「実践」の再検討」(『ソシオロジ』44(2) p.3-18.)
- 河村能夫「大学コンソーシアム京都：大学地域連合による大学改革の試み」(『教育(教育科学研究会)』644 p.123-125. 国土社 620円)
- 国際交流研究会(編)「マレーシア・中国・オーストラリア3国の現地校とインターナショナルスクールへの調査結果の比較分析」(国際交流研究会(編)『海外子女をとりまく教育環境の多様化と変容に関する比較研究：マレーシア・中国・オーストラリア』 p.20-44. 国際交流研究会)
- 黒柳晴夫「情報化社会と教育」(武長脩行(編)『文化情報論序説』 p.151-163. 学文社)
- 馬淵 仁「海外子女をとりまく教育環境としての「海外日本人社会」の多様性」(国際交流研究会(編)『海外子女をとりまく教育環境の多様化と変容に関する比較研究』 p.130-150. 国際交流研究会(編) N/A)
- 牧野暢男「女子高校生の進学意識：調査結果から「共学志向」の内実をさぐる」(『日本女子大学総合研究所 日本女子大学総合研究所ニュース』7 p.23-34. 日本女子大学総合研究所)
- 牧野暢男「教育研究条件に関する改革」(岩山太次郎・示村悦二郎(編)『大学院改革を探る』 p.179-199. (財)大学基準協会 4500円)
- 牧野暢男「自己点検・評価等」(岩山太次郎・示村悦二郎(編)『大学院改革を探る』 p.217-228. (財)大学基準協会 4500円)
- 牧野暢男「法政大学大学院社会科学部研究科」(岩山太次郎・示村悦二郎(編)『大学院改革を探る』 p.269-281. (財)大学基準協会 4500円)
- 宮内 洋「外国籍園児が在籍する北海道の幼稚園」(『季刊 子ども学』17 p.116-123. ベネッセコーポレーション)
- 宮内 洋「「韓国・朝鮮」籍の子どもが通う日本の幼稚園：エスノグラフィー的記述におけるひとつの試みとして」(志水宏吉(編)『教育のエスノグラフィー』 p.151-171. 嵯峨野書院 2700円)
- 宮内 洋「「多文化保育・教育」とクラス編成」(『保育学研究』37(1) p.35-42. 日本保育学会)
- 宮内 洋「沖縄県離島部における幼稚園生活のエスノグラフィー的覚え書き」(『北海道大学教育学部紀要』78 p.111-146. 北海道大学教育学部)
- 森 重雄「教育の(エートル)と社会構造のモダニティ」(『教育学研究』66(1) p.6-10. 日本教育学会 非売品)
- 森 重雄「近代・人間・教育：社会学的人間論からの構図」(田中智志(編)『「教育」の解説』 p.67-163. 世織書房 3400円)
- 森 重雄「教育の(エートル)と社会構造のモダニティ(縮約版)」(香川大学教育学研究室(編)『教育という「物語」』 p.10-19. 世織書房 1800円)
- 森 俊太「学びの場での女と男」(森 典子・上松由紀子・秋山憲治(編)『おもしろ男女共生の社会学』 p.42-57. 学文社)
- 中西祐子「学校と教育」(栗田宣義(編)『データブック/社会学：調査データでわかる日本社会』 p.52-59. 川島書店)
- 西村大志「語りから会話へ：あるアメリカ人留学生のライフヒストリーと身体」(京都大学留学生研究会(編)『ライフ・イベント：語られる留学』 p.55-73. 京都大学留学生研究会)



- 西村大志「戦後大衆文化と『わたし』：子どもの遊びを通して」（鶴飼正樹・永井良和・藤本憲一（編）『戦後大衆文化論』 p. 267-285. 京都造形芸術大学）
- 荻野昌弘「社会学的課題としての「科挙」：文化資本から規律・訓練へ」（『アジア遊学』7 p. 129-135. 勉誠出版）
- 岡太彬訓・岩本健良「大学進学移動における都道府県の関連：非対称クラスター分析による共通一次試験前・後の比較」（柳井晴夫・前川眞一（編）『大学入試データの解析：理論と応用』 p. 20-32. 現代数学社 3800円）
- Okamoto, Tomochika. "On the Impact of Individual Educational Level against Their Confidence in Governmental Institutions" 'Sociological Papers.' 8 p. 45-49. The Waseda Graduate Students' Association for Sociological Research.
- 小内 透・古久保さくら・小野寺理佳・安部美佐「工業集積地域における児童・生徒の生活と親の意識」（『調査と社会理論・研究報告書』17 p. 1-178. 北海道大学教育学部教育社会学研究室）
- 柴野昌山・前田耕司・天童睦子・飯嶋香織「社会階層と教育期待に関する実証的研究：家族の変化との関連で」（『早稲田教育評論』13(1) p. 97-133. 早稲田大学教育総合研究所）
- 柴田和子「大学生の学生生活満足度：龍谷大学国際文化学部一期生を対象とした追跡調査から」（『龍谷大学大学院研究紀要社会学・社会福祉学』6 366p. 龍谷大学大学院社会学研究科）
- Shimpo, Mitsuru. "School Education and it's Impact upon Indigenous Society : With Special Reference to the Dene in Canada's Western Arctic" Myrlund, Hakan and Lars Carlsson(eds.) 'Circumpolar Change : Building a Future on Experiences from the Past : the Fifth Circumpolar Universities Cooperation Conference.' p. 159-169. Sweden: Lulea University of Technology.
- 新谷康浩・猪股歳之・片瀬一男「戦後経済変動と技術者の労働市場参入：高専卒業者の入職パターンにおける時系列変化を中心に」（『教育社会学研究』64 p. 165-182. 日本教育社会学会）
- 白鳥義彦「科学と祖国：フランス第三共和政の高等教育改革をめぐって」（『日仏教育学会年報』27(5) p. 313-318. 日仏教育学会）
- Shiratori, Yoshihiko. "Science et Patrie : Sur la Réforme de l'Enseignement Supérieur au Temps de la Troisième République" 'Annales de la Société Franco-Japonaise des Sciences de l'Éducation.' p. 319-324. Société Franco-Japonaise des Sciences de l'Éducation.
- 住田正樹「母親の育児不安と夫婦関係」（『子ども社会研究』5 p. 3-28. 日本子ども社会学会）
- 住田正樹「子どもは仲間集団のなかで育つ」（日本子ども社会学会（編）『いま、子ども社会に何がおこっているか』2 p. 37-55. 北大路書房）
- 鈴木健之「秘書学の制度化に関する社会学的一考察」（『明星女子短期大学紀要』17 p. 181-190. 明星女子短期大学）
- 高島秀樹「桜井庄太郎博士の教育社会学」（『明星大学社会学研究紀要』19 p. 31-45. 明星大学人文学部社会学科）
- 武井健一「トラッキングによる生徒文化の分化とジェンダー形成」（『ソシオロジカル・ペーパーズ』8 p. 67-79. 早稲田大学大学院社会学院生研究会）
- 田中眞佐志「国際政治をいかに教えるか：高校における国際政治史の試み」（『数研 AGORA』24 p. 5-6. 数研出版）
- 田中節雄「（共同体）による教育としての学校教育」（『季刊 FORUM 教育と文化』17 p. 39-46. 労働教育センター）
- 坪井 健「留学生と日本人学生の交流教育：オーストラリアとの比較を通して」（『異文化間教育』13 p. 60-74. 異文化間教育学会）
- 坪井 健「オーストラリアの日本人学生：アジアおよびオーストラリア人学生との比較」（『駒澤社会学研究』31 p. 69-86. 駒澤大学文学部社会学科）
- 坪井 健「国際化と日本の学生」（清水浩昭（編）『日本人と国際化』 p. 147-176. 人間の科学社）
- 恒吉僚子「教師は多文化時代に対応できるか」（油布佐和子（編）『教師の現在・教職の未来』 教育出版）
- 上杉孝實「英国の成人教育職員養成制度」（『社会教育職員研究』6 p. 39-44. 全国社会教育職員養成研究連絡協議会 非売）
- 上杉孝實・谷 和明「コミュニティ教育の国際的発展と公民館」（日本社会教育学会特別年報編集委員会（編）『現代公民館の創造』 p. 55-69. 東洋館出版社 7500円）
- 上杉孝實「市町村の生涯学習推進計画と地域社会教育施設、生涯学習センターと公民館」（上杉孝實（編）『生涯学習推進体制整備のもとでの公民館等地域社会教育施設の変遷と再編に関する研究』 p. 1-16. 京都大学大学院教育学研究科 非売）
- 上杉孝實「生涯学習計画と国の政策」（上杉孝實・前平泰志（編）『生涯学習と計画』 p. 15-34. 松籟社 2400円）
- 上杉孝實「生涯学習と人権：総論」（上杉孝實・黒沢惟昭（編）『生涯学習と人権：理論と課題』 p. 13-39. 明石書店 3500円）

- 上杉孝實「少子化と福祉化社会のなかの子ども」（日本子ども社会学会(編)『いま、子ども社会に何がおこっているか』 p. 97-113. 北大路書房 2000円)
- 上杉孝實「社会教育の課題と展望」（宮崎繁樹(編)『国際化時代の人権と同和問題』 p. 190-214. 明石書店 2000円)
- 上杉孝實「地域における成人教育」（『部落解放研究』128 p. 57-67. 部落解放・人権研究所)
- 山本雄二「義務としての登校拒否：学校化社会における命の問題」（古賀正義(編)『〈子ども問題〉からみた学校世界』 p. 67-88. 教育出版 2400円)
- 山内乾史「人材養成と高等教育」（喜多村和之(編)『高等教育政策の形成と評価に関する総合的研究』 p. 254-261. 国立教育研究所)
- 山内乾史「教養原論におけるビデオ学習の効果と問題点(2)：神戸大学の研究(その3)」（『大学教育研究』7 p. 43-52. 神戸大学大学教育研究センター)
- 矢内 諭『少年期の学習課題』（山形県生涯学習センター(編)学習プログラム開発のための現代社会と生涯学習の指向 p. 31-46. 山形県生涯学習センター)
- 保田 卓・薄葉毅史・竹内 洋「近代日本の学歴貴族の社会的出自と進路：第一高等学校入学者調査表と同窓会名簿の分析から」（『教育社会学研究』65 p. 49-67. 日本教育社会学会)
- 保田 卓「ルーマンの高等教育論」（『社会学評論』50(3) p. 313-329. 日本社会学会)
- 由谷裕哉「電子メディアの教育的効用：小松短期大学1998年度社会学・マルチメディアと社会・知識・情報論の事例から」（『小松短期大学論集』11 p. 47-78. 小松短期大学)
- 油布佐和子「教師は何を期待されてきたか：教師役割の変化を追う」（油布佐和子(編)『教師の現在・教職の未来：あすの教師像を模索する』 p. 138-157. 教育出版)
- 油布佐和子「教師集団の解体と再編：教師の「協働」を考える」（油布佐和子(編)『教師の現在・教職の未来：あすの教師像を模索する』 p. 52-70. 教育出版)
- 油布佐和子「現代青年の価値意識(1)：将来展望と自己認知」（『福岡教育大学紀要』48 p. 111-124. 福岡教育大学)

## 15. 文化・宗教・道徳 (Culture, Religion, Morality)

- 穴田義孝「国際化と日本人：社会心理学の視点から」（日本社会・文化研究会(監修)・清水浩昭(編)『日本人と国際化：日本社会を解読する(II)』人間の科学新社 2500円)
- 橋本和孝「一つの宗教社会学的研究：安原茂によるアジアの宗教社会学(その2)」（『社会論集』5 p. 109-126. 関東学院大学社会学会)
- 橋本和孝「一つの宗教社会学的研究：安原茂によるアジアの宗教社会学(その1)」（『紀要』85 p. 91-104. 関東学院大学文学部)
- 平山満紀「母性社会論の検討と実証研究への諸課題」（『情報と社会』9 p. 73-88. 江戸川大学・木内英夫)
- 平山満紀「現代市民社会と無意識の意識化：グループセラピーの事例に見る「日本人と母」の変容」（青井和夫・高橋徹・庄司興吉(編)『市民性の変容と地域・社会問題：21世紀の市民社会と共同性：国際化と内面化』 p. 269-294. 梓出版社)
- 伊藤雅之「ニューエイジの実践に関する歴史的考察：和尚ラジニーシ/ムーブメントの制度化と脱制度化」（『宗教研究』73(3) p. 101-125. 日本宗教学会)
- 伊藤雅之「和尚ラジニーシ・ムーブメントの三様相：世界観/組織/担い手のダイナミクス」（『宗教と社会』別冊1998 p. 13-18. 「宗教と社会」学会)
- 亀山佳明「スポーツする身体とドーピング」（井上 俊・亀山佳明(編)『スポーツ文化を学ぶ人のために』 p. 94-113. 世界思想社)
- 兼子 一「信者が「世代」を語る時：「エホバの証人」の布教活動に現れたカテゴリー化実践の分析」（『宗教と社会』5 p. 39-59. 「宗教と社会」学会)
- 櫻村愛子・福田はるみ「個人インタビュー調査から見た精神世界の宗教性と社会性」（『宗教と社会(学会別冊)』1999年号 p. 28-32. 宗教と社会学会)
- 櫻村愛子「グローバルゼーションとニューエイジ運動」（『文学論叢』120 p. 293-310. 愛知大学)
- 河原和枝「文化としての〈子ども〉」（青木 保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄(編)『近代日本文化論11：愛と苦難』 p. 135-153. 岩波書店)
- 河原和枝「前田愛『近代読者の成立』」（筒井清忠(編)『日本の歴史社会学』 p. 269-282. 岩波書店)

- 川又俊則「昭和十五年の荒川区の宗教世界：「教会講社」資料にみる」（東京都荒川区教育委員会(編)『荒川(旧三河島)の民族：荒川区民族調査報告書(六)』 p.329-343. 東京都荒川区教育委員会)
- 川又俊則「信仰の境界線：キリスト教の「信者」類型を中心に」（『現代社会理論研究』9 p.185-195. 現代社会理論研究会)
- 川又俊則「大衆長寿社会における自己表現の方法：自分史と〈受葬〉にみる」（『現代社会学研究』12 p.1-17. 北海道社会学会)
- 北川紀男「社会学における文化研究(I)」（『桃山学院大学社会学論集』32(2) p.1-36. 桃山学院大学総合研究所)
- 古賀和則「家と村のなかの禁制宗教：田代領における新後生」（古賀和則(編)『宗教・地域・家族：イメージの検証』49p. 行路社 2500円)
- 真鍋祐子「物語の誕生：民衆運動と「烈士物語」の生成をめぐって」（『口承文芸研究』22 p.50-58. 日本口承文芸学会)
- ましこひでのり「「地名の政治言語学」のための文献案内」（『ことばと社会：多言語社会研究』1 p.94-103. 三元社)
- 松本和良「ウタリ社会における生活の質(II)」（『ソシオロジカ』24(1) p.1-25. 創価大学社会学会)
- 松島 淨「「癒しの文化」体験記：〈ヨーガ〉と〈淡彩画〉について」（『明治学院論叢：社会学・社会福祉学研究』624 p.105-132. 明治学院大学社会学会)
- Miki, Hizuru. "Towards a New Paradigm of Religious Organizations." 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.141-159. The Japan Sociological Society.
- 三木 英「地域の復興と宗教の力：阪神大震災被災地における祭りとイベント」（宗教社会学の会(編)『神々宿りし都市：世俗都市の宗教社会学』 p.137-158. 創元社 1890円)
- 森岡清美「地域社会における新宗教の伝播・定着と住民の宗教性の変化」（古賀和則(編)『宗教・地域・家族：イメージの検証』 p.51-83. 行路社)
- 村田充八「キリスト教の社会倫理(II)：多元的倫理とキリスト教の道德」（『阪南論集 人文・自然科学編』34(3) p.87-98. 阪南大学学会)
- 村田充八「キリスト教の社会倫理(III)：キリスト教と道德律法」（『阪南論集 人文・自然科学編』35(1) p.39-49. 阪南大学学会)
- 村田充八「キリスト教の社会倫理(IV)：キリスト教の倫理と神の意志」（『阪南論集 人文・自然科学編』35(2) p.9-20. 阪南大学学会)
- 中川輝彦「「心の時代」の社会学的分析に向けて」（『年報人間科学』20(2) p.491-508. 大阪大学人間科学部)
- 夏刈康男「海外勤務者の文化的価値観の変化」（『日本大学精神文化研究所紀要』30 p.1-20. 日本大学精神文化研究所)
- 新田光子「日本の宗教と水子供養」（高橋三郎(編)『水子供養：現代社会の不安と癒し』 p.173-206. 行路社)
- 新田光子「「水子供養」と外国人研究者：英国における体験から」（『龍谷大学社会学部紀要』14 p.59-67.)
- 新田光子「マス・オブザベーション・アーカイブについて」（『ソシオロジ』43(3) p.87-91.)
- 沼尻正之「近代日本におけるオカルト・ブームと新宗教」（青木 保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄(編)『宗教と生活(近代日本文化論9)』 p.187-205. 岩波書店 2600円)
- 沼田健哉「「文明の衝突」に関する一考察」（『桃山学院大学総合研究所紀要』24(3) p.159-176. 桃山学院大学総合研究所)
- 小笠原真「Max Weberの儒教論再考」（『龍谷大学社会学論集』19 p.1-19. 龍谷大学社会学会)
- 荻野昌弘「記憶のフィールドワーク：フランス人にとっての第一次世界大戦」（『奈良女子大学社会学論集』6 p.79-85. 奈良女子大学社会学研究会)
- 小倉敏彦「赤面する青年：明治中期における〈恋愛〉の発見」（『社会学評論』50(3) p.346-361. 日本社会学会)
- 小倉敏彦「〈恋愛の発見〉の諸相：北村透谷と日本近代」（『ソシオロギス』23 p.21-37. ソシオロギス編集委員会)
- 折原 浩「宗教的行為と宗教的ゲマインシャフト形成にかんする理解社会学的概念構成(3)：ヴェーバー『経済と社会』の全体像構築に向けて(5)」（『名古屋大学文学部研究論集』135(哲学45) p.121-137. 名古屋大学文学部)
- 大谷栄一「宗教運動の社会心理学」（『白山人類学』6 p.5-29. 白山人類学研究会)
- 斎藤達次郎「西南中国少数民族の洪水説話と罪」（『環太平洋研究』1999(2) p.1-14. 名古屋経済大学環太平洋研究所)
- 桜井哲夫「現代日本のピーターパン・村上春樹」（栗坪良樹・柘植光彦(編)『村上春樹スタディーズ 05』 292p. 若草書房 1800円)

- 桜井哲夫「閉ざされた殻から姿をあらわして：『ノルウェーの森』とベストセラーの構造」（栗坪良樹・柘植光彦（編）『村上春樹スタディーズ 03』 306p. 若草書房 1800円）
- 澤井 敦「現代人の孤独と死」（秋元律郎・坂田正顕（編）『現代社会と人間』 p.159-177. 学文社）
- Sekine, Yasumasa. "Rethinking Ambiguity of Hindu Women" Tanaka, M. and M. Tachikawa(eds.) 'Living with Shakti : Gender, Sexuality and Religion in South Asia (Senri Ethnological Studies).' National Museum of Ethnology.
- 島藺 進「現代宗教と悪：自律的自己の現在」（『聚珍版』10 p.2-13. 聚珍社）
- Shimazono, Susumu. "'New Age Movement' or 'New Spirituality Movements and Culture'?" 'Social Compass.' 96(2) p.121-133. Louvain-la-Nerve: [s. n.].
- Shimazono, Susumu. "Asian Religions and Sociology : The Case of New Religion Studies in Japan" Voye, Liliane and Jack Billet(eds.) 'Sociology and Religion : An Ambiguous Relationship.' p.183-193. Lovren, Belgium: Louven University Press.
- 塩月亮子「女たちの生活ポリティックス：沖繩村落の統合と葛藤の政治人類学」（『生活学論叢』4 p.3-13.）
- 塩月亮子「沖繩シャーマニズムの現代的変容：民族的アイデンティティの宗教社会学的研究」（宮家 準（編）『民族宗教の地平』 p.221-234. 春秋社 18000円）
- 住家正芳「P. L. バーガー世俗化論の批判的検討」（『東京大学宗教学年報』1998(XVI) p.97-106.）
- 鈴木正崇「祖先祭祀の変容：中国貴州省苗族の鼓社節の場合」（宮家 準（編）『民族宗教の地平』 p.301-316. 春秋社）
- 鈴木正崇「茶事の構造」（戸田勝久（編）『茶事・茶会』 p.397-427. 淡交社）
- 鈴木正崇「相性占いと姓名判断」（飯島吉晴（編）『幸福祈願』 p.95-100. 筑摩書房）
- 鈴木智之「正体をめぐる物語：E. A. ボー『群集の人』（1840年）を中心に」（『社会労働研究』45(3) p.116-337. 法政大学社会学部）
- 鈴木智之「パラレルワールドの変容：村上春樹と社会言語的状況の現在(3)」（『社会志林』46(1) p.26-64. 法政大学社会学部）
- 鈴木智之「パラレルワールドの変容：村上春樹と社会言語的状況の現在(3)」（『社会志林』46(2) p.23-63. 法政大学社会学部）
- 高橋晴江「『家』『稼業』の変容と信仰：長谷川まつに見る明治期東京布教の一側面」（『金光教学』39 p.73-109. 金光教教学研究所 700円）
- 高橋博子「生きがいの対象：高齢者は何にいきがいをみいだしているか」（高橋勇悦（編）『高齢者の生きがいに関する国際比較研究』 p.104-108. 高齢者能力開発研究会）
- 高橋憲昭「『品位』と資本主義社会（論文）」（『浄土宗学研究』24 p.157-173. 知恩院浄土宗学研究所）
- 高橋由典「二つの水子供養」（高橋三郎（編）『水子供養：現代社会の不安と癒し』 p.113-147. 行路社）
- 田中秀隆「茶道文化論の構造」（熊倉功夫・田中秀隆（編）『茶道学大系（第一巻）：茶道文化論』 p.37. 淡交社 6800円）
- 田中秀隆「岡倉天心の美術主義的文明論：『東洋の理想』の構想力」（『徳川林政研究所「研究紀要』』33 21p. 財団法人徳川黎明会）
- 種田博之「新しい古い空間の出現」（宗教社会学の会（編）『神々宿りし都市：世俗都市の宗教社会学』 p.184-205. 創元社 1800円）
- 筒井清忠「現代日本知識人の原型」（青木 保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄（編）『知識人（近代日本文化論第4巻）』 p.83-98. 岩波書店 2600円）
- 筒井清忠「一九三〇年代の『明るい時代劇』とは何か」（青木 保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄（編）『大衆文化とマスメディア（近代日本文化論第7巻）』 p.129-145. 岩波書店 2600円）
- 上野千鶴子「戦後日本家庭文化の変容と日中比較」（『復旦大学日本研究センター第9回シンポジウム「近代以降の日中文化関係の回顧と21世紀への展望』』 p.75-93. 復旦大学日本研究センター）
- 渡辺雅子・田島忠篤・石渡佳美「創価学会在日ブラジル人メンバーの組織化と生活実態・信仰活動：日系ブラジル人のデカセギと新宗教の対応」（『明治学院論叢社会学・社会福祉学研究』104 p.41-114. 明治学院大学社会学会）
- 山口信枝「明治・大正初期における村の動向と宮座：賀茂神社の神和（宮座）を事例として」（『福岡県地域史研究』17 200p. 福岡県）
- 山村賢明「日本の基層文化と茶の湯：〈母なる文化〉の可能性に向けて」（熊倉功夫・田中秀隆（編）『茶道文化論（茶道学体系1）』 p.205-233. 淡交社 6800円）
- 梁 愛舜「在日朝鮮人一世のコスモロジーと郷村社会：『儒教的家族』の信念体系と行動様式」（『立命館大学産業社会論集』35(2) p.51-75. 立命館大学産業社会学会）

- 吉原和男「宗教と生活」(可児弘明(編)『もっと知りたい香港(第2版)』 p.230-240. 弘文堂)
- 吉原和男「法輪功とは何か」(『大航海』31 p.79-85. 新書館)
- 由谷裕哉「民族宗教における儀礼の変化とその意味」(宮家 準(編)『民族宗教の地平』 p.41-54. 春秋社)

## 16. 社会心理・社会意識 (Social Psychology, Social Consciousness)

- 新井範子「女性は美をどう捉えているか(2)」(『国際経営・文化研究』3(2) p.1-8. 国際コミュニケーション学会)
- 新井範子・岩井阿礼「女性は美をどう捉えているか:「美」のイメージの分析を通して」(『国際経営・文化研究』3(1) p.1-10. 国際コミュニケーション学会)
- 藤竹 暁「見られる市民から見る市民へ:視覚的大衆の誕生」(青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『市民性の変容と地域・社会問題:21世紀の市民社会と共同性:国際化と内面化』 p.31-56. 梓出版社 3500円)
- 橋元良明・中森広通・辻 大介・森 康俊「大震災発生時の東京都民の避難行動:大田区・北区・江東区・杉並区民のアンケート調査から」(『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』13 p.1-57. 東京大学社会情報研究所)
- Hayashi, Nahoko, Elinor Ostrom, James Walker and Toshio Yamagishi. "Reciprocity, Trust, and the Sense of Control: Across-societal Study" 'Rationality and Society.' 11(1) p.27-46. Sage Publications.
- 平塚千尋「地震予知情報と報道:東海地震グレー情報を考える」(『NHK 放送文化調査研究年報』44 p.43-78. 日本放送協会放送文化研究所)
- 平塚千尋・横山 滋「ケーブルがもたらしたメディア行動の変化:(1)富山県八尾町の調査から」(『NHK 放送文化研究所 放送研究と調査』49(7) p.2-29. 日本放送出版協会)
- 平塚千尋・横山 滋「ケーブルがもたらしたメディア行動の変化:(2)八尾町・ケーブルインターネット常用者調査から」(『NHK 放送文化研究所 放送研究と調査』49(12) p.24-47. 日本放送出版協会)
- 細辻恵子「アイデンティティと社会:カウボーイから旅人へ」(満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』 p.194-206. 朝日新聞社)
- 籠谷和弘「うわさ否定行動の意図せざる結果:不完備情報ゲームによる教理モデル分析」(『社会学評論』49(4) p.584-599. 日本社会学会)
- 吉川 徹「「中」意識の静かな変容」(『社会学評論』50(2) p.216-230. 日本社会学会)
- 清成透子・山岸俊男「分配委任ゲームを用いた信頼と信頼性の比較研究」(『社会心理学研究』15(2) p.100-109.)
- 小宮山智志「消費税・所得税に関する世論についての試論的研究:消費税増税・所得税減税と消費税減税・所得税増税,どちらを人々は望むか」(『中央大学社会科学研究所年報』3 p.67-79.)
- 前田 穰「経済意識・経済的態度・経済的信念研究の系譜(1):G.カトーナのマクロ的消費者態度研究」(『奈良大学紀要』27 p.107-117. 奈良大学総合研究所)
- Manabe, Kazufumi. "A Cross-National Comparison of Attitudes toward Family, Work, Marriage, and Related Behavior: From an ISSP Survey" 'Kwansei Gakuin University Social Sciences Review.' 3 p.1-47. Kwansei Gakuin University.
- 真鍋一史「ナショナル・アイデンティティの構造:ISSP 国際比較調査のデータ解析」(『関西学院大学社会学部紀要』82 p.145-156. 関西学院大学)
- 真鍋一史「ポストモダンの価値観と言語意識:母語・英語・日本語をめぐる」(『日本語学』18 p.21-28. 明治書院)
- 真鍋一史「国際比較調査:国への帰属意識」(『放送研究と調査』557 p.44-63. NHK 放送文化研究所)
- 真鍋一史「世論研究の系譜・現状・課題」(『三田社会学』4 p.65-72. 慶応義塾大学)
- 村田充八「生駒今昔:気の満ちた生活世界」(宗教社会学の会(編)『神々宿りし都市:世俗都市の宗教社会学』 p.4-26. 創元社 1800円)
- 中森広通「阪神淡路大震災における初動情報」(岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎(編)『被災と救援の社会学(阪神・淡路大震災の社会学第1巻)』 p.129-144. 昭和田)
- 中森広通「自然災害とパニック:地震時における人々の行動からの考察」(『研究紀要』57 p.155-167. 日本大学文学部人文科学研究所)
- 大野道邦・林 大造・野中 亮「集会的記憶と個人的記憶:伊勢湾台風をめぐる」(『奈良女子大学社会学論集』6 p.51-77. 奈良女子大学社会学研究会)

- Pescosolido, Bernice A., Jo Monahan, Bruce Link and Saeko Kikuzawa. "The Public's View of the Competence, Dangerousness, and Need for Legal Coercion among Persons with Mental Illness" 'American Journal of Public Health.' 89(9) p.1339-1345.
- Pescosolido, Bernice A., Eric R. Wright and Saeko Kikuzawa. "'Stakeholder' Attitudes toward Closing of a State Hospital over Time" 'Journal of Behavioral Health Services and Research.' 26(3) p.318-328.
- 崎山治男「『肯定的な』感情経験の陥罪」（『ソシオロギス』23 p.69-85.）
- 崎山治男「感情労働と自己：看護過程における感情労働を通して」（『年報社会学論集』12 p.199-210.）
- 崎山治男「感情管理化する社会と自己：感情労働論の展開から」（庄司興吉（編）『共生社会の文化戦略』 p.91-109. 梓出版社 3500円）
- 末田清子・蔡 小瑛「『面子』の多様性に関する一考察：在日台湾人男性のケース・スタディーを通して」（『異文化コミュニケーション研究』11 p.85-98. 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所）
- Sueda, Kiyoko. "Negotiating Multiple-layers of Face(mentsu) in Interpersonal & Intercultural Communication" 'SIETAR International.' 1(1) p.81-96. Vermont, U.S.A.: SIETAR International.
- 高橋伸幸・山岸俊男・林直保子「一般交換システムの自発的形成：選別的利他行動に関する実験研究」（『心理学研究』70(1) p.9-16. （社）日本心理学会）
- 筒井清忠「『大正デモクラシー』から『昭和軍国主義』へ：ナショナリズム・モダニズム・ポストモダニズム」（青木保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄（編）『近代日本への視角（近代日本文化論第1巻）』 p.1-34. 岩波書店 2500円）
- 王 飛雪・山岸俊男「信任的中, 日, 美比較研究」（『社会学研究』80(2) p.67-82. 中国社会科学院社会学研究所）
- Wang, Feixue and Toshio Yamagishi. "Changing Roles of Trust in Chinese Society" 'Progress in Asian Social Psychology.' 2 p.367-386. Korea: Kyoyook-Kwahak-Sa.
- 山田一成「心のなかの〈個人と社会〉：世論調査と社会学的想像力」（児島和人（編）『個人と社会のインターフェイス：メディア空間の生成と変容』 p.171-200. 新曜社）
- Yamagishi, Toshio, Masako Kikuchi and Motoko Kosugi. "Trust, Gullibility and Social Intelligence" 'Asian Journal of Social Psychology.' 2(1) p.145-161.
- 山岸俊男・小杉素子「社会的交換における裏切り者検知」（『認知科学』6(2) p.179-190.）
- Yamagishi, Toshio, Nobuhito Jin and Toko Kiyonari. "Bounded Generalized Reciprocity: In-group Favoritism and Ingroup Boasting" 'Advances in Group Processes.' 16 p.161-197. JAI Press.
- 山岸俊男「信頼と社会的知性」（『遺伝』16 p.158-165. 裳書房）
- 山岸俊男「一般的互酬性の期待としての集団主義文化」（『組織科学』3(1) p.24-34.）
- 山岸俊男「社会科学としての社会心理学」（『UP』316 p.1-5. 東京大学出版会）
- 山岸俊男「集団主義文化の『常識』を確かめる」（『学燈』96(9) p.16-19. 丸善（株））
- 米川茂信「日本社会の成熟化に関する社会意識の潮流とその実態」（『淑徳大学社会学部研究紀要』33 p.143-171.）

## 17. コミュニケーション・情報・シンボル (Communication, Information, Symbol)

- 阿部勘一「サイバースペースの陥罪と民主主義の言論」（『平成10年度情報通信学会年報』 p.47-62. 情報通信学会）
- 相田敏彦「コミュニケーション研究：礎の転換を探る I.」（『駒沢大学マス・コミュニケーション研究所年報』17 p.65-93.）
- 干川剛史「ボランティアと情報通信：阪神・淡路大震災における情報ボランティアの活動」（岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎（編）『阪神・淡路大震災の社会学（第1巻）：被災と救援の社会学』 p.291-300. 昭和堂 4600円）
- 飯塚浩一・鈴木弘貴「情報政治学の理論的整備のための試論：ヨーロッパ・アイデンティティ形成の試みを手掛かりとして」（『行動科学研究』51 p.15-25. 東海大学出版会）
- 飯塚浩一・鈴木弘貴「『ヨーロッパ・アイデンティティ』形成の試みに関する一考察：『ヨーロッパによる、ヨーロッパのためのニュース番組』を事例として」（『東海大学紀要文学部』70 p.49-62. 東海大学文学部）
- 石上文正「時事英語研究と社会・文化環境：ヴァーチャル・リアリティからリアリティへ」（竹市明弘・渡辺雄三・早川 勇（編）『心とコミュニケーション：精神環境の探究』 p.299-306. 勁草書房 2400円）

- 石井和平「コミュニケーション・メディアの階梯：情報の表出から行為の代理へ」（『社会情報学研究』3(3) p.35-47. 日本社会情報学会）
- Ito, Youichi. "Theories on the Mass Media and Ethnicity: How do the Mass Media Affect Ethnicity and Related Problems?" Goonasekera, Anura and Youichi Ito (ed.) 'Mass Media and Cultural Identity: Ethnic Reporting in Asia.' p.11-30. London: Pluto.
- 伊藤陽一「アジア・太平洋地域における情報交流のパターンと規定要因」（『メディア・コミュニケーション』49 p.67-90. 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所）
- 伊藤陽一「内容分析の可能性と限界」（『KEIO SFC REVIEW』4 p.75-80. 慶應義塾大学湘南藤沢学会）
- 加藤晴明「CMC 空間と自己物語：コンテクスト論争と閉ざされた主題」（『中京大学社会学部紀要』14(1) 27p. 中京大学社会学部）
- 城戸秀之「地域情報化にみる現代日本の社会認識：大分県の事例をもとに」（『経済学論集』51 p.1-22. 鹿児島大学経済学会）
- 小玉美意子「メディアリテラシー：情報社会を主体的に生きる精神と技術」（天野勝文(編)『現代マスコミ論のポイント』 p.211-229. 学文社 2500円）
- 米田公則「今時のモラトリアム世代と情報メディア」（『文化と情報』1999(2) p.3-17. 相山女学園大学『文化と情報』編集委員会）
- 栗田宣義「プリクラ・コミュニケーション：写真シール交換の計量社会学的分析」（『マス・コミュニケーション研究』55 p.131-152. 日本マス・コミュニケーション学会）
- 栗田宣義「ポップカルチャー」（栗田宣義(編)『データブック：社会学』 p.82-89. 川島書店）
- 前田益尚「情報管理社会論序説：新しいコミュニケーション・システムにおける社会成員の情報行動と責任倫理」（『近畿大学文学部論集：文学・芸術・文化』11(1) p.89-105. 近畿大学文学部）
- 真鍋一史「メディアと広告の記号論」（『関西学院大学社会学部紀要』83 p.91-97. 関西学院大学）
- 真鍋一史「海外マス・メディア広告における日本語使用の実態と人々の日本広告をめぐる意識(1)」（『日経広告研究所報』188 p.2-6. 日経広告研究所）
- 圓田浩二「援助交際女性の類型論：援助交際の社会学(2)」（『関西学院大学社会学部紀要』82 p.183-195. 関西学院大学社会学部研究会）
- 松田美佐「パーソナライゼーション」（東京大学社会情報研究所(編)『社会情報学 II：メディア』 p.157-175. 東京大学出版会）
- 三上俊治・中村 功・福田 充・廣礼 脩「高度ネットワーク社会の脆弱性：大阪NTT回線事故(1998.10.28)の社会的影響に関する調査研究」（『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』13 p.117-152. 東京大学）
- 三浦恵次「市民と自治体の共通理解とは：自治体における PR 概念の動向を踏まえて」（『調査季報』 p.7. 横浜市役所）
- 宮本孝二「演劇の社会学：分析のための基本的視点」（日下隆平・宮本孝二・石塚浩司・小野良子(共著)『現代演劇の展望』 p.33-66. 非売品）
- 宮内 洋「外国籍園児のカテゴリー化実践」（山田富秋・好井裕明(編)『エスノメソドロジーの想像力』 p.187-202. せりか書房 2500円）
- 長坂知美・鮎川 潤「マスメディアによる来日外国人被害者の構築：『ブラジル人少年暴行死事件』を通じて」（『現代の社会病理』14 p.52-62. 日本社会病理学会）
- 中河伸俊「転身歌唱の近代：流行歌のクロス=ジェンダー・パフォーマンスを考える」（北川純子(編)『鳴り響く性：日本のポピュラー音楽とジェンダー』 p.237-270. 勁草書房 2800円）
- 中村 功「電話コミュニティ：その実態とコミュニケーションの重層性について」（『松山大学論集』11(4) p.1-23. 松山大学）
- 中村 功「テレビにおける暴力：その実態と培養効果」（『マス・コミュニケーション研究』55 p.186-201. 日本マス・コミュニケーション学会）
- 中村 功「携帯電話の技術」（渡辺武達・山口功二(編)『メディア用語を学ぶ人のために』 世界思想社）
- 中村 功「携帯電話の文化」（渡辺武達・山口功二(編)『メディア用語を学ぶ人のために』 世界思想社）
- 中野克彦「エスニック・メディアの展開と日本社会：1896年～1999年の考察」（『立命館言語文化研究』11(3) p.141-159. 立命館大学国際言語文化研究所）
- 成田康昭「メディアとしての人生相談番組」（『Aura：アウラ』134 p.9-12. フジテレビ編成局調査部）
- 成田康昭「テレビメディア空間の文化」（『NIRA 政策研究』12(11) p.9-12. 総合研究開発機構）

- 成田康昭「平準化へのラディカリズム：映画「ニッポン無責任時代」と新中間層の文化」（『応用社会学研究』41 p.13-28. 立教大学社会学部）
- 岡本朝也「タクシードライバーの意味世界：タクシードライバーに関する共同調査から」（『人間科学』51 p.337-355. 関西大学社会学研究科院生協議会）
- 酒井俊二「戦後日本における海外交流の展開過程と経済発展」（『中京学院大学研究紀要』6(2) 中京学院大学）
- 猿田佳恵子「知的障害児の理解における相互行為的視点の重要性」（『社会学研究科論集』6 p.57-69. 立教大学大学院社会学研究科）
- 笹野悦子「戦後マスメディアにおける「主婦」の意味：「朝日新聞」を事例に」（『社会学年誌』40 p.141-157. 早稲田社会学会）
- Sato, Yoshimichi. "Trust and Communication" 'Sociological Theory and Methods.' 13(2) p.155-168. Japanese Association for Mathematical Sociology.
- Sueda, Kiyoko. "What is Required for Being a Good Cook? : A Preliminary Study of Epistemological and Methodological Inquiries in the Field of Communication" 'The Aoyama Journal of International Politics, Economics and Business.' 45 p.227-242. Aoyama Kokusai Seikei Ronshu.
- 鈴木弘貴「EU 統合と汎欧州民間テレビニュース局『ユーロニュース』：ナショナル・コンテキストからヨーロッパ・コンテキストへの試み」（『マス・コミュニケーション研究』55 p.167-185.）
- 田口純一「クリティカル・インシデントからみた文化摩擦」（『文化と情報』1 p.59-72. 相山女学園大学短期大学部）
- 竹下俊郎「情報化とマスコミュニケーション過程」（児島和人（編）『社会情報（講座社会学8）』 p.35-72. 東京大学出版会 3000円）
- 矢澤修次郎「情報社会における社会運動のイメージ：シリコンバレーの経験から」（庄司興吉（編）『世界社会と社会運動：現代社会と社会理論：総体性と個別性ととの媒介』 p.228-252. 梓出版）
- 矢澤修次郎「テクノロジーのユートピアを超えて」（玉水俊哲・矢澤修次郎（編）『社会学のよろこび：生活のなかから考える』 p.203-230. 八千代出版）
- 吉田 純「情報ネットワーク社会への社会学的視座：〈仮想社会〉と公共圏をめぐって」（中 久郎（編）『社会学論集：持続と変容』 p.214-226. ナカニシヤ出版 4800円）

## 18. 社会病理・社会問題 (Social Pathology, Social Problems)

- 浅野慎一・新垣正美「被災者の生活意識とボランティア」（日本建築学会建築経済委員会住宅の地方性小委員会・震災WG（編）『大震災四年半・住宅復興の軌跡と展望：1999年度日本建築学会(中国)研究資料』 p.129-144.）
- 浅野慎一・新垣正美「被災者生活とベルボックスケアセンター：24時間・年中無休のボランティアの現状と課題」（神戸大学震災研究会（編）『大震災5年の歳月』 p.328-339. 神戸新聞社総合出版センター 2500円）
- 鮎川 潤「少年犯罪」（『法学セミナー』539 p.26-29. 日本評論社）
- 鮎川 潤「スウェーデン犯罪防止委員会」（『犯罪と非行』120 p.229-241. 矯正福祉会）
- 土井隆義「飽和社会における少年非行：少年犯罪の衝動化に関する一考察」（『社会学ジャーナル』24 p.31-43. 筑波大学社会学研究室）
- 土井隆義「社会イメージの変容と構築主義の眼差し」（『年報筑波社会学』11 p.1-18. 筑波社会学会）
- 平兮元章「現代社会問題論の統合の可能性」（『福岡大学人文論叢』30(4) p.2337-2360. 福岡大学総合研究所）
- 星野周弘「逸脱的な社会生活の構成とその制御」（宝月 誠（編）『講座社会学10：逸脱』 p.153-184. 東京大学出版会 3000円）
- 井上眞理子「人はなぜ逸脱をするのか」（満田久義・青木康容（編）『社会学への誘い』 p.55-67. 朝日新聞社）
- 鎌田大資「精神保健福祉サービスを受ける人たちの「沈黙の気づまり」：ある座談会の封印をめぐって」（『相山女学園大学研究論集(社会科学篇)』30 p.233-247. 相山女学園大学）
- Komiya, Nobuo. "A Cultural Study of the Low Crime Rate in Japan" 'British Journal of Criminology.' 39(3) p.369-390. Oxford, UK: Oxford University Press.
- 小宮信夫「犯罪防止とNPO(2)：一般人・大学生比較と日英比較」（『LDI レポート』103 p.5-26. ライフデザイン研究所）
- 工藤宏司「「クレイム」が立ちあがるとき：「クレイム申したて」概念への一考察」（『人間科学論集』29 p.99-125. 大阪府立大学人間科学研究会）



- 松永寛明・大倉祐二「いじめ現象と学校制度の構造」(『犯罪社会学研究』24 p.113-128. 立花書房)
- 松下武志「米田庄太郎の社会問題論の再検討」(『現代の社会病理』14(1999) p.87-97. 日本社会病理学会(編))
- 松下武志「現代日本におけるアメシスト研究の動向」(『京都教育大学紀要』95(SeriesA) p.103-114. 京都教育大学)
- 大庭絵里「少年非行とマス・メディア」(後藤弘子(編)『少年非行と子どもたち』 p.245-264. 明石書店 1800円)
- 大野道夫「若者論という問題：1980-90年代前半の若者論を例として」(『青少年問題』1999(11) p.23-27. 青少年問題研究会)
- 佐藤 恵「ボランティアの自己アイデンティティ形成：阪神大震災における被災地ボランティアの事例から」(『地域社会学会年報グローバリゼーションと地域社会』11 p.139-155. 地域社会学会)
- 佐藤 恵「社会的相互作用過程における自己レイベリング」(『現代社会理論研究』9 p.145-154. 現代社会理論研究会)
- 戸田 清「神戸小学生惨殺事件」の文理融合(学際的考察)(『長崎大学総合環境研究』2(1) p.97-107. 長崎大学環境科学部)
- 上野千鶴子「非日常から汜日常へ：飲酒行動に見る酒の脱文脈化」(『酒文報告書4：酒ある空間の昨日・今日・明日：人はどこで酒を飲むのか(酒文報告書4)』4 p.29-42. 宝酒造株式会社酒生活文化研究)
- Yokoyama, Minoru. "Analysis of the Crimes by Foreigners in Japan" 'International Journal of Comparative and Applied Criminal Justice.' p.181-213. Wichita, U.S.A.: Wichita State University.
- Yokoyama, Minoru. "Trends of Organized Crime by Boryokudan in Japan" Einstein, Stanley and Menachem Amir(eds.) 'Organized Crime: Uncertainties and Dilemmas.' p.135-154. Chicago: OICJ, The University of Illinois at Chicago.
- Yokoyama, Minoru. "A Kriminál Politika Kapcsolata a Társadalmi Jóléti Politikával Japánban" 'Magyar Jog.' 1999(2) p.119-123.
- 米川茂信「中・高生の逸脱関連行為と人びとの逸脱視」(『犯罪と非行』121 p.4-32.)
- 米川茂信「中・高生の行動に対する人びとの逸脱視の実態：一般成人、警察官、中・高生の三者間比較」(『淑徳大学大学院研究紀要』6 p.57-81.)

## 19. 社会福祉・医療 (Social Welfare, Medical Care)

- 安藤太郎「セラピーを捉える視覚：二つの家族療法理論を通して」(『現代社会理論研究』9 p.123-132. 現代社会理論研究会)
- 安藤太郎「P. Conradの医療化論の検討」(『保健医療社会学論集』10 p.75-83. 日本保健医療社会学会)
- 青山泰子「在宅高齢者の福祉サービス利用の有効性と課題：コミュニティ・パートナーシップ概念を用いて」(『現代社会学研究』12 p.54-70. 北海道社会学会 1500円)
- 藤崎宏子「ホームヘルプサービスの現状と課題：松本市を事例として」(『年報村落社会学研究』35 p.157-184. 農村漁村文化協会 5905円)
- 原田 健・高橋勇悦「住民参加型在宅福祉サービス団体の形成過程とその介助関係：サービス生産協同組合「グループたすけあい」を事例に」(『総合都市研究』69 p.119-135. 東京都立大学都市研究所)
- 平松道夫「福祉のまちづくりと意識のバリアフリー：地域コミュニケーションの展開にむけて」(『富山福祉短期大学紀要福祉研究論集』1)
- 石倉康次「社会福祉事業の規制緩和と企業参入をめぐる」(『総合社会福祉研究』15 p.42-52. 総合社会福祉研究所)
- 上村泰裕「福祉国家形成理論のアジア NIEs への拡張」(『ソシオロギス』23 p.232-248. ソシオロギス編集委員会)
- Kaneko, Masahiko. "A Methodological Inquiry into the Evaluation of Smoking Cessation Programmes" 'Health Education Research.' 14(3) p.433-441. UK: Oxford University Press.
- 金子雅彦「昭和10年代の医療政策：自由開業医制と日本医療団構想」(『防衛医科大学校進学課程研究紀要』22 p.35-45. 防衛医科大学校)
- 金子雅彦「医療施設」(進藤雄三・黒田浩一郎(編)『医療社会学を学ぶ人のために』 p.80-96. 世界思想社)
- 菅野博史「慶應義塾における看護婦養成と病院看護：前田照子氏のインタビューから」(『慶應義塾看護短期大学紀要』9 p.65-72. 慶應義塾看護短期大学)
- 樫村愛子「精神保健の臨床社会学をめざして」(『金城短期大学紀要』23 p.207-219. 金城短期大学)

- 桂良太郎「「奈良町」の高齢化とNPOの役割：(社)奈良まちづくりセンターを事例として(論文)」(『奈良大学総合研究所所報』7 p. 55-72. 奈良大学総合研究所)
- 小松楠緒子「食養療法患者の特性：都内M病院S内科を事例として」(『バルデスリサーチペーパーシリーズ(日本語版)』2 p. 1-13. 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻)
- 小松楠緒子「インターネットを利用した医療機関・医者選び」(『バルデスリサーチペーパーシリーズ(日本語版)』3 p. 1-17. 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻)
- 黒田浩一郎「専門誌と学会」(進藤雄三・黒田浩一郎(編)『医療社会学を学ぶ人のために』 p. 290-294. 世界思想社)
- 黒田浩一郎「コメディカルおよび非正統医療」(進藤雄三・黒田浩一郎(編)『医療社会学を学ぶ人のために』 p. 60-79. 世界思想社)
- 黒田浩一郎「調査法」(進藤雄三・黒田浩一郎(編)『医療社会学を学ぶ人のために』 p. 274-289. 世界思想社)
- 黒柳晴夫「名護市の高齢化と高齢者福祉問題」(高橋明善(編)『沖縄ヤンバル地域の社会変動と海上ヘリ基地問題』 p. 102-112. 東京国際大学人間社会学部 科学研究費研究成果報告書)
- 前田泰樹「情緒経験の語りとケアの論理：痴呆に関する問診場面の相互行為分析」(『現代社会学理論研究』9 p. 97-108. 現代社会学理論研究会)
- 儘田 徹「ストレス研究におけるライフコース・アプローチの可能性」(『愛知県立看護大学紀要』5 p. 49-54. 愛知県立看護大学)
- 松村直道「定住生活の変化と親子の近接居住」(『都市問題』90(12) p. 43-52. 東京市政調査会 750円)
- 三重野卓「生活の質」とライフサイクル」(福祉士養成講座編集委員会(編)『三訂社会福祉士養成講座』12(社会学) p. 79-94. 中央法規出版 2500円)
- 森川美絵「在宅介護労働の制度化過程：初期(1970年代～80年代前半)における領域設定と行為者属性の連関をめぐって」(『大原社会問題研究所雑誌』486(5) p. 23-39. 法政大学大原社会問題研究所)
- 西村大志「疾患と名づけの間：骨粗鬆症を事例として」(『京都社会学年報』7 p. 25-42. 京都大学文学部社会学研究室)
- 西下彰俊「素顔のスウェーデン(上)」(『名古屋港』18(1) p. 24-27. 名古屋港利用促進協議会)
- 西下彰俊「素顔のスウェーデン(下)」(『名古屋港』18(3) p. 24-27.)
- 小田利勝「高齢期における自立生活と日常生活活動能力をめぐって」(『神戸大学発達科学部研究紀要』7(1) p. 201-221. 神戸大学発達科学部)
- 岡本朝也「家族と福祉：社会学的分析」(『人間科学』50 p. 21-34. 関西大学社会学研究科院生協議会)
- 奥山敏雄「死にゆく人を支えるケア」(『社会学ジャーナル』24 p. 45-61. 筑波大学社会学研究室)
- 押小路忠昭「日本におけるインフォームドコンセントの成立について」(『社会研究』29 p. 18-40. 法政大学大学院社会学専攻委員会)
- 佐藤典子「看護職と女性：多くの看護職従事者が女性であるという現実について」(『日仏社会学年報』9 p. 57-68.)
- 進藤雄三「医療と「近代性」」(『保健医療社会学論集』10 p. 32-37. 日本保健医療社会学会)
- 杉野昭博「障害者福祉改革と権利保障」(『社会福祉学』39(2) p. 1-14. 日本社会福祉学会)
- 高島昌二「福祉国家の類型と北欧福祉国家モデル：北欧福祉モデルとスウェーデン・モデルの比較を中心に」(『皇學館大学社会福祉学部紀要』2 p. 67-90. 皇學館大学社会福祉学部)
- 高島昌二「スウェーデンにおける高齢者ケアのフォーマルとインフォーマル構造」(『皇學館大学社会福祉論集』1 p. 3-20. 皇學館大学社会福祉学会)
- 武川正吾「住宅政策：住宅市場の変貌」(毛利健三(編)『現代イギリス社会政策史(1945～1990)』 p. 205-282. ミネルヴァ書房)
- Takegawa, Shogo. "The Development of Regional Social Planning in Postwar Japan" 『紀要社会学科(中央大学文学部)』9(通巻179) p. 73-99.
- 武川正吾「社会福祉の行財政」(田端光美・右田紀久恵・高島 進(編)『世界の社会福祉4：イギリス』 p. 311-326. 旬報社 8200円)
- 武川正吾「(1)第1章総論：イギリスの社会保障体系」(武川正吾・塩野谷祐一(編)『先進諸国の社会保障(1)イギリス』 p. 3-28. 東京大学出版会)
- 武川正吾「(2)第16章：私的年金と私的医療」(武川正吾・塩野谷祐一(編)『先進諸国の社会保障(1)イギリス』 p. 351-382. 東京大学出版会)
- 渡辺 満「イギリスNHS改革」(『医事法学』14 p. 80-84. 日本医事法学会)
- 渡辺 満「イギリスNHSにおけるプライマリケア役割の変化」(『広島法学』23(2) p. 295-316. 広島大学法学会)

山本賢治「高齢者福祉」（鹿児島地域と福祉研究会(編)『鹿児島市における福祉の現状と課題』 p. 50-66. 鹿児島地域と福祉研究会)

## 20. 計画・開発 (Planning, Development)

橋爪大三郎「環境の時代とこれからの川づくり」（『川の水』2 p. 6-9. 財団法人河川環境管理財団)

目黒依子「開発プロジェクトと女性のエンパワーメント：分析モデルの実証的検討」（国立婦人教育会館(編)『女性のエンパワーメントと開発：タイ・ネパール調査から』 p. 77-90. 国立婦人教育会館 平成6-10年度開発と女性に関する文化横断的調査研究報告書)

小田利勝「マレーシアの発達と社会変動」（井上俊一・日本大学総合科学研究所(編)『アジアのダイナミズム：経済と社会の変貌』 p. 47-69. 日本大学総合研究所)

思田守雄「市民による国際協力と参加型社会開発(2)：バングラデシュのプライマリ・ヘルスケア・プロジェクトを中心に」（『社会学部論叢』9(2) p. 23-72. 流通経済大学)

## 21. 社会学研究法 (Research Methods in Sociology)

藤谷忠昭「威光暗示効果を検証する」（『社会学論考』20 p. 89-96. 東京都立大学社会学研究会 1200円)

橋爪大三郎「社会のリアリティを丸ごと背負え」（矢内裕幸(編)『怖いもんなし23人の喋るぞ!』 p. 187-202. 旺文社)

石川雅典「地域調査の方法」（谷 勝英・永井秀世(編)『現代社会と地域福祉』 p. 82-98. 中央法規出版)

真鍋一史「質問紙法にもとづく国際比較調査の現状と課題」（『国際協力論集』7(2) p. 67-81. 神戸大学)

森 俊太「社会調査のデザイン：基礎概念と論理的誤謬の演習問題」（『いわき明星大学人文学部研究紀要』12 p. 163-174. いわき明星大学人文学部)

中道 實「社会調査の理論と実際：社会学の方法」（満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』 p. 302-325. 佛教大学通信教育部)

荻野昌弘「震災の語られぬ部分を見る：社会調査を考える」（安保則夫(編)『震災・神戸の社会学：被災地のまなざし』 p. 109-119. 八千代出版)

鈴木無二「A. ストラウスのグラウンデッド・セオリーに関する予備的考察：なぜ質的調査法だったのか」（『学術研究：地理学・歴史学・社会科学編』47 p. 51-61. 早稲田大学教育学部)

太郎丸博「自由回答の回答率と回答の長さ」（川端 亮(編)『非定型データのコーディング・システムとその利用』 p. 64-72. 平成8～10年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書)

山田一成「遡及型下位質問の可能性」（『社会志林』46(2) p. 64-84. 法政大学社会学部学会)

由谷裕哉「質的データ分析として民族調査を評価する試み」（『小松短期大学論集』11 p. 25-46. 小松短期大学)

## 22. 経 済 (Economy)

Tanaka, Sigeto. "The Rational Household Theory Examined: Does Equalization in Wages Change the Sexual Division of Labor?" 'Sociological Theory and Methods.' 14(1) 通巻25号 p. 19-34. Japanese Association for Mathematical Sociology.

## 23. 社会史・民俗・生活史 (Social History, Folklore, Life History)

荒井宏祐「J. -J. ルソーにおける自然空間の諸相と「化学論」に見る生態学的認識：研究序説」（『文教大学国際学部紀要』10(1) p. 53-72. 文教大学 定価なし)

- 千葉明夫・高木正朗「一九世紀初頭東北農村の肝入日記：「文化二年乙丑日記」」（『立命館産業社会論集』35(1) p. 157-194. 立命館大学産業社会学会）
- 藤村美穂「森の景観：西吉野の山村」（鳥越皓之(編)『景観の創造：民族学からのアプローチ』 p. 118-143. 昭和堂 2500円）
- 橋爪大三郎「栽培植物が明かす人間社会」（『FRONT』12(3)通巻135号 p. 26-27. (財)リバーフロント整備センター）
- 広田照幸「受験勉強の社会史：明治末期のある受験失敗者の心象風景」（青木 保・他(編)『岩波講座近代日本文化論 第4巻知識人』 p. 119-147. 岩波書店 2600円）
- 細辻恵子「祭における変遷・変化：桑名の石取祭についての覚え書」（『社会学論集(奈良女子大学)』6 p. 189-199. 奈良女子大学社会学研究会）
- 井上孝夫「金谷神社：大鏡鉄の由来について」（『千葉大学教育学部研究紀要』47(2)(人文・社会科学編) p. 13-22. 千葉大学教育学部）
- 河原和枝「スポーツ・ヒロイン：女性近代スポーツの100年」（井上 俊・亀山佳明(編)『スポーツ文化を学ぶ人のために』 p. 132-149. 世界思想社）
- 川又俊則「ライフヒストリーの資料論：口述生活史と自分史の比較検討を中心に」（『上智大学社会学論集』22/23 p. 103-119. 上智大学社会学科）
- 小浜ふみ子「コミュニティ・ビジネス・ライフスタイル：質屋の社会史・イギリス」（『経営総合科学』72 p. 69-129. 愛知大学経営総合科学研究所）
- 金光和道「神前奉仕開始後の広前の周辺：東長屋・「官」建築など諸経費支出の背景」（『金光教学』39 p. 1-35. 金光教学研究所 700円）
- 真鍋祐子「民間信仰の変容：「林公堂」信仰を例として」（竹田 且(編)『中国東北部朝鮮族の民族文化』 p. 315-333. 第一書房 18000円）
- 三浦耕吉郎「自警団とボランティア：震災の比較社会史のために」（黒田展之・津金澤聡広(編)『震災の社会学：阪神・淡路大震災と民衆意識』 p. 41-59. 世界思想社 3200円）
- 永谷 健「神島二郎『近代日本の精神構造』」（筒井清忠(編)『日本の歴史社会学』 p. 159-173. 岩波書店 3500円）
- 中田奈月「ペット：人間はかれらに何を求めてきたか」（鶴飼正樹・永井良和・藤本憲一(編)『戦後大衆文化論』京都造形芸術大学）
- 西脇和彦「マス・サブ文化考(II)」（『学苑(環境文化特集)』715 p. 166-184. 昭和女子大学近代文化研究所）
- 大川清丈「鶴見俊輔ほか《日本の百年》全十巻(一九六〇～六四年)」（筒井清忠(編)『日本の歴史社会学』 p. 175-189. 岩波書店 3500円）
- 鈴木正崇「山の民の祭礼行事」（『日本「祭礼行事」総覧(別冊歴史読本：事典シリーズ38)』 p. 96-103. 新人物往來社）
- 田口純一「知の大冒険：ある在伯韓国人のライフヒストリー」（『文化と情報』2 p. 41-74. 椋山女学園大学短期大学部）
- 上田喜三郎「ハワイ日系人の生活史(31)：ハワイの日本語学校・立川冴氏の生活史(3)」（『太平洋学会』22(1-2) p. 50-68. 太平洋学会）
- 山岸美穂「レビュー：A. コルバン著『音の風景』」（『サウンドスケープ』1999(1) p. 113-116. 日本サウンドスケープ協会）
- 山下雅之「19世紀末国会議員の日常生活：日本とフランスの比較」（中 久郎(編)『社会学論集：持続と変容』 p. 26-42. ナカニシヤ出版 4800円）

## 24. 法 律

(Law)

- 森 重雄「自然法ないしは自然状態の理論の不自然性：歴史的市民社会生成の社会理論的検討」（青井和夫・高橋 徹・庄司興吉(編)『市民性の変容と地域・社会問題：21世紀の市民社会と共同性(国際化と内面化)』 p. 5-30. 梓出版社 3500円）

## 25. 民族問題・ナショナリズム (Economy)

- 阿久津昌三「現代国家のなかの伝統王国の再編成とその解釈：アサンテ王国の場合」（『アフリカ伝統王国研究Ⅰ（平成10、11年度文部省科学研究費補助金成果報告1基盤研究(A)（海外学術調査）「アフリカにおける伝統王国の社会変化の比較研究」』）
- 浅野慎一「神戸華僑の被災・避難・復興と相互援助」（岩崎信彦（編）『阪神・淡路大震災の社会学（第2巻）』 p. 248-268. 昭和堂 4700円）
- 合田美穂「新加坡の華人会館と華族青年：社会学的考察」（『八桂僑史』1999(4) p. 12-15. 広西華僑歴史学会）
- 合田美穂「シンガポールにおける2言語教育の社会的貢献とエスニック・アイデンティティ：華人青少年の意識調査からの考察」（『立命館言語文化研究』11(3) p. 61-68. 立命館大学国際言語文化研究所）
- 長谷川秀樹「コルシカ地域・自治主義運動の展開と「コルシカ方言」の形成」（西川長夫・渡辺公三（編）『世紀転換期の国際秩序と国民文化の形成』 p. 455-475. 柏書房 5800円）
- 長谷川秀樹「フランスにおける地域語の地位の現状について」（『立命館言語文化研究』10(5/6) p. 39-59. 立命館大学国際言語文化研究所）
- 樋口直人・高橋幸恵「ブラジル人コミュニティの制度的基盤：エスニック・ビジネスの担い手たち」（梶田孝道（編）『トランスナショナルな環境下での新たな移住プロセス：デカセギ10年を経た日系人の社会学的調査報告』 p. 79-109. 東京都 科学技術振興調整費報告書）
- 樋口直人・丹野清人「ハラル食品産業の研究：日本におけるイスラム食文化の定着」（『食文化研究助成の報告』9 p. 53-59. （財）味の素食文化センター）
- 樋口直人「個人戦略とエスニシティ」（『一橋論叢』121(2) p. 198-212. 日本評論社）
- 樋口直人「ブラジルにおける労働者送出システムの実態：デカセギ旅行社の形成と展開」（梶田孝道（編）『トランスナショナルな環境下での新たな移住プロセス：デカセギ10年を経た日系人の社会学的調査報告トランスナショナルな環境下での新たな移住プロセス』 p. 143-168. 東京都 科学技術振興調整費報告書）
- Ichijo, Atsuko. "When was the Nation?: the Scottish Case" 'ASEN Bulletin.' 17 p. 3-11. London: ASEN (Association for the Study of Ethnicity & Nationalism).
- Ichijo, Atsuko. "Scotland and Europe: Three Visions of Contemporary Scottish Nationalism" Brehony, Kevin J. and Naz Rassool (eds.) 'Nationalisms Old and New.' p. 208-220. Basingstoke, Hampshire: Macmillan.
- 五十嵐泰正「職場の同僚/部下としての外国人」（『大原社会問題研究所雑誌』491 p. 1-19. 法政大学大原社会問題研究所）
- 五十嵐泰正「元日本就労パキスタン人労働者の移動の軌跡：「外国人労働者問題」を越えて」（『移民研究年報』6 p. 21-41. 日本移民学会）
- 金 泰泳「在日外国人教育における〈民族〉の本質主義と非本質主義：在日朝鮮人子ども会を舞台に展開されるアイデンティティの「未完了性」ということ」（『人間科学研究』1 p. 31-46. 大阪大学大学院人間科学研究科）
- 小林真理「近代の「植民地支配」と国民構築：ポルトガルの事例」（庄司興吉（編）『共生社会の文化戦略：現代社会と社会理論：支柱としての家族・教育・意識・地域』 梓出版社）
- 金光清治「日系金光教信奉者の抑留とその諸相：一世信奉者の体験を中心にして」（『金光教学』39 p. 36-72. 金光教教学研究所 700円）
- ましこひでのり「戦前・戦後日本の言語事件史（戦後編）」（『ことばと社会：多言語社会研究』1 p. 198-211. 三元社）
- 宮内 洋「私はあなたの方のことをどのように呼べば良いのだろうか？在日韓国・朝鮮人？在日朝鮮人？在日コリアン？それとも？：日本のエスニシティ研究における（呼称）をめぐるアポリア」（『コリアン・マイノリティ研究』3 p. 5-28. 新幹社）
- 長坂知美・鮎川 潤「来日外国人少年にかかわる犯罪と非行」（『月刊少年育成』524 p. 20-27. 大阪少年補導協会）
- 中西直和「アポリジニの自己イメージと文化再生の戦略：北クイーンズランド・ジャブカイ・コミュニティでの実践」（『国際文化学』1 p. 61-80. 神戸大学国際文化学会）
- 仲野 誠「朝鮮初中級学校「復興」をめぐる」（岩崎信彦・鶴飼孝造・浦野正樹・辻 勝次・似田貝香門・野田 隆・山本剛郎（編）『阪神・淡路大震災の社会学第3巻：復興・防災まちづくりの社会学』 p. 218-232. 昭和堂 4600円）

- 新垣都代子「関西在住沖縄出身者の生活とアイデンティティ：1世・2世・3世の生活と意識に関する事例研究」（『地域社会学年報』11 p.120-138. 地域社会学会）
- 新垣都代子「関西在住沖縄系住民の生活と文化の世代的変遷：1世・2世・3世へのインタビューから」（『国際文化学』1 p.123-133. 神戸大学国際文化学会）
- Sekine, Yasumasa. "Communalism" Oshikawa, F. (eds.) 'South Asia under the Economic Reforms (JCAS Symposium Series 6) The Japan Center for Area Studies.' p.97-109.
- 関根康正「現代インド社会における宗教と政治：セキュラリズムとコミュニズムという難題」（古田元夫(編)『東南アジア・南アジア：地域自立への模索と葛藤(「南」から見た世界(2))』2 p.185-217. 大月書店）
- 谷 富夫「外国人住民施策の具体化にむけて：'97近畿自治体調査をもとに」（共同研究「国際化」チーム(編)『外国人住民施策の具体化』 p.121-138. (財)大阪府市町村振興協会）
- 谷 富夫「民族関係のフィールドワーク」（『ソシオロジ』135 p.105-113. 社会学研究会）
- 丹野清人・樋口直人「日系人の包摂様式と社会問題：複雑系としての移民研究に向けた試論」（梶田孝道(編)『トランスナショナルな環境下での新たな移住プロセス：デカセギ10年を経た日系人の社会学的調査報告』 p.18-40. 東京都 科学技術振興調整費報告書）
- 渡戸一郎「戦後日本における外国人政策の歴史的推移と課題」（駒井 洋(編)『新来外国人の行政需要と自治体の国際化政策との関連に関する研究』 p.37-64. 筑波大学社会科学系 非売 平成8-10年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(2)研究成果報告書）
- 山本薫子「『定住化する外国人』とは誰か：法的滞在資格との関連で」（『社会学論考』20 p.21-43. 東京都立大学社会学研究会）

## 26. 比較社会・地域研究〔エリアスタディ〕 (Comparative Study, Area Study)

- 中馬祥子「バッコック女性班：女性労働の実態調査報告」（桜井由躬雄(編)『百哉社通信 Vol.9』 p.241-246. 東京大学大学院人文社会系研究科南アジア東南アジア研究室ベトナム村落研究会）
- 古城利明「世界システムとヨーロッパおよびアジア」（庄司興吉(編)『世界社会と社会運動』 梓出版社）
- Hashimoto, Kazutaka. "A Sociological Concern on Vietnam Studies" 'Bulletin of Kanto Gakuin University.' 85 p.282-284. Society of Humanities Kanto Gakuin University.
- 市田(岩田)知子「ドイツにおける農村地域政策の展開」（田畑 保(編)『中山間の定住条件と地域政策』 p.297-323. 日本経済評論社 4700円）
- 池田寛二「経済危機下のインドネシア農村における社会変動」（井上俊一(編)『アジアのダイナミズム：経済と社会の変貌』 p.93-97(ENG), p.99-112(JPN). 日本大学総合科学研究所 非売品）
- 池田寛二「地域自立のための援助のあり方：コメント」（日本大学生物資源科学部国際地域研究所(編)『ポスト・グリーンレボリューション(Part2)』 p.87-97. 龍溪書舎 4000円）
- 小林和美「韓国村落悉皆調査の手法と経緯：大邱広域市近郊農村調査の記録」（『大阪教育大学紀要(第II部門)』48(1) p.27-49.)
- 三田千代子「ブラジル社会転換期の八〇年代：統計資料を中心に」（アンドラーデグスタボ・堀坂浩太郎(編)『変動するラテンアメリカ社会：「失われた10年」を再考する』 p.161-191. 彩流社 2800円）
- 三田千代子「ポルトガル語圏としての孤立と国家統合」（『アジア研ワールドトレンド』42 p.55-57. アジア経済研究所）
- 三田千代子「ブラジルとヨーロッパ思想：悲観論からナショナル・アイデンティティの形成へ」（嶺山道雄・中村雅治(編)『新しいヨーロッパ像をもとめて』 p.165-184. 同文館 3200円）
- 宮原浩二郎「リー・クアンユー：政治指導者の資質」（杉谷 滋(編)『シンガポール清廉な政府・巧妙な政策』 p.43-68. 御茶の水書房）
- 中筋由紀子「振る舞いと感覚の近代：(近代日本)の比較社会学的解明のための見取り図」（『日本文化論叢』7 p.49-65. 愛知教育大学総合科学課程国際文化コース選修）
- 野辺政雄「メルボルンにおけるインドネシア移民」（『岡山大学教育学部研究集録』111 p.75-85. 岡山大学教育学部）
- 野宮大志郎「社会運動の比較研究：その動向と方法論的問題」（社会運動論研究会・朴 容寛(編)『社会運動研究の新動向』 p.113-140. 成文堂 3000円）

- 荻野昌弘「ラップルズ思想：空間を作る論理」（杉谷 滋(編)『シンガポール：清廉な政府・巧妙な政策』 p.27-41. 御茶の水書房)
- 奥山眞知「パレスチナ人の周辺化をめぐる」（『寄せ場』12 p.213-228. れんが書房新社 2700円)
- 尾中文哉「進学と地域文化：東北タイ・コンケン県と南部国境地帯パタン県の事例」（『茨城大学人文部紀要社会科学論集』32 p.1-12. 茨城大学人文学部)
- 定松 文「公教育化と言語の「復権」：コルソウ語(コルシカ語)の誕生と構築」（『ことばと社会』2 p.26-43. 三元社)
- Sato, Yasuyuki. "Structure of Village and Logic of Islander (Shimanchu) in Yonaguni Island of Okinawa : Through an Acceptance of Outsider in Island" 'Studies in Humanities.' 100 p.45-67. Faculty of Humanities Niigata University.
- Sato, Yasuyuki. "A Consideration on Forming Community in Thai-Khmer Village : A Case Study of Kwashinarin Muban 1 in Surin Province, Thailand" 'Studies in Humanities.' 101 p.35-63. Faculty of Humanities Niigata University.
- 佐藤康行「沖縄・与那国島の村落構造に関する一考察：「よそ者」受容に見るシマの構造の理解を通して」（『村落社会研究』5(2) p.13-24. 日本村落研究学会)
- 高田峰夫「下士官ピール：バングラデシュのある聖者騒動をめぐる」（宮家 準(編)『民俗宗教の地平』 p.347-359. 春秋社)
- Tanno, Kiyoto. "Who Govern the Ethnic Migrant Labor Market in Japan? : Pakistani and Iranian Labor Turnover before and after 1990" 'Discussion Paper for the 5th International Symposium, JCAS Joint Research Project on Population Movement in the Modern World.' 4(3) p.1-25. National Museum of Ethnology.
- 戸谷 修「バリ村落におけるデサ・アダットとその変化」（『椋山女学園大学研究論集』30(社会科学篇) p.1-15. 椋山女学園大学)
- 坪内良博「『総合的地域研究』に向かって」（坪内良博(編)『総合的地域研究』を求めて』 p.2-18. 京都大学学術出版会)
- 山脇千賀子「人の移動・国家・生活の論理：ラテンアメリカと日本をつなぐもの」（清水 透(編)『南から見た世界(05)ラテンアメリカ：統合圧力と拡散のエネルギー』 p.241-273. 大月書店)
- 山脇千賀子「「チーノ」の創造：ペルーにおける中国系日系住民の生活技法をめぐる歴史社会的考察」（『社会学ジャーナル』24 p.63-77. 筑波大学社会学研究室)
- 吉野英岐「就業構造の変動期における農村開発：タイ東北部農村における女性を主体とした活動の変容と持続をめぐる」（国立婦人教育会館(編)『女性のエンパワーメントと開発：タイ・ネパール調査から』 p.143-163. 国立婦人教育会館 非売)

## 27. 差別問題

### (Discrimination Problems)

- 福岡安則「人権啓発の可能性：千葉県下の住民意識調査を参考にして」（『明日へ』20 p.8-11. 東京人権啓発企業連絡会広報委員会)
- 福岡安則・竹ノ下弘久「部落問題をめぐるアンビバレントな意識：1998年度千葉県内3市町住民意識調査から」（『埼玉大学紀要』35(1) p.9-24. 埼玉大学教養学部)
- 長谷川秀樹「『共和制モデル』とコルシカ「ナショナルリズム」：中野裕二著『フランス国家とマイノリティ』の批判的検討」（『立命館言語文化研究』10(5/6) p.259-279. 立命館大学国際言語文化研究所)
- 石倉康次「高齢者 運動と地域社会」（『部落』1999(9) p.6-15. 部落問題研究所)
- 小玉美意子・中 正樹・黄 允一「雑誌における女性被害者報道の分析：事例研究：「東京電力女性社員殺人事件」を「学習院大男子学生殺人事件」と比較する」（『武蔵社会学論集ソシオロジスト』1 p.1-38. 武蔵社会学会)
- 三浦耕吉郎「被差別部落で聞く」（満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』 p.68-78. 朝日新聞社 3000円)
- 野村浩也「差別としての同化：沖縄人という位置から」（『解放社会学研究』13 p.74-93. 日本解放社会学会)
- 奥田 均「被差別部落の土地に対する差別問題の研究(序論)」（『人権問題研究資料』15 p.75-93. 近畿大学人権問題研究所)
- 奥田 均「解放運動に夢とロマンを：新しい差別の現実認識と運動戦略の提案」（『部落解放』449 p.20-29. 解放出版社)

## 28. 性・世代 (Gender, Generation)

- 秋山憲治「人生の成熟と男女の暮らし方」(森 典子・上松由紀子・秋山憲治(編)『(新版)おもしろ男女共生の社会学』 p.23-39. 学文社)
- 浅川達人・古谷野亘・安藤孝敏・児玉好信「高齢者の社会関係の構造と量」(『老年社会科学』21(3) p.329-338. 日本老年社会科学会)
- 土場 学・小川葉子「母子関係における「主体化の力学」：ナンシー・チョドロ―The Reproduction of Mothering についてのノート」(『ポイエーシス』10 p.1-15. 九州大学文学部社会学研究室)
- 江原由美子「男子校高校生の性差意識：男女平等教育の空白域」(藤田英典・黒崎 勲・片桐芳男・佐藤 学(編)『教育学年報7：ジェンダーと教育』 p.189-218. 伊藤 昌宣 5300円)
- 藤崎宏子「ジェンダー・ジェネレーション：問題提起」(『岐阜を考える』100 p.102-104. 岐阜県産業経済研究センター)
- 井上輝子「女性学のセカンドステージとジェンダー研究」(『女性学研究』5 p.20-30. 勁草書房)
- 笠間千浪「ジェンダー秩序のなかの《ノイズ》の可能性：「性の越境」は攪乱の要因になりうるか否か」(『神奈川大学評論』32 p.121-137. 神奈川大学広報課)
- 片岡栄美「神奈川県における青年意識調査結果概要」(神奈川男女共同参画21プロジェクト(編)『自分さがし』のワールド・トリップ：ジェンダーを超えた新たな関係を求めて』 p.83-99. 横浜国立大学教育人間科学部)
- 河口和也「『ゲイ』が『男』を捨てるとき…」(篤森 樹(編)『はじめて語るメンズリブ批評』 p.187-210. 東京書籍 2000円)
- 河口和也「セクシュアリティの『応用問題』」(『現代思想』27(1) p.210-215. 青土社)
- 河口和也「エイズ時代における『同性愛嫌悪(ホモフォビア)』：『ゲイ・ストーリー・ユース』の事例を通して」(『解放社会学研究』13 p.27-52. 日本解放社会学会)
- Kendig, Hal, Wataru Koyano, Tatsuto Asakawa and Takatoshi Ando. "Social Support of Older People in Australia and Japan" 'Aging and Society.' 19 p.185-207. United Kingdom: Cambridge University Press.
- 木村涼子「少女小説の世界と女性性の構成」(花田達朗・吉見俊哉・スパークスコリン(編)『カルチュラル・スタディーズとの対話』 p.343-359. 新曜社 5500円)
- Koyano, Wataru. "Population Aging, Changes in Living Arrangement, and the New Long-term Care System in Japan" 'Journal of Sociology and Social Welfare.' 26 p.155-167.
- 黒木雅子「日系アメリカ女性の自己再定義：エスニシティ・ジェンダー・宗教の交錯」(『社会学評論』50(1) p.59-74. 日本社会学会 1500円)
- 黒木雅子「『女性の経験』をいかに語る事ができるか：フェミニスト調査研究のディレンマ」(『人間文化研究(京学都学園大学人間文化学会紀要)』1 p.55-72. 京学都学園大学人間文化学会)
- 草柳千早「関係の変容と個人：分化と恋愛をめぐって」(『三田社会学』4 p.17-32. 三田社会学会)
- 草柳千早「ネットワーク社会で「恋愛」はどうなる」(『恋愛学がわかる(アエラムック)』51 p.22-25. 朝日新聞社)
- 前田尚子「非親族からのソーシャルサポート」(折茂 肇(編)『新老年学(第2版)』 p.1405-1415. 東京大学出版会 36000円)
- ましこひでのり「制度としての戦争、メタファーとしての戦闘：男性原理/有事神話/資本制秩序/スポーツ/国民国家」(『木野評論』30 p.91-102. 京都精華大学情報館)
- 水嶋陽子「高齢男性の地域ネットワークからみた夫婦関係」(『人間科学研究』1 p.137-149. 大阪大学大学院人間科学研究科)
- 水嶋陽子「老年期親子の情緒的依存と社会的ネットワーク」(『季刊家計経済研究』42 p.57-62. (財)家計経済研究所)
- 森 俊太「韓国の高齢者の生きがい」(高齢者能力開発研究会(編)『高齢者の生きがいに関する国際比較研究』 p.55-74. 高齢者能力開発研究会)
- 森 俊太「フランスパリの高齢者の生きがい」(高齢者能力開発研究会(編)『高齢者の生きがいに関する国際比較研究』 p.1-14. 高齢者能力開発研究会)
- 牟田和恵「ジェンダーと社会：新たな社会システムをめざして」(満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』 p.127-141. 朝日新聞社)



- 牟田和恵「強姦神話」と近代のセクシュアリティの編成」（『記号学研究』19 p.143-151. 日本記号学会(東海大学出版会)
- 中田奈月「男性保育者をめぐる「保育」認識とその実践：面接調査の分析から」（『研究発表論文集』38 全国保母養成協議会）
- 中田奈月「性別職域分離とその統合：男性保育従事者の事例から」（『奈良女子大学社会学論集』6 p.285-296. 奈良女子大学社会学研究会）
- 中澤智恵「青年期の性(sexuality)形成に関する研究(1)：高校生の性知識および性意識の形成におけるマス・メディアの影響」（『東京学芸大学紀要第6部門』51 p.23-35.）
- 小笠原祐子「日本企業とジェンダー：現代社会の理解と認識のために」（小坂勝昭・椎野信雄(編)『テキスト社会学』p.44-57. ミネルヴァ書房 3000円）
- 佐藤文香「日米の女性兵士をめぐるジェンダー・イデオロギーの変遷：防衛/軍事組織の人事政策を中心に」（『女性学』7 p.132-152. 日米女性学会）
- 渋谷知美「立身出世と書生のセクシュアリティ：1880年代半ば～1890年代初頭の知識人の言論を中心に」（『東京大学大学院教育学研究科紀要』38 p.188-198.）
- 渋谷知美「『学生風紀問題』報道にみる青少年のセクシュアリティの問題化：明治年間の『教育時論』掲載記事を中心に」（『教育社会学研究』65 p.25-47. 東洋館出版社）
- 塩月亮子「ミクロネシア・ヤップ州における10代のセクシュアリティ：妊娠・出産現象からみた社会変容と歴史的持続性」（『日本女子大学人間社会学部紀要』9 p.209-225.）
- 武村真治・橋本迪生・古谷野巨・長田久雄「介護サービスが高齢者に及ぼす効果に関する介入研究：特別養護老人ホームにおける「声かけ」の効果の検証」（『老年社会科学』21(1) p.15-25. ワールド・プランニング）
- 堤かなめ「移住女性と「女性への暴力」：ジェンダーとエスニティの視点から」（田村慶子・篠崎正美(編)『アジアの社会変動とジェンダー』p.214-243. 明石書店）
- 堤かなめ・堤 明純・松崎百合子・平野(小原)裕子「移住女性のメンタルヘルスと心理社会的要因：1998年福岡県における調査より」（『九州国際大学教養研究』6(2) p.1-16.）
- 上野千鶴子「フェミニスト教育学の困難」（藤田英典・黒崎 勲・片桐芳雄・佐藤 学(編)『ジェンダーと教育(教育学年報7)』p.69-90. 世織書房）
- 上野千鶴子「英霊になる権利を女にも?：ジェンダー平等の罫」（『同志社アメリカ研究』35 p.47-57. 同志社大学アメリカ研究所）
- 上野千鶴子「「民族」か「ジェンダー」か?-強いられた対立：『ナショナリズムと慰安婦問題』その後」（『戦争責任研究』26 p.15-25. 日本の戦争責任資料センター）
- 鶴沢由美子「「専門職と女性」研究：日本語文献紹介をもとに」（『ジェンダー研究(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報)』18 p.133-161. お茶の水女子大学ジェンダー研究センター）
- 矢島正見「さまざまな性行為に対する大学生の意識」（『中央大学文学部紀要』179 p.1-47. 中央大学文学部）
- Yazawa, Sumiko and Yoko Kunihiro. "A Super-Aging Regional Community and the Feminization of Politics and Social Welfare: A Case Study of Oshima-cho, Yamaguchi Prefecture" Kitakyushu Forum on Asian Women (eds.) 'Journal of Asian Women's Studies.' 6/7 p.65-84.
- 矢澤澄子「わたちの市民運動とエンパワーメント：ローカルからグローバルへ」（鎌田とし子・矢澤澄子・木本喜美子(編)『ジェンダー(講座社会学14)』p.249-289. 東京大学出版会 3000円）
- 矢澤澄子・国広陽子・天童睦子「現代の父親の子育て意識と「父親アイデンティティ」：30代～40代の父親のライフスタイル調査から」（『東京女子大学社会学会紀要 経済と社会』27 p.17-40. 東京女子大学社会学会）

## 29. 知識・科学 (Knowledge, Science)

- 平林創太「相互行為における意味と理解：「理解社会学」再考」（『現代社会理論研究』9 p.61-71. 人間の科学社 2000円）
- 平林創太「アルフレッド・シュッツにおける多元的現実論と「われわれ」：ベルクソニアンとしてのシュッツ再考」（『武蔵大学社会学論集：ソシオロジスト』1 p.105-124. 武蔵社会学会）
- 小川慎一「相対主義が科学技術社会学にもたらした意義」（庄司興吉(編)『世界社会と社会運動：現代社会と社会理論：総体性と個性との媒介』p.145-164. 梓出版社 3500円）

- Satofuka, Fumihiko. "Editorial : Science and Society in East Asia" 'AI x Society.' 13(3) p.1-3. London: Springer-Verlag.
- 保田 卓「社会学者の立場：マンハイム、グールドナー、ルーマン」(『京都大学大学院教育学研究科紀要』45 p.57-66. 京都大学大学院教育学研究科)
- 保田 卓「第一次大戦後アメリカにおける「知能神話」の普及過程：雑誌記事の分析から」(『研究紀要：教育・社会・文化』6 p.1-13. 京都大学大学院教育学研究科(教育社会学・臨床社会学・生涯教育学・図書館情報学研究室))
- 米川英樹・原 清治・相原総一郎「会員調査にみる『知』の構造と学会の転期：会員の世代差と学会へのロイヤリティを中心に」(『教育社会学研究』64 p.75-100. 東洋館出版社)
- Yuma, Masahide, Reiko Okada, Yukiko Kada, Yukio Oonishi and Toshihiro Tanaka. "Research on Aquatic Biodiversity and Human Culture : Collaborative Studies with Residents of the Lake Biwa Region" Kawanabe, H., George W. Coulter and Anna C. Roosevelt (ed.) 'Ancient Lakes : Their Cultural and Biological Diversity.' p. 303-315. Belgium: Kenobi Publication. 100\$

### 30. 余暇・スポーツ (Leisure, Sports)

- 橋爪大三郎「幻想を捨て出直せ：オリンピック招致以前に考えるべきことがある」(文芸春秋(編)『日本の論点2000』 p.762-765. 文芸春秋)
- 井上 俊「スポーツの輸出：柔道の場合」(青木 保・川本三郎・筒井清忠・御厨 貴・山折哲雄(編)『大衆文化とマスメディア(近代日本文化論7)』 p.19-37. 岩波書店)
- 井上 俊「文化としてのスポーツ」(井上 俊・亀山佳明(編)『スポーツ文化を学ぶ人のために』 p.1-19. 世界思想社)
- 加藤朋之「サッカーと場所の記憶：観戦にやって来る人々」(『季刊 iichiko』52 p.90-96. 日本ヴェリエールアートセンター)
- 北矢行男「ベースボール・ルネッサンス：プロ野球改革試案」(野球文化学会(編)『ベースボールロジー』 p.22. 野球文化学会 1500円)
- 須田直之「レジャー社会学の理論的進化」(『雪国環境研究』5 p.87-131. 青森大学雪国環境研究所)
- トンプソンリー「ポストモダンのスポーツ」(井上 俊・亀山佳明(編)『スポーツ文化を学ぶ人のために』 p.246-263. 世界思想社)

### 31. 環 境 (Environment)

- 足立重和「地域環境運動の意志決定と住民の総意：岐阜県X町の長良川河口堰建設反対派の事例から」(『環境社会学研究』5 p.152-165. 新曜社)
- Hasegawa, Koichi. "Global Climate Change and Japanese Nuclear Policy" 'International Journal of Japanese Sociology.' 8 p.183-197. Japan Sociological Society.
- 橋爪大三郎・米本昌平「科学技術は地球を救えるか?：21世紀の社会・環境・人口問題を考える」(『公研』37(4)通巻428号 p.22-35. 公益産業研究調査会)
- 堀田燕子「自然保護行政の現状と課題：長野県北信地域を事例として」(『都市問題』90(11) p.95-115. 東京市政調査会)
- Iijima, Nobuko. "The Environmental Impact of Industrial Development in Asia and Australia and the Potential for Victim Empowerment : Lessons from the Itai-Itai Disease" Nogawa, Koji, Mitsuo Kurachi and Minoru Kasuga (ed.) 'Advances in the Prevention of Environmental Cadmium Pollution and Countermeasures.' p.228-234. Eiko Laboratory.
- 飯島伸子「廃棄物問題と地域環境主義：産業廃棄物に関する自治体調査報告(その1)」(『総合都市研究』69 p.5-17. 東京都立大学都市研究所)
- 池田寛二「環境危機とモダニティのゆくえ」(『情況』第2期10(9) p.6-23. 情況出版)

- 井上孝夫「環境問題のからくり」(玉水俊哲・矢澤修次郎(編)『社会学のよろこび：生活のなかから考える』 p.121-144. 八千代出版 2400円)
- 石上正文「社会・文化環境としての自然環境」(竹市明弘・渡辺雄三・早川 勇(編)『心とコミュニケーション：精神環境の探究』 p.131-138. 勁草書房 2400円)
- 嘉田由紀子「環境教育の日本型方式を求めて：日米湖沼保全活動の比較の中で」(『環境と公害』29(2) p.24-31. 岩波書店 1580円)
- 嘉田由紀子・岡田玲子・小坂育子・荒井紀子・田中敏博「地域住民が調べる水文化の変遷：琵琶湖周辺でのコミュニティ水環境カルテの試み」(『環境技術』28(10) p.691-697. 環境技術研究協会 1680円)
- 角 一典・成 元哲・樋口直人・中澤秀雄・水澤弘光「環境リスクの歴史的变化に関する社会的分析」(財団法人消費生活研究所(編)『持続可能な社会と地球環境のための研究助成：1998年度研究成果論文集』 p.25-51. 財団法人消費生活研究所 1000円)
- 松村和則「山村再生と環境保全運動：「自由文化空間」と「よそ者」の交錯」(『環境社会学研究』5 p.21-36. 新曜社)
- 満田久義「持続可能な社会論：持続可能な社会の担い手とは」(財団法人消費生活研究所(編)『98年度「持続可能な社会と地球環境のための研究助成」研究成果論文集』 p.287-320. 消費生活研究所)
- 満田久義・青木康容(編)「環境社会学とはなにか(17章 エコロジーと社会)」(満田久義・青木康容(編)『社会学への誘い』 p.221-235. 朝日新聞社 3000円)
- 大山信義「農村観光地における幻想空間と社会的ジレンマ」(『札幌国際大学紀要』30 p.81-90. 札幌国際大学)
- 篠木幹子「環境配慮行動と経営方針：宮城県事業所調査の分析」(『社会学研究』66 p.73-91. 東北社会学研究会)
- 篠木幹子「牛乳パックのリサイクルに対するスーパーの取り組み：環境配慮行動の特徴と企業の対応に注目して」(『社会学年報』28 p.77-98. 東北社会学会)
- Tadokoro, Kyoko. "A Change of Nature Conservation : From the Viewpoint of Legislation, Problems and Activities" 'Bulletin of Nagano Nature Conservation Research Institute.' 2 p.43-53. Nagano Nature Conservation Research Institute.
- 田所恭子「阿賀野川流域における生活世界の変容」(飯島伸子・松橋晴俊(編)『新潟水俣病問題：加害と被害の社会学』 p.157-178. 東信堂 3800円)
- 鳥越皓之「楽しみの自然論：嵐山」(『環境情報科学』28(1) 環境情報科学センター)
- 鶴飼照喜「産業廃棄物問題と自治体行政の課題：長野県の事例を通して」(『総合都市研究』69 p.61-77. 東京都立大学都市研究所)
- 若狭清紀「環境と人間」(秋元律郎・坂田正顕(編)『現代社会と人間』 p.219-237. 学文社)

### 33. 総論・概説 (Sociology, General)

- 細辻恵子「作田啓一『価値の社会学』(1972年)」(筒井清忠(編)『日本の歴史社会学』 p.231-247. 岩波書店 3500円)
- 矢澤修次郎「社会学のよろこび」(玉水俊哲・矢澤修次郎(編)『社会学のよろこび：生活のなかから考える』 p.231-240. 八千代出版)

### 99. その他 (Others)

- 古田隆彦「人口動態から世代別マーケットの行方を読む」(『THE21』1999(3) p.42-44. PHP 研究所)
- 浜口晴彦「生きがいさがし」(大島 清(監修)・明治生命厚生事業団(編)『心とからだの健康設計』 307p. 大蔵省印刷局 1660円)
- 野辺政雄「専門科目「社会学 A」の授業の改善と学生による授業評価について」(『岡山大学教育学部研究集録』110 p.121-129. 岡山大学教育学部)
- 奥田道大「磯村英一：同時代と未来の都市への未完の問い」(東洋大学社会学部40周年記念論集編纂委員会(編)『東洋大学社会学部40周年記念論集』 p.123-134. 東洋大学社会学部 非売品)

奥田道大「米林富男：「東洋大学社会学部」の救い主」（東洋大学社会学部40周年記念論集編纂委員会（編）『東洋大学社会学部40周年記念論集』 p. 135-144. 東洋大学社会学部 非売品）

データベース委員会構成 (2000～2003年) 所属は本書発行時点

委員長	板倉 達文 (名古屋大学大学院環境学研究科)
副委員長	浅野 慎一 (神戸大学発達科学部)
委員	老川 寛 (広島国際学院大学現代社会学部)
委員	佐藤 裕 (富山大学人文学部)
委員	田中 重人 (東北大学大学院文学研究科)
委員	三重野卓 (山梨大学教育人間科学部)
委員	安田 雪 (社会ネットワーク研究所)
専門委員	岩本 健良 (金沢大学文学部)
専門委員	河村 則行 (名古屋大学大学院環境学研究科)
専門委員	田淵 六郎 (名古屋大学大学院環境学研究科)

前期データベース委員会構成 (1997～2000年) 所属は在任当時

委員長	船橋 晴俊 (法政大学社会学部)
副委員長	落合 恵美子 (国際日本文化研究センター)
委員	稲葉 昭英 (東京都立大学人文学部)
委員	岩本 健良 (金沢大学文学部)
委員	佐藤 裕 (富山大学人文学部)
委員	安田 雪 (立教大学社会学部)

(非売品： 本冊子を希望の方は、B5判の入る大きさの封筒に切手200円分を貼り、返送先郵便番号・住所・氏名を明記し、下記の学会事務局まで送付してください。)

---

(ISSN 1345-580X)

### 社会学文献目録

Bibliography of Japanese Sociology  
(Vol. 2. 1999年版)

2001年10月1日 第1版第1刷 印刷

2001年10月5日 第1版第1刷 発行

編集： 日本社会学会データベース委員会

発行： 日本社会学会

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学文学部社会学研究室内

TEL 03-5841-8933 FAX 03-5841-8932

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jss/>

印刷： (有) タカラ印刷

**Database Committee Members (2000–2003)**

Chair

Itakura, Tatsubun (Nagoya University)

Vice Chair

Asano, Shinichi (Kobe University)

Members

Oikawa, Hiroshi (Hiroshima Kokusai Gakuin University)

Satoh, Yutaka (Toyama University)

Yasuda, Yuki (Center for the Network Analysis)

Mieno, Takashi (Yamanashi University)

Tanaka, Sigeto (Tohoku University)

Special Members

Iwamoto, Takeyoshi (Kanazawa University)

Kawamura, Noriyuki (Nagoya University)

Tabuchi, Rokuro (Nagoya University)

Not for sale.

Those who want to get a copy of bibliography,  
send an envelope (B-5 or legal paper size) with  
200-yen postage stamp, your name and address  
to Japan Sociological Society.

(ISSN 1345-580X)

**Bibliography of Japanese Sociology**

(Vol. 2. 1999 edition)

First Printing, October 2001

Editor Database Committee, Japan Sociological Society

Publisher Japan Sociological Society

Department of Sociology, University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, JAPAN

TEL +81-3-5841-8933 FAX +81-3-5841-8932

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jss/>

Printer Takara Printing Co., JAPAN

© 2001 Japan Sociological Society